

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4442269号
(P4442269)

(45) 発行日 平成22年3月31日 (2010.3.31)

(24) 登録日 平成22年1月22日 (2010.1.22)

(51) Int.Cl. F I
A 6 3 F 7/02 (2006.01)
 A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z
 A 6 3 F 7/02 3 3 4

請求項の数 5 (全 57 頁)

| | | | |
|-----------|-------------------------------|-----------|----------------------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2004-78038 (P2004-78038) | (73) 特許権者 | 000144522 |
| (22) 出願日 | 平成16年3月18日 (2004.3.18) | | 株式会社三洋物産 |
| (65) 公開番号 | 特開2005-261637 (P2005-261637A) | | 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 |
| (43) 公開日 | 平成17年9月29日 (2005.9.29) | (74) 代理人 | 100111095 |
| 審査請求日 | 平成19年3月6日 (2007.3.6) | | 弁理士 川口 光男 |
| | | (72) 発明者 | 飯島 航 |
| | | | 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社 三洋物産 内 |
| | | (72) 発明者 | 保谷 誠 |
| | | | 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社 三洋物産 内 |
| | | 審査官 | 安久 司郎 |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技に関する所定の制御を司る制御手段及び電気部品との間で信号を送信又は受信を行うための端子部を具備してなる制御基板と、

第1被包壁部及び当該第1被包壁部に対し略直交する第2被包壁部を有し、前記端子部が前記第1被包壁部から露出かつ突出した状態で前記制御基板を被包する被包部材とを備え、前記被包部材が相手先部材に装着されてなり、前記端子部には前記電気部品に電氣的に接続されてなるケーブルコネクタのコネクタが接続された遊技機において、

少なくとも前記端子部に接続された前記コネクタを覆う被覆手段を、前記被包部材及び前記相手先部材の少なくとも一方に係止状態で取付けるとともに、

前記被覆手段は、前記コネクタの抜け方向側の面を覆う略矩形状のカバー壁部と、

前記カバー壁部の一側縁から、当該カバー壁部に対し直交する方向に突出するアーム部と、

前記アーム部の先端部に設けられた係止爪と、

前記カバー壁部の前記アーム部とは別の位置から、当該カバー壁部に対し直交する方向に延びる支持壁部とを具備し、

前記被覆手段の取付状態においては、前記支持壁部が、前記第2被包壁部と前記コネクタ又は端子部とによりほぼ挟持されるよう構成したことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

遊技に関する所定の制御を司る制御手段及び電気部品との間で信号を送信又は受信を行

10

20

うための端子部を具備してなる制御基板と、

第1被包壁部及び当該第1被包壁部に対し略直交する第2被包壁部を有し、前記端子部が前記第1被包壁部から露出かつ突出した状態で前記制御基板を被包する被包部材とを備え、前記被包部材が相手先部材に装着されてなり、前記端子部には前記電気部品に電氣的に接続されてなるケーブルコネクタのコネクタが接続された遊技機において、

少なくとも前記端子部に接続された前記コネクタを覆う被覆手段を取付けるとともに、前記被覆手段は、前記コネクタの抜け方向側の面を覆う略矩形状のカバー壁部と、前記カバー壁部の一側縁から、当該カバー壁部に対し直交する方向に突出するアーム部と、

前記アーム部の先端部に設けられ、前記相手先部材に対し係止される係止部と、前記カバー壁部の他側縁から、当該カバー壁部に対し直交する方向に延び、先端が前記被包部材の前記第1被包壁部に当接する支持壁部とを具備し、

前記被覆手段の取付状態においては、前記支持壁部が、前記第2被包壁部と前記コネクタ又は端子部とによりほぼ挟持されるよう構成したことを特徴とする遊技機。

【請求項3】

前記被覆手段のカバー壁部及び前記被包部材双方に跨るようにして封印手段を取着したことを特徴とする請求項1又は2に記載の遊技機。

【請求項4】

前記封印手段は、剥離に際し痕跡が残る痕跡残存シールであることを特徴とする請求項3に記載の遊技機。

【請求項5】

前記コネクタと前記カバー壁部との距離を、前記コネクタの取り外しに必要な距離よりも短く設定したことを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ機等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

遊技機的一种としてパチンコ機等がある。パチンコ機においては、例えば遊技領域に各種入賞口が設けられ、各入賞口へ遊技球が入球することに基づき、遊技球の払い出しがなされる等の各種遊技状態が導出される。各入賞口への遊技球の入球は、入球検出手段によって検出される。そして、その検出信号が制御基板の制御手段へと入力される（例えば、特許文献1参照。）。

【0003】

従来、上記制御基板は、例えばパチンコ遊技機では遊技盤の背面側に配設される専用の基板ボックス内に被包されている。そして、上記入球検出手段や可変入賞装置の駆動手段をはじめとする電気部品と、制御手段との間は、直接的に、或いは、中継基板等を介して、ケーブルコネクタにより接続されている。すなわち、制御基板には、ケーブルコネクタのコネクタが接続される端子部が設けられており、当該端子部は前記接続を許容するべく基板ボックスから外部に露出している。

【特許文献1】特開2000-254283号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところが、近年、上記制御基板等に関する種々の悪質な行為が問題となっている。悪質な行為としては、例えば、基板ボックスを開放させ、正規の制御手段を別途改造された制御手段と取り替える行為、基板ボックス自体を取り外し、別途改造された基板ボックスに取り替える行為、ケーブルコネクタや端子部に別途の基板を取付ける、所謂「ぶら下げ」

10

20

30

40

50

と称される行為等が挙げられる。

【0005】

このような悪質な行為を抑制するべく、種々の対策が講じられているのも事実である。例えば、基板ボックスを封印したり、或いは、ボックスベースとボックスカバーとに跨るように封印シールを貼付したりするといった具合である。

【0006】

しかしながら、このような対策を施したとしても、悪質な行為が後を絶たないというのが実情であり、特に昨今ではコネクタ等に関する悪質行為が目立つようになってきている。尚、かかる課題は、パチンコ機に限られず、スロットマシン等の他の遊技機にも内在する深刻なものである。

10

【0007】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、端子部を具備する制御基板を有してなる遊技機において、悪質な行為の抑止を図ることのできる遊技機を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

以下、上記目的等を解決するのに適した各手段につき項分けして説明する。なお、必要に応じて対応する手段に特有の作用効果等を付記する。

【0009】

手段1. 遊技に関する所定の制御を司る制御手段及び電気部品との間で信号を送信又は受信を行うための端子部を具備してなる制御基板と、

20

第1被包壁部及び当該第1被包壁部に対し略直交する第2被包壁部を有し、前記端子部が前記第1被包壁部から露出かつ突出した状態で前記制御基板を被包する被包部材とを備え、前記被包部材が相手先部材に装着されてなり、前記端子部には前記電気部品に電氣的に接続されてなるケーブルコネクタのコネクタが接続された遊技機において、

少なくとも前記端子部に接続された前記コネクタを覆う被覆手段を、前記被包部材及び前記相手先部材の少なくとも一方に係止状態で取付けるとともに、

前記被覆手段は、前記コネクタの抜け方向側の面を覆う略矩形状のカバー壁部と、

前記カバー壁部の一側縁から、当該カバー壁部に対し直交する方向に突出するアーム部と、

30

前記アーム部の先端部に設けられた係止部と、

前記カバー壁部の前記アーム部とは別の位置から、当該カバー壁部に対し直交する方向に延びる支持壁部とを具備し、

前記被覆手段の取付状態においては、前記支持壁部が、前記第2被包壁部と前記コネクタ又は端子部とによりほぼ挟持されるよう構成したことを特徴とする遊技機。

【0010】

手段1によれば、遊技に関する所定の制御を司る制御手段及び電気部品との間で信号を送信又は受信を行うための端子部を具備してなる制御基板が、被包部材で被包される。そして、当該被包部材が相手先部材に装着される。被包部材の被包状態にあっても、制御基板の端子部は、第1被包壁部から露出かつ突出した状態にあり、当該端子部には前記電気部品に電氣的に接続されてなるケーブルコネクタのコネクタが接続される。さて、手段1では、少なくとも端子部に接続されたケーブルコネクタのコネクタが被覆手段で覆われ、当該被覆手段は、被包部材及び前記相手先部材の少なくとも一方に係止状態で取付けられる。特に、被覆手段のカバー壁部により、コネクタの抜け方向側の面が覆われているため、コネクタを抜くことが困難となる。また、支持壁部が被包部材に支持された状態で、カバー壁部の一側縁から、当該カバー壁部に対し直交する方向に突出するアーム部の先端部に設けられた係止部が、相手先部材等に係止されることで、被覆手段が取付けられているため、基本的には前記係止部による係止を解除しない限りは、被覆手段の取り外しができず、かかる意味でもコネクタの取り外しが困難となる。しかも、手段1では、被覆手段の取付状態においては、支持壁部が、第2被包壁部及びコネクタ（又は端子部）によりほぼ

40

50

挟持されるよう構成されている。このため、支持壁部を傾動させることが事実上不能となり、係止部の係止を解除せずに被覆手段を取り外すことが事実上できない。このように、ケーブルコネクタのコネクタを不正に取り外した上で悪質な行為を行おうとしても、コネクタの取り外しが困難となっていることから、そのような行為を抑止することができる。そればかりか、被覆手段を取り外そうとした場合には、上記のとおり、係止部の係止を解除せざるを得ないことから、当該係止部の係止を解除できなくすることで、或いは係止を解除した場合に痕跡が残るよう構成することで、或いは被覆手段を取り外した場合に痕跡が残るよう構成することで、万が一被覆手段を取り外した場合には、何らかの形跡残り、それを確認することで不正行為を容易に発見することができる。そのため、不正行為の直接的な防止はもとより、不正行為を早期発見できるという側面からも不正行為の抑止を図ることができる。

10

【0011】

なお、「前記支持壁部が、前記第2被包壁部と前記コネクタ又は端子部とによりほぼ挟持される」に代えて、「前記支持壁部が、前記前記第2被包壁部の壁面と前記コネクタ又は端子部側面とにほぼ当接する」こととしてもよいし、「前記支持壁部は、前記第2被包壁部と前記コネクタ又は端子部との間に位置し、かつ、前記支持壁部の厚みが前記第2被包壁部と前記コネクタ又は端子部との間の距離（隙間）とほぼ同等である」こととしてもよい（以下、各手段において同様）。

【0012】

手段2．遊技に関する所定の制御を司る制御手段及び電気部品との間で信号を送信又は受信を行うための端子部を具備してなる制御基板と、

20

第1被包壁部及び当該第1被包壁部に対し略直交する第2被包壁部を有し、前記端子部が前記第1被包壁部から露出かつ突出した状態で前記制御基板を被包する被包部材とを備え、前記被包部材が相手先部材に装着されてなり、前記端子部には前記電気部品に電氣的に接続されてなるケーブルコネクタのコネクタが接続された遊技機において、

少なくとも前記端子部に接続された前記コネクタを覆う被覆手段を取付けるとともに、前記被覆手段は、前記コネクタの抜け方向側の面を覆う略矩形状のカバー壁部と、

前記カバー壁部の一側縁から、当該カバー壁部に対し直交する方向に突出するアーム部と、

前記アーム部の先端部に設けられ、前記相手先部材に対し係止される係止部と、

30

前記カバー壁部の他側縁から、当該カバー壁部に対し直交する方向に延び、先端が前記被包部材の前記第1被包壁部に当接する支持壁部とを具備し、

前記被覆手段の取付状態においては、前記支持壁部が、前記第2被包壁部と前記コネクタ又は端子部とによりほぼ挟持されるよう構成したことを特徴とする遊技機。

【0013】

手段2においても、基本的には、手段1と同様の作用効果が図られる。また特に、手段2では、被覆手段の係止部が相手先部材に係止状態で取付けられる。この場合、被覆手段及び相手先部材間には、制御基板を被包する被包部材が存在することから、被覆手段を取り外さない限りは相手先部材から被包部材を取り外すことができない。そのため、コネクタを取り外さなければ被包部材を取り外すことができないのは勿論ではあるが、上記側面からも、被包部材を別途の改造品に取り替えるといった悪質行為をより直接的に防止することができる。さらに、支持壁部の先端が被包部材の第1被包壁部に当接するため、当該当接により、上記係止部による係止状態がより安定したものとなる。主として上記係止部による係止は、被覆手段の抜け方向への移動を規制するものであるが、支持壁部が、第2被包壁部とコネクタ又は端子部とによりほぼ挟持されている構成上、支持壁部及びカバー壁部ともに、抜け方向に交わる方向への移動も規制されることとなり、より一層被覆手段の取り外しが困難なものとすることができる。

40

【0014】

手段3．前記被覆手段が取外された場合に限り、前記コネクタの接続解除が許容されるよう構成したことを特徴とする手段1又は2に記載の遊技機。

50

【 0 0 1 5 】

手段 3 によれば、被覆手段が取外された場合に限り、コネクタの接続解除が許容される。換言すれば、被覆手段が取外されない限り、ケーブルコネクタのコネクタの接続を解除することができない。従って、コネクタを取り外すことによる不正をより確実に抑止することができる。

【 0 0 1 6 】

手段 4 . 前記被覆手段の取付状態にあつては、当該被覆手段を破壊することによってのみ前記コネクタの取外しが許容されるよう構成したことを特徴とする手段 1 乃至 3 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 1 7 】

手段 4 によれば、被覆手段を破壊しない限りはコネクタを取外すことができない。このため、コネクタを取外す等の不正があつた場合に、破壊という明確な痕跡が残るため、上記作用効果がより確実に奏されることとなる。なお、「前記被覆手段の取付後においては、当該被覆手段を破断しない限りは前記コネクタの取外しが禁止されるよう構成」してもよい。

【 0 0 1 8 】

手段 5 . 前記被覆手段のカバー壁部及び前記被包部材双方に跨るようにして封印手段を取着したことを特徴とする手段 1 乃至 4 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 1 9 】

手段 5 によれば、被覆手段及び被包部材双方に跨るようにして封印手段が取着されていることから、万が一被覆手段を取り外した場合には、封印手段に何らかの形跡が残り、それを確認することで不正行為を容易に発見することができる。そのため、上述したとおり、不正行為を早期発見できるという側面からの不正行為の抑止という効果をより確実に奏せしめることができる。

【 0 0 2 0 】

手段 6 . 前記被覆手段のカバー壁部と前記被包部材の一部とを隣接状態かつ略面一状態となるように構成し、当該略面一となる部位に、前記カバー壁部及び前記被包部材双方に跨るようにして封印手段を取着したことを特徴とする手段 1 乃至 5 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 2 1 】

手段 6 によれば、被覆手段の一部と被包部材の一部とが隣接状態かつ略面一状態となるよう構成され、当該略面一となる部位に、被覆手段及び被包部材双方に跨るようにして封印手段が取着される。従って、封印手段がシート状の貼付体である場合にはその貼付面ほぼ全域を有効に、かつ容易に貼付でき、封印手段の取着状態の安定化を図ることができる。

【 0 0 2 2 】

手段 7 . 前記封印手段は、剥離に際し痕跡が残る痕跡残存シールであることを特徴とする手段 5 又は 6 に記載の遊技機。

【 0 0 2 3 】

手段 7 によれば、封印手段が痕跡残存シール（封印シール）であるため、剥離に際し痕跡が残る。このため、上述した作用効果がより確実に奏される。尚、痕跡残存シールの構成については、特に限定されるものではなく、剥離を行った場合に何らかの痕跡が外観として残ればよいという趣旨である。例えば、強引に剥離しようとした場合にさらにそのことが痕跡となって残存しうるような複数の打抜部（切れ込み）が設けられた封印シールが挙げられる。勿論、当該シールには、メーカー名や機種名、製造年月日、製造番号等の固有の情報を付しておいてもよいし、所謂ホログラムシールであってもよい。この場合、別のシールに取り替えられた場合には、情報を対比することで不正行為が行われたか否かを確認することができる。また、「当該痕跡残存シールの少なくとも所定部位は、透視性を有していること」としてもよい。この場合、カバー壁部や被包部材が透視性を有することを条件に、内部のコネクタ等の接続状況を確認でき、シールが貼付されていることに起因

10

20

30

40

50

して内部状況を確認できないといった不具合を払拭することができる。

【0024】

手段8．少なくとも前記カバー壁部には、前記封印手段の取着位置合わせ用の位置合わせ手段が設けられていることを特徴とする手段5乃至7のいずれかに記載の遊技機。

【0025】

手段8によれば、位置合わせ手段の存在により、作業者が容易に取着作業を進めることができ、作業効率の向上を図ることができる。また、不正行為者が別の被覆手段に不正に取り替えたような場合に、不正品に位置合わせ手段がないことに基づき不正行為等を発見することもできる。なお、位置合わせ手段としては、例えば、封印手段貼付用の凹部や、突起、刻印、目印等が挙げられる。

10

【0026】

手段9．前記コネクタと前記カバー壁部との距離を、前記コネクタの取り外しに必要な距離（差込量）よりも短く設定したことを特徴とする手段1乃至8のいずれかに記載の遊技機。

【0027】

手段9によれば、被覆手段が取外されない限り、ケーブルコネクタのコネクタの接続を解除することができなくなり、手段3に記載の作用効果がより確実に奏される。

【0028】

手段10．前記被包部材は、箱状をなし、かつ、当該箱状の被包部材の一側縁が鉤状に形成されることで、前記第1被包壁部及び前記第2被包壁部が構成されていることを特徴とする手段1乃至9のいずれかに記載の遊技機。

20

【0029】

手段10によれば、鉤状に形成された部位に設けられるコネクタ等を覆うため、被覆手段が被包部材から大きく逸脱したり膨出したりすることによって、他の装置等の設置スペースを阻害する等の不具合が生じにくい。また、係止部による係止を被包部材の裏側（相手先手段）に対して行うのに別途複雑な加工等を要さず、かかる意味においても都合がよい。尚、「鉤状」とあるのは「断面略L字状」という意味でもある。

【0030】

手段11．前記電気部品は遊技者の利益に関わる複数の部品であって、前記端子部は、前記各電気部品との間で信号を送信又は受信を行うべく複数存在し、

30

前記被覆手段は複数の端子部に接続された複数のケーブルコネクタのコネクタを覆うものであることを特徴とする手段1乃至10のいずれかに記載の遊技機。

【0031】

手段11のように、複数の端子部に接続された複数のケーブルコネクタのコネクタが1つの被覆手段で覆われる構成とすることで、構造の煩雑化を防止できる。また、上記のように一括して覆う構成とすることで検査等をより円滑に行うことができる。

【0032】

手段12．前記電気部品は、遊技領域に設けられ遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる起因となる入球手段に対応して設けられた入球検出手段を含むことを特徴とする手段11に記載の遊技機。

40

【0033】

手段12によれば、入球検出手段用のケーブルコネクタのコネクタ等に関する不正行為をより確実に防止できる。

【0034】

手段13．前記電気部品は、遊技領域に設けられ遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる際に作動させられる可変入賞装置に対応して設けられた駆動手段を含むことを特徴とする手段11又は12に記載の遊技機。

【0035】

手段13によれば、可変入賞装置に対応して設けられた駆動手段（例えばソレノイド、モータ）用のケーブルコネクタのコネクタ等に関する不正行為をより確実に防止できる。

50

【 0 0 3 6 】

手段 1 4 . 前記電気部品は、前記制御手段のリセットに関わる情報を遊技場関係者に教示するための装置に対応して設けられた教示制御手段を含むことを特徴とする手段 1 1 乃至 1 3 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 3 7 】

昨今では、制御手段のリセット行為を行った上で、不正にタイミングを同期させ、所謂特別遊技状態を発生させるという手口による不正行為が行われるようになっている。そして、かかる行為の横行を抑制するべく、制御手段のリセット行為が行われた場合には、それに関する情報を教示制御手段へ出力し、教示するための装置を介して遊技場関係者等に教示させることが考えられる。この点、手段 1 4 によれば、上記教示制御手段用のケーブルコネクタのコネクタを覆うことで、当該コネクタ等に関する不正行為をより確実に防止できる。

10

【 0 0 3 8 】

手段 1 5 . 前記被覆手段は、前記カバー壁部に直交し、前記アーム部及び支持壁部間を連結する側壁部を具備し、前記被覆手段の取付状態においては、前記側壁部が、前記第 1 被包壁部にほぼ当接するよう構成したことを特徴とする手段 1 乃至 1 4 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 3 9 】

手段 1 5 によれば、より一層の取付状態の安定化を図ることができる。

【 0 0 4 0 】

20

手段 1 6 . 手段 1 乃至 1 5 のいずれかに記載の遊技機に適用される被覆手段。

【 0 0 4 1 】

以下に、上記各手段が適用される各種遊技機の基本構成を示す。

【 0 0 4 2 】

A . 上記各手段における前記遊技機は弾球遊技機であること。より詳しい態様例としては、「遊技者が操作する操作手段（遊技球発射ハンドル）と、当該操作手段の操作に基づいて遊技球を弾いて発射する球発射手段（発射モータ等）と、当該発射された遊技球を所定の遊技領域に導く球通路（レールユニットの球案内通路）と、前記遊技領域内に配置された各遊技部品（一般入賞口、可変入賞装置、作動口、可変表示ユニット等）とを備えた弾球遊技機」が挙げられる。

30

【 0 0 4 3 】

B . 上記各手段における前記遊技機は略鉛直方向に延びる遊技領域を備えた弾球遊技機であること。より詳しい態様例としては、「遊技者が操作する操作手段（遊技球発射ハンドル）と、当該操作手段の操作に基づいて遊技球を弾いて発射する球発射手段（発射モータ等）と、当該発射された遊技球を略鉛直方向に延びる所定の遊技領域（例えば遊技領域は遊技盤面等により構成される）に導く球通路（レールユニットの球案内通路）と、前記遊技領域内に配置された各遊技部品（一般入賞口、可変入賞装置、作動口、可変表示ユニット等）とを備え、前記遊技領域を流下する遊技球の挙動を視認可能に構成されてなる弾球遊技機。」が挙げられる。

【 0 0 4 4 】

40

C . 上記各手段における前記遊技機は、遊技領域の拡張されてなる弾球遊技機であること。より詳しい態様例としては、「後述する発明の実施形態に記載された従来に比べて遊技領域を拡張するための技術的構成のうち少なくとも 1 つを含んでなる弾球遊技機。」が挙げられる。

【 0 0 4 5 】

D . 上記各手段における前記遊技機は、可変表示装置を備えた弾球遊技機であること。より詳しい態様例としては、「遊技者が操作する操作手段（遊技球発射ハンドル）と、当該操作手段の操作に基づいて遊技球を弾いて発射する球発射手段（発射モータ等）と、当該発射された遊技球を所定の遊技領域（例えば遊技領域は遊技盤面等により構成される）に導く球通路（レールユニットの球案内通路）と、前記遊技領域内に配置された作動口、

50

可変表示装置及び可変入賞装置とを備え、前記作動口へ遊技球の入賞が検知されることに基づいて、前記可変表示装置に表示される識別情報（図柄）を変動表示せしめ、所定時間後停止表示させるとともに、停止表示された識別情報（図柄）が特定態様である場合に前記可変表示装置を所定態様で開放させるように構成した弾球遊技機」が挙げられる。

【 0 0 4 6 】

E．上記各手段における前記遊技機、又は、上記各弾球遊技機は、パチンコ機又はパチンコ機に準ずる遊技機であること。

【 0 0 4 7 】

F．上記各手段における遊技機は、スロットマシン等の回胴式遊技機であること。より詳しい態様例としては、「複数の識別情報（図柄）からなる識別情報列（図柄列；具体的には図柄の付されたリール等の回転体）を変動表示（具体的にはリール等の回転）した後に識別情報列を確定停止表示する可変表示手段（具体的にはリールユニット等の回転体ユニット）を備え、始動用操作手段（具体的にはスタートレバー）の操作に起因して識別情報（図柄）の変動が開始され、停止用操作手段（具体的にはストップボタン）の操作に起因して又は所定時間経過することにより識別情報（図柄）の変動が停止され、その停止時の確定識別情報（図柄）が特定識別情報（図柄）であることを必要条件として遊技者に有利な特別遊技状態（ボーナスゲーム等）を発生させるよう構成した回胴式遊技機」が挙げられる。

【 0 0 4 8 】

G．上記各手段における遊技機は、パチンコ機とスロットマシンとを組み合わせる構成された遊技機（特に遊技球を遊技媒体として使用するスロットマシン仕様の遊技機）であること。より詳しい態様例としては、「複数の識別情報（図柄）からなる識別情報列（図柄列；具体的には図柄の付されたリール、ベルト等の回転体）を変動表示（具体的にはリール等の回転）した後に識別情報列を確定停止表示する可変表示手段（具体的にはリールユニット等の回転体ユニット）を備え、始動用操作手段（具体的にはスタートレバー）の操作に起因して識別情報（図柄）の変動が開始され、停止用操作手段（具体的にはストップボタン）の操作に起因して又は所定時間経過することにより識別情報（図柄）の変動が停止され、その停止時の確定識別情報（図柄）が特定識別情報（図柄）であることを必要条件として遊技者に有利な特別遊技状態（ボーナスゲーム等）を発生させるよう構成し、さらに球受皿（上皿等）を設けてその球受皿から遊技球を取り込む投入処理を行う投入装置と、前記球受皿に遊技球の払出しを行う払出装置とを備え、前記投入装置により遊技球が投入されることにより前記始動用操作手段の操作が有効となるように構成した遊技機」が挙げられる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 4 9 】

以下、パチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）の一実施形態を、図面に基づいて詳細に説明する。図1はパチンコ機10の正面図であり、図2は、後述する外枠11と内枠12とに対して、前面枠セット14を開放し、下皿ユニット13を取り外した状態を示す斜視図である。但し、図2では便宜上、後述する遊技盤30面上の遊技領域内の構成を空白で示している。

【 0 0 5 0 】

図1, 2に示すように、遊技機としてのパチンコ機10は、当該パチンコ機10の外殻を形成する外枠11を備えており、この外枠11の一側部に、内枠12が開閉可能に支持されている。外枠11は、木製の板材により全体として矩形状に構成され、小ネジ等の離脱可能な締結具により各板材が組み付けられている。従って、釘やリベットを使って各板材を組み付けていた従来構造と比べて構成部材の再利用が容易な構成となっている。本実施形態では、外枠11の上下方向の外寸は809mm（内寸771mm）、左右方向の外寸は518mm（内寸480mm）となっている。

【 0 0 5 1 】

また、内枠12及び前面枠セット14は合成樹脂、具体的にはABS（アクリロニトリ

10

20

30

40

50

ル - ブタジエン - スチレン) 樹脂により構成されている。両者の成形に合成樹脂を用いることにより、金属製素材を用いた場合と比較してより複雑な形状に対応できるとともに、生産コストの増大を抑制することもできる。また、ABSを用いる利点としては、ポリカーボネイト等の樹脂素材と比較して、生産コストが低い、粘性が強く衝撃に強い等が挙げられる。加えて、例えば前面枠セット14の前面側等の意匠面にメッキ等のコーティング処理を施す場合において、その処理を比較的容易に行いやすく、外観品質のより高いものが製造できるというメリットがある。

【0052】

さて、内枠12の開閉軸線はパチンコ機10の正面からみて左側(後述するハンドル18の設置箇所の反対側)に上下に延びるように設定されており、この開閉軸線を軸心にして内枠12が前方側に開放できるようになっている。なお、外枠11は樹脂やアルミニウム等の軽金属により構成されていてもよい。

【0053】

内枠12には、その最下部に下皿ユニット13が取り付けられると共に、下皿ユニット13を除く範囲に対応して前面枠セット14が取り付けられている。下皿ユニット13は、内枠12に対してネジ等の締結具により固定されている。また、前面枠セット14は、内枠12に対して開閉可能に取り付けられており、内枠12と同様、パチンコ機10の正面からみて左側に上下に延びる開閉軸線を軸心にして前方側に開放できるようになっている。図3は、パチンコ機10より前面枠セット14を取り外した状態を示す正面図である(但し、図3では便宜上、遊技盤30面上の遊技領域内の構成を空白で示している)。なお、内枠12の前面側には、その周囲(前面枠セット14に対応する部分)においてリブR1が突設されている。そして、前面枠セット14の閉時には、前面枠セット14がリブR1の内側に嵌まり込んだ状態となる。この構成により、前面枠セット14と内枠12との間の隙間から針金等を進入させることが困難となり、不正防止の役割を果たす。

【0054】

下皿ユニット13には、ほぼ中央部に球受皿としての下皿15が設けられ、排出口16より排出された遊技球が下皿15内に貯留可能になっている。下皿ユニット13はその大部分が内枠12と同様、ABS樹脂にて成形されているが、その中でも特に下皿15を形成する表面層と下皿奥方の前面パネル23とは難燃性のABS樹脂にて成形されている。このため、この部分は燃え難くなっている。なお、符号24はスピーカ249(図2参照)からの音出力口であり、符号25は下皿15内から遊技球を下方へと排出するための球抜きレバーである。

【0055】

下皿15よりも右方には、手前側に突出して遊技球発射ハンドル(以下単に「ハンドル」という)18が配設されている。つまり、ハンドル18は、内枠12の開閉軸線とは反対側にあたるパチンコ機10の正面からみて右側に位置しており、ハンドル18の突出に関わりなく内枠12の開放時における所定の開放量を確保できる。また、下皿15の左方には、灰皿26が設けられている。なお、灰皿26は、下皿15の左側辺部より左方へ突出した図示しない軸棒によって回動可能に支持された、いわゆる片持ち構造となっている。

【0056】

一方、下皿15の上方において球受皿としての上皿19が設けられている。ここで、上皿19は、遊技球を一旦貯留し、一列に整列させながら遊技球発射装置の方へ導出するための球受皿である。なお、上皿19は、前面枠セット14において、ガラスを支持するガラス枠部と一体的に形成されている。従来のパチンコ機ではガラス枠の下方の内枠に対し開閉可能な前飾り枠が設けられ、該前飾り枠に上皿が設けられていたのであるが、本実施形態では前面枠セット14に対し直接的かつ一体的に上皿19が設けられているため、後述するように前面枠セット14のフレーム部分の幅が従来に比べ比較的細いものであっても、前面枠セット14(ガラス枠部)の所定の強度を確保することができる。この上皿19も下皿15と同様、表面層が難燃性のABS樹脂にて成形される構成となっている。

【 0 0 5 7 】

また、図 3 において、内枠 1 2 は、外形が矩形状の樹脂ベース 2 0 を主体に構成されており、樹脂ベース 2 0 の中央部には略円形状の窓孔 2 1 が形成されている。樹脂ベース 2 0 の後側には遊技盤 3 0 が着脱可能に装着されている。遊技盤 3 0 は四角形状の合板よりなり、その周縁部が樹脂ベース 2 0 (内枠 1 2) の裏側に当接した状態で取付されている。従って、遊技盤 3 0 の前面部の略中央部分が樹脂ベース 2 0 の窓孔 2 1 を通じて内枠 1 2 の前面側に露出した状態となっている。なお、遊技盤 3 0 の上下方向の長さは 4 7 6 m m、左右方向の長さは 4 5 2 m m となっている (従来と同等サイズ)。なお、樹脂ベース 2 0 には、前面枠セット 1 4 の開放を検知する開放検知センサ 2 2 が設けられている。また、図示しないが内枠 1 2 の開放を検知する開放検知スイッチも設けられている。

10

【 0 0 5 8 】

次に、遊技盤 3 0 の構成を、図 4 を用いて説明する。遊技盤 3 0 には、入球手段としての一般入賞口 3 1、入球手段としての可変入賞装置 3 2、入球手段としての第 1 契機対応口 (始動口) 3 3、入球手段としての第 2 契機対応口 (スルーゲート) 3 4、可変表示装置ユニット 3 5 等がルータ加工によって形成された貫通穴に配設され、遊技盤 3 0 前面側から木ネジ等により取付けられている。周知の通り前記一般入賞口 3 1、可変入賞装置 3 2、第 1 契機対応口 3 3 に遊技球が入球し、後述する検出スイッチの出力により、上皿 1 9 (または下皿 1 5) へ所定数の賞球が払い出される。その他に、遊技盤 3 0 にはアウト口 3 6 が設けられており、各種入賞部 (入賞装置、入賞口、第 1 契機対応口 3 3 等) に入球しなかった遊技球はこのアウト口 3 6 を通って図示しない球排出路の方へと案内されるようになっている。遊技盤 3 0 には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車 2 7 等の各種部材 (役物) が配設されている。

20

【 0 0 5 9 】

可変表示装置ユニット 3 5 には、第 2 契機対応口 3 4 の通過を契機として第 2 図柄を変動表示する第 2 図柄表示装置 4 1 と、第 1 契機対応口 3 3 への入賞を契機として識別情報としての第 1 図柄 (特別図柄) を変動表示する図柄表示装置としての第 1 図柄表示装置 4 2 (特別図柄表示装置) とが設けられている。第 2 図柄表示装置 4 1 (普通図柄表示装置) は、第 2 図柄 (普通図柄) 用の表示部 4 3 と保留ランプ 4 4 とを有し、遊技球が第 2 契機対応口 3 4 を通過する毎に例えば表示部 4 3 による表示図柄 (第 2 図柄) が変動し、その変動表示が所定図柄で停止した場合に第 1 契機対応口 3 3 が所定時間だけ作動状態となる (開放される) よう構成されている。第 2 図柄表示装置 4 1 の表示部 4 3 における第 2 図柄の変動表示中に、新たに遊技球が第 2 契機対応口 3 4 を通過した場合には、その分の第 2 図柄の変動表示は、その時点で行われている変動表示の終了後に行われる構成となっている。つまり、変動表示が待機 (保留) されることとなる。この保留される変動表示の最大回数は、パチンコ機の機種毎に決められているが、本実施形態では 4 回まで保留され、その保留回数が保留ランプ 4 4 にて点灯表示されるようになっている。しかし、かかる最大保留回数は、これに限定されるものではない。例えば、8 回分の第 2 図柄の変動表示を待機させるべく、最大保留回数を 8 回に設定することとしてもよい。なお、表示部 4 3 は、複数のランプの点灯を切り換えることにより変動表示される構成の他、第 1 図柄表示装置 4 2 (液晶表示装置) の一部で変動表示される構成等であっても良い。保留ランプ 4 4 も同様に、第 1 図柄表示装置 4 2 の一部で変動表示される構成等であっても良い。

30

40

【 0 0 6 0 】

第 1 図柄表示装置 4 2 は液晶表示装置として構成されており、後述する表示制御装置 4 5 により表示内容が制御される。第 1 図柄表示装置 4 2 には、例えば左、中及び右の 3 つの図柄列が表示される。各図柄列は複数の図柄によって構成されており、これら図柄が図柄列毎にスクロールされるようにして第 1 図柄表示装置 4 2 に可変表示されるようになっている。なお本実施形態では、第 1 図柄表示装置 4 2 (液晶表示装置) は 8 インチサイズの大型の液晶ディスプレイを備える。可変表示装置ユニット 3 5 には、第 1 図柄表示装置 4 2 を囲むようにしてセンターフレーム 4 7 が配設されている。

【 0 0 6 1 】

50

可変入賞装置 3 2 は、通常は遊技球が入賞できない又は入賞し難い閉状態になっており、大当たり（特別遊技状態の発生）の際に遊技球が入賞しやすい開状態と通常の開状態とに繰り返し作動されるようになっている。より詳しくは、第 1 契機対応口 3 3 に対し遊技球が入賞すると第 1 図柄表示装置 4 2 で図柄が変動表示され、その停止後の確定図柄が予め設定した特定の図柄の組合せとなったことを必要条件に特別遊技状態が発生する。そして、可変入賞装置 3 2 の大入賞口が所定の開放状態となり、遊技球が入賞しやすい状態（大当たり状態）になるよう構成されている。具体的には、所定時間の経過又は所定個数の入賞を 1 ラウンドとして、可変入賞装置 3 2 の大入賞口が所定回数繰り返し開放される。第 1 図柄表示装置 4 2 の図柄変動表示中に新たに遊技球が第 1 契機対応口 3 3 に入賞した場合には、その分の図柄変動表示は、その時点で行われている図柄変動表示の終了後に行われる構成となっている。つまり、図柄変動表示が待機（保留、記憶）されることとなる（記憶手段）。この保留される図柄変動表示の最大回数は、パチンコ機の機種毎に決められているが、本実施形態では 4 回まで保留され、その保留回数が保留ランプ 4 6 にて点灯表示されるようになっている。しかし、最大保留回数は、これに限定されるものではない。例えば、8 回分の図柄変動表示を待機させるべく、最大保留回数を 8 回に設定することとしてもよい。なお、保留ランプ 4 6 は、第 1 図柄表示装置 4 2 の一部で変動表示される構成等であっても良い。

10

【 0 0 6 2 】

また、遊技盤 3 0 には、遊技球発射装置から発射された遊技球を遊技盤 3 0 上部へ案内するためのレールユニット 5 0 が取り付けられており、ハンドル 1 8 の回動操作に伴い発射された遊技球はレールユニット 5 0 を通じて所定の遊技領域に案内されるようになっている。レールユニット 5 0 はリング状をなす樹脂成形品にて構成されており、内外二重に一体形成された内レール構成部（内レール部）5 1 と外レール構成部（外レール取付け部）5 2 とを有する。内レール構成部 5 1 は上方の約 1 / 4 ほどを除いて略円環状に形成されている。また、一部（主に左側部）が内レール構成部 5 1 に向かい合うようにして外レール構成部 5 2 が形成されている。かかる場合、内レール構成部 5 1 と外レール構成部 5 2 とにより主として誘導レールが構成され、これら各レール構成部 5 1 , 5 2 が所定間隔を隔てて並行する部分（向かって左側の部分）により球案内通路が形成されている。なお、球案内通路は、遊技盤 3 0 との当接面を有した溝状、すなわち手前側を開放した溝状に形成されている。

20

30

【 0 0 6 3 】

内レール構成部 5 1 の先端部分（図 4 の左上部）には戻り球防止部材 5 3 が取着されている。これにより、一旦、内レール構成部 5 1 及び外レール構成部 5 2 間の球案内通路から遊技盤 3 0 の上部へと案内された遊技球が再度球案内通路内に戻ってしまうといった事態が防止されるようになっている。また、外レール構成部 5 2 には、遊技球の最大飛翔部分に対応する位置（図 4 の右上部：外レール構成部 5 2 の先端部に相当する部位）に返しゴム 5 4 が取着されている。従って、所定以上の勢いで発射された遊技球は、返しゴム 5 4 に当たって例えば遊技盤 3 0 の略中央部側へ戻される。外レール構成部 5 2 の内側面には、遊技球の飛翔をより滑らかなものとするべく、長尺状をなすステンレス製の金属帯としての摺動プレート 5 5 が取着されている。なお、本実施形態では、外レール構成部 5 2 及び摺動プレート 5 5 によって、いわゆる従来の外レールに相当するものが構成されている。そして、内外レール構成部 5 1 , 5 2 及び摺動プレート 5 5 をレールユニット 5 0 としてユニット化することにより、従来の内外レールを別々に設けた構成に比べて、取付け作業が容易となり作業性が向上する。

40

【 0 0 6 4 】

また、レールユニット 5 0 の外周部には、外方へ張り出した円弧状のフランジ 5 6 が形成されている。フランジ 5 6 は、遊技盤 3 0 に対する取付面を構成する。レールユニット 5 0 が遊技盤 3 0 に取り付けられる際には、遊技盤 3 0 上にフランジ 5 6 が当接され、その状態で、当該フランジ 5 6 に形成された複数の透孔にネジ N J 等の固定手段が挿通されて遊技盤 3 0 に対するレールユニット 5 0 の締結がなれるようになっている。さらに本実

50

施形態では、正面から見てレールユニット 50 の上下左右の各端部は略直線状に（平坦に）形成されている。つまり、レールユニット 50 の上下左右の各端部においてはフランジ 56 が切り落とされ、パチンコ機 10 における有限の領域にてレール径の拡張、すなわち遊技盤 30 上の遊技領域の拡張が図られるようになっている。なお、左下のフランジ 56 においては他の部分（左上部、右上部及び右下部のフランジ 56）と比較して、より多く固定手段が使用されている。これは、上記誘導レール及び球案内通路の位置をより適正な位置に固定するためであり、これにより遊技球発射装置から発射された遊技球がより安定して遊技盤 30 上部へ案内される。加えて、固定手段の数を増やすことでレールユニット 50 をより強固に固定でき、仮にレールユニット 50 の成形時において歪みが生じたとしても、その歪みを吸収する効果がある。

10

【0065】

内レール構成部 51 及び外レール構成部 52 間の球案内通路の入口には、同球案内通路の一部を閉鎖するようにして凸部 57 が形成されている。この凸部 57 は、内レール構成部 51 からレールユニット 50 下端部にかけて略鉛直方向に設けられ、遊技領域まで至らず球案内通路内を逆流してくるファール球をファール球通路 63（図 3 参照）に導くための役目をなす。なお、遊技盤 30 の右下隅部及び左下隅部は、証紙等のシールやプレート（図の S1, S2）を貼着するためのスペースとなっており、この貼着スペースを確保するために、フランジ 56 に切欠 58, 59 が形成されている。

【0066】

次に、遊技領域について説明する。遊技領域は、レールユニット 50 の内周部（内外レール構成部 51, 52）により略円形状に区画形成されており、特に本実施形態では、遊技盤 30 の盤面上に区画される遊技領域が従来よりもはるかに大きく構成されている。本実施形態では、外レール構成部 52 の最上部地点から遊技盤 30 下部までの間の距離は 445 mm（従来品よりも 58 mm 長い）、外レール構成部 52 の極左位置から内レール構成部 51 の極右位置までの間の距離は 435 mm（従来品よりも 50 mm 長い）となっている。また、内レール構成部 51 の極左位置から内レール構成部 51 の極右位置までの間の距離は 418 mm となっている。

20

【0067】

本実施形態では、遊技領域を、パチンコ機 10 の正面から見て、内レール構成部 51 及び外レール構成部 52 によって囲まれる領域のうち、内外レール構成部 51, 52 の並行部分である誘導レールの領域を除いた領域としている。従って、遊技領域と言った場合には誘導レール部分は含まないため、遊技領域の向かって左側限界位置は外レール構成部 52 によってではなく内レール構成部 51 によって特定される。同様に、遊技領域の向かって右側限界位置は内レール構成部 51 によって特定される。また、遊技領域の下側限界位置は遊技盤 30 の下端位置によって特定される。また、遊技領域の上側限界位置は外レール構成部 52 によって特定される。

30

【0068】

従って、本実施形態では、遊技領域の幅（左右方向の最大幅）は、418 mm であり、遊技領域の高さ（上下方向の最大幅）は、445 mm である。

【0069】

ここで、前記遊技領域の幅は、少なくとも 380 mm 以上あることが望ましい。より好ましくは 390 mm 以上、400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、さらに 460 mm 以上であることが望ましい。もちろん、470 mm 以上であってもよい。すなわち、遊技領域の幅は、遊技領域拡大という観点からは大きい程好ましい。また、遊技領域の高さは、少なくとも 400 mm 以上あることが望ましい。より好ましくは 410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、さらには 460 mm 以上であることがより望ましい。もちろん、470 mm 以上、480 mm 以上、490 mm 以上としてもよい。すなわち、遊技領域の幅は、遊技領域拡大という観点からは大きい程好ましい。なお、上記幅及び高さの組合せについては、上記数値を任意に組み合わせたものとしてもよい。

40

50

【 0 0 7 0 】

本実施形態では、遊技盤 3 0 面に対する遊技領域の面積の比率は約 7 0 % と、従来に比べ格段に面積比が大きいものとなっている。なお、遊技盤 3 0 面に対する遊技領域の面積比は、従来では 5 0 % 程度に過ぎなかったことから、遊技盤 3 0 を共通とした前提においてはかなり遊技領域を拡大しているといえる。尚、パチンコ機 1 0 の外形は遊技場への設置の都合上製造者間でほぼ統一されており、遊技盤 3 0 の大きさも同様とせざるを得ない状況下において、上記のように遊技盤 3 0 面に対する遊技領域の面積の比率を約 2 0 % も高めたことは、遊技領域拡大の観点で非常に有意義である。ここで、前記比率は、少なくとも 6 0 % 以上であることが望ましい。さらに好ましくは 6 5 % 以上であり、より好ましくは 7 0 % 以上である。また、本実施形態の場合を越えて 7 5 % 以上であれば、一層望ましい。さらには、8 0 % 以上であってもよい。

10

【 0 0 7 1 】

また、パチンコ機 1 0 全体の正面側の面積に対する遊技領域の面積の比率は約 4 0 % と、従来に比べ格段に面積比が大きいものとなっている。なお、パチンコ機 1 0 全体の正面側の面積に対する遊技領域の面積比は、3 5 パーセント以上であるのが望ましい。もちろん、4 0 パーセント以上としてもよいし、4 5 パーセント以上、又は 5 0 パーセント以上としてもよい。

【 0 0 7 2 】

なお、可変表示装置ユニット 3 5 の両側に位置する第 2 契機対応口 3 4 は、該第 2 契機対応口 3 4 を通過した遊技球が中央の方へ寄せられるような案内機構を有している。これにより、遊技領域が左右方向に拡張されている場合であっても、遊技球を中央の第 1 契機対応口 3 3 や可変入賞装置 3 2 の方へと案内することができ、ひいては、遊技領域が拡張されることにより遊技球が入賞しにくくなることによる興趣の低下が抑制されるようになっている。さらには、遊技領域が左右方向に拡張されていることによって、第 2 契機対応口 3 4、風車 2 7、複数の釘（遊技球を中央に誘導するための誘導釘）、他の役物を種々配設することができ、可変表示装置ユニット 3 5 の左右両側の遊技領域での遊技球の挙動を一層面白くすることができるようになっている。また、遊技領域が上下方向にも拡張されていることから、さらに第 2 契機対応口 3 4、風車 2 7、複数の釘、他の役物を種々配設することができ、遊技領域での上下方向の遊技球の挙動をより一層面白くすることができるようになっている。

20

30

【 0 0 7 3 】

図 3 の説明に戻り、前記樹脂ベース 2 0 において、窓孔 2 1（遊技盤 3 0）の下方には、遊技球発射装置より発射された直後に遊技球を案内するための発射レール 6 1 が取り付けられている。発射レール 6 1 は、その後方の金属板 6 2 と一体的に樹脂ベース 2 0 に取付固定されており、所定の発射角度（打ち出し角度）にて直線的に延びるよう構成されている。従って、ハンドル 1 8 の回動操作に伴い発射された遊技球は、まずは発射レール 6 1 に沿って斜め上方に打ち出され、その後前述した通りレールユニット 5 0 の球案内通路を通じて所定の遊技領域に案内されるようになっている。

【 0 0 7 4 】

本パチンコ機 1 0 の場合、遊技領域が従来よりも大幅に拡張されることは既に述べたが、かかる構成下では、誘導レールの曲率を小さくせざるを得ないことから、打出球を安定化させるための工夫を要する。そこで本実施形態では、遊技球の発射位置を低くするとともに発射レール 6 1 の傾斜角度（発射角度）を既存のものよりも幾分大きくし（すなわち発射レール 6 1 を立ち上げるようにし）、さらに発射レール 6 1 の長さを既存のものよりも長くして十分な長さの球誘導距離を確保するようにしている。これにより、遊技球発射装置から発射された遊技球をより安定した状態で誘導レールに案内できるようにしている。この場合特に、発射レール 6 1 を、遊技球発射装置の発射位置から遊技領域の左右方向の中央位置（アウト口 3 6）を越える位置まで延びるよう形成している。また、発射レール 6 1 を上記構成とするため、本実施形態では金属板 6 2 も従来のものより比較的大きなものとし、それを固定する固定手段の数も従来に比べ多くしている。

40

50

【 0 0 7 5 】

また、発射レール 6 1 とレールユニット 5 0 (誘導レール)との間には所定間隔の隙間があり、この隙間より下方にファール球通路 6 3 が形成されている。従って、仮に、遊技球発射装置から発射された遊技球が戻り球防止部材 5 3 まで至らずファール球として誘導レール内を逆戻りする場合には、そのファール球がファール球通路 6 3 を介して下皿 1 5 に排出される。因みに、本実施形態の場合、発射レール 6 1 の長さは約 2 4 0 m m、発射レール先端部の隙間の長さ(発射レール 6 1 の延長線上の長さ)は約 4 0 m mである。

【 0 0 7 6 】

ファール球が誘導レール内を逆流してくる際、その多くは外レール構成部 5 2 に沿って流れ、外レール構成部 5 2 の下端部に到達した時点で下方に落下するが、一部のファール球は誘導レール内で暴れ、内レール構成部 5 1 側へ跳ね上がるものもある。この際、跳ね上がったファール球は、球案内通路入口の前記凸部 5 7 に当たり、ファール球通路 6 3 に誘導される。これにより、ファール球の全てがファール球通路 6 3 に確実に案内されるようになる。これにより、ファール球と次に発射される遊技球との干渉が抑制される。

【 0 0 7 7 】

なお、詳しい図面の開示は省略するが、遊技球発射装置には、前面枠セット 1 4 側の球出口(上皿 1 9 の最下流部より通じる球出口)から遊技球が 1 つずつ供給される。この際、本実施形態では遊技球の発射位置を低くしたため、前面枠セット 1 4 側の球出口から前記発射位置への落差が大きくなるが、発射レール 6 1 の基端部付近にはその右側と手前側にそれぞれガイド部材 6 5 , 6 6 を設置している。これにより、前面枠セット 1 4 側の球出口から供給される遊技球が常に所定の発射位置にセットされ、安定した発射動作が実現できる。また、遊技球発射装置には打球槌が設けられ、軸部を中心とする打球槌の回転に伴い遊技球が発射されるが、打球槌に関して軽量化が望まれている。それ故、アルミニウム等の軽金属への材料変更や軸部寸法の縮小化により打球槌の軽量化を図る一方で、十分な発射力を確保すべく、打球槌のヘッド部(軸部と反対側の端部)に重り部を設けている。これにより、十分でかつ安定した遊技球の発射が実現できる。打球槌の重り部を上方に突出して設けることにより、打球槌を容易に摘んだりひっかけたりすることができ、槌先の打球強さの調整等がし易くなるという効果がある。

【 0 0 7 8 】

なお、図 3 中の符号 6 7 は上皿 1 9 に通ずる排出口であり、この排出口 6 7 を介して遊技球が上皿 1 9 に排出される。排出口 6 7 には開閉式のシャッタ 6 8 が取り付けられている。詳しい図面の開示は省略するが、シャッタ 6 8 は、その下辺部に沿って設けられた軸部を軸心として回転可能となるとともに、前面枠セット 1 4 を開放した状態(図 3 の状態)ではバネ等の付勢力によりシャッタ 6 8 が排出口 6 7 をほぼ閉鎖するようになっている。また、前面枠セット 1 4 を閉鎖した状態では、当該前面枠セット 1 4 の裏面に設けられた球通路樋 6 9 (図 2 参照)によりシャッタ 6 8 が押し開けられるようになっている。なお、前面枠セット 1 4 の開放状態においては、遊技球は下皿 1 5 へ排出されるようになっている。従って、上述したように、前面枠セット 1 4 に対して上皿 1 9 が直接設けられる構成とした本パチンコ機 1 0 において、前面枠セット 1 4 の開放に際し払出通路内等の遊技球がこぼれ落ちてしまうといった不都合が防止できるようになっている。

【 0 0 7 9 】

樹脂ベース 2 0 には、窓孔 2 1 の右下部に略四角形状の小窓 7 1 が設けられている。従って、遊技盤 3 0 の右下隅部に張られたシール等(図 4 の S 1)は、この小窓 7 1 を通じて視認できるようになっている。また、この小窓 7 1 から上記シール等を貼り付けることも可能である。

【 0 0 8 0 】

また、樹脂ベース 2 0 には窓孔 2 1 の左上方において略四角形状の小窓 7 2 が設けられ、小窓 7 2 に対応して遊技盤 3 0 の左上隅にも略四角形状の孔部 7 3 (図 4 参照)が設けられている。そして、後述する前面枠セット 1 4 の電飾部 1 0 2、1 0 3 等と接続される各種電気配線(図示略)が小窓 7 2 及び孔部 7 3 を通して本パチンコ機 1 0 の背面側から

10

20

30

40

50

導かれている。

【 0 0 8 1 】

また、内枠 1 2 の図 3 の左端部には、前面枠セット 1 4 の支持機構として、支持金具 8 1 , 8 2 が取り付けられている。上側の支持金具 8 1 には図の手前側に切欠を有する支持孔 8 3 が設けられ、下側の支持金具 8 2 には鉛直方向に突出した突起軸 8 4 が設けられている。

【 0 0 8 2 】

また、内枠 1 2 にはアース用金具 E 1 , E 2 が設けられている（図 3 参照）。アース用金具 E 1 , E 2 は、内枠 1 2 の背面側において所定の金属部品と接続されている。そして、前面枠セット 1 4 が閉じられた状態において、アース用金具 E 1 , E 2 が後述する補強板 1 3 1 , 1 3 2 と当接することにより短絡するようになっている。

【 0 0 8 3 】

次に、前面枠セット 1 4 について図 1 , 図 5 を参照しつつ説明する。図 5 は、前面枠セット 1 4 の背面図である。前面枠セット 1 4 には前記遊技領域のほとんどを外部から視認することができるよう略楕円形状の窓部 1 0 1 が形成されている。詳しくは、窓部 1 0 1 は、その左右側の略中央部が、上下側に比べて比較的緩やかに湾曲した形状となっている。なお、前記略中央部が直線状になるようにしてもよい。本実施形態において、窓部 1 0 1 の上端（外レール構成部 5 2 の最上部、遊技領域の上端）と、前面枠セット 1 4 の上端との間の距離（いわゆる上部フレーム部分の上下幅）は 6 1 mm となっており、8 5 mm ~ 9 5 mm 程度上部フレーム幅がある従来技術に比べて著しく短くなっている。これにより、遊技領域の上部領域が確保されやすくなるとともに、大型の可変表示装置ユニット 3 5 も比較的上方に配置することができるようになっている。前面枠セット 1 4 の上端との間の距離は 8 0 mm 以下であることが望ましく、より望ましくは 7 0 mm 以下であり、さらに望ましくは 6 0 mm 以下である。もちろん、所定の強度が確保できるのであれば、5 0 mm 以下であっても差し支えない。

【 0 0 8 4 】

また、パチンコ機 1 0 の正面から見て窓部 1 0 1 の左端と前面枠セット 1 4 の左端との間の最短距離（いわゆる左側部フレーム部分の左右幅：図 5 では右側に示されている）、すなわち開閉軸線側のフレーム幅は、前面枠セット 1 4 自体の強度及び支持強度を高めるために比較的大きく設定されている。この場合、図 1 及び図 3 を相互に比較すると明らかのように、前面枠セット 1 4 が閉じられた状態において、外レール構成部 5 2 の左端部はもちろん、内レール構成部 5 1 の左端部も前記左側部フレーム部分によって覆い隠される。つまり、誘導レールの少なくとも一部が、パチンコ機 1 0 の正面からみて前面枠セット 1 4 の左側部フレーム部分と重複し覆い隠される。このように遊技球が一時的に視認困難となったとしても、それは、遊技球が遊技領域に案内される通過点に過ぎず、遊技者が主として遊技を楽しむ遊技領域において遊技球が視認困難となるわけではない。そのため、実際の遊技に際しては何ら支障が生じない。また、このような支障が生じない一方で、前面枠セット 1 4 の十分な強度及び支持強度が確保可能となっている。ちなみに、パチンコ機 1 0 の正面から見て外レール構成部 5 2 の左端位置と外枠 1 1 の左端位置との左右方向の距離は 2 1 mm、遊技領域の右端位置（内レール構成部 5 1 の右端位置）と外枠 1 1 の右端位置との左右方向の距離は 4 4 mm となっている。

【 0 0 8 5 】

加えて、前面枠セット 1 4 にはその周囲（例えばコーナー部分）に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯、点滅のように発光態様を変更制御され遊技中の演出効果を高める役割を果たすものである。例えば、窓部 1 0 1 の周縁には、LED 等の発光手段を内蔵した環状電飾部 1 0 2 が左右対称に設けられ、該環状電飾部 1 0 2 の中央であってパチンコ機 1 0 の最上部には、同じく LED 等の発光手段を内蔵した中央電飾部 1 0 3 が設けられている。本パチンコ機 1 0 では、中央電飾部 1 0 3 が大当たりランプとして機能し、大当たり時に点灯や点滅を行うことにより、大当たり中であることを報知する。さらに、上

10

20

30

40

50

皿 19 周りにも、同じく L E D 等の発光手段を内蔵した上皿電飾部 104 が設けられている。その他、中央電飾部 103 の左右側方には、賞球払出し中に点灯する賞球ランプ 105 と所定のエラー時に点灯するエラー表示ランプ 106 とが設けられている。また、環状電飾部 102 の下端部に隣接するようにして、内枠 12 表面や遊技盤 30 表面等の一部を視認できるよう透明樹脂が取り付けられた小窓 107 が設けられている。

【0086】

また、窓部 101 の下方には貸球操作部 120 が配設されており、貸球操作部 120 には球貸しボタン 121 と、返却ボタン 122 と、度数表示部 123 とが設けられている。パチンコ機 10 の側方に配置されたカードユニット（球貸しユニット）に紙幣やカード等を投入した状態で貸球操作部 120 が操作されると、その操作に応じて遊技球の貸出が行われる。球貸しボタン 121 は、カード等（記録媒体）に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が上皿 19 に供給される。返却ボタン 122 は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。度数表示部 123 はカード等の残額情報を表示するものである。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿に遊技球が直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では貸球操作部 120 が不要となる。故に、貸球操作部 120 の設置部分に、飾りシール等が付されるようになっている。これにより、カードユニットを用いたパチンコ機と現金機との貸球操作部の共通化が図られる。

【0087】

前面枠セット 14 の裏側には、窓部 101 を囲むようにして金属製の各種補強部材が設けられている。詳しくは、図 5 に示すように、前面枠セット 14 の裏側にあって窓部 101 の上下左右の外側にはそれぞれ補強板 131, 132, 133, 134 が取り付けられている。これら補強板 131 ~ 134 は相互に接触して連結されているが、図の左側及び上側の補強板 132, 133 の連結部には直接の接触を避けるための樹脂パーツ 135 が介在されている。つまり、補強板 131 ~ 134 において、樹脂パーツ 135 の絶縁効果により電気が環状に通ることを防止している。これにより、補強板 131 ~ 134 におけるノイズのループや環状通電による磁界の発生を抑制することができる。

【0088】

図 5 の右側の補強板 131 にはその中間位置にフック状をなす係合爪 131a が設けられており、この係合爪 131a は、前面枠セット 14 を閉じた状態で内枠 12 の孔部 12a（図 3 等参照）に係合されるように構成されている。この構成により、上皿 19 を含む形態で前面枠セット 14 が構成され、その上下の軸支位置が延長されたとしても、中間位置における前面枠セット 14 の浮き上がりが防止できる。それ故、前面枠セット 14 を浮かしての不正行為等が抑制されるようになっている。

【0089】

また、下側の補強板 134 には、前記発射レール 61（図 3 参照）に対向する位置に樹脂製のレール側壁部材 136 が設けられている。このレール側壁部材 136 は、前面枠セット 14 を閉じた際に発射レール 61 の側壁となる。故に、発射レール 61 から遊技球がこぼれ落ちないようにしている。

【0090】

上述した補強板 131 ~ 134 はガラス支持用の金枠としての機能も兼ね備えており、これら補強板 131 ~ 134 の一部が後方に折り返されてガラス保持溝が形成されている。このガラス保持溝は前後に 2 列形成されており、矩形状をなす前後一対のガラス 137 が各ガラス保持溝にて保持される。これにより、2 枚のガラス 137 が前後に所定間隔を隔てて装着されるようになっている。

【0091】

前述の通り本実施形態のパチンコ機 10 では遊技領域の拡張を図っていることから、前面枠セット 14 を閉じた状態にあっては、内外のレール構成部 51, 52 により構成された誘導レールの一部が前面枠セット 14 により覆い隠される構成となっている。それ故、当該誘導レールでは手前側の開放部がガラス 137 で覆えない部分ができてしまう。かか

10

20

30

40

50

る場合、例えば、遊技球発射装置より発射された遊技球が戻り球防止部材５３まで至らず戻ってくると、当該遊技球が誘導レール外にこぼれたり（飛び出したり）、外レール構成部５２とガラス１３７との間に挟まってしまうおそれがある。そこで本実施形態では、前面枠セット１４に、誘導レールの手前側開放部を被覆するためのレールカバー１４０を取り付けている。

【００９２】

レールカバー１４０は略円弧状をなす略平板体であって、透明な樹脂により形成されている。レールカバー１４０は、その円弧形状が前記誘導レールの形状に対応しており、窓部１０１の周縁部に沿って、誘導レールの基端部から先端部近傍までの区間を覆うようにして前面枠セット１４の裏側に取付されている。特にレールカバー１４０の内径側の寸法・形状は内レール構成部５１のそれにほぼ一致する。レールカバー１４０が取付された状態では、その表面側がガラス１３７に当接した状態となる。前面枠セット１４が閉じられた状態においては、レールカバー１４０の裏面が誘導レールのほぼ全域を覆うこととなる。これにより、誘導レールのほとんどの区間において遊技球のガラス１３７への衝突を防止できる。従って、ガラス１３７への接触による破損等の悪影響を抑制することができる。

10

【００９３】

また、レールカバー１４０の右端部（すなわち、レールカバー１４０を前面枠セット１４に取付した図５の状態での右端となる部位）には、誘導レールがガラス１３７の側縁部からはみ出した部分を被覆するための被覆部１４１が設けられている。これにより、遊技球が誘導レール外にこぼれたり（飛び出したり）、外レール構成部５２とガラス１３７との間に挟まってしまうといった不具合の発生を防止することができる。

20

【００９４】

さらに、レールカバー１４０の裏側には、その内側縁に沿って円弧状に延び且つ図５の手前側に突出した突条１４２が形成されている。突条１４２は、前面枠セット１４が閉じられた状態において、誘導レール内に入り込んだ状態で内レール構成部５１にほぼ一体的に重なり合うよう構成されている。従って、例えば前面枠セット１４と内枠１２との隙間から針金等を侵入させて不正行為を行おうとしても、誘導レールの内側にある遊技領域にまで針金等を侵入させることが非常に困難となる。結果として、針金等を利用して行われる不正行為を防止することができる。なお、突条１４２をより広い範囲で、例えばレールカバー１４０の内側縁の全域に沿って形成する構成としても良く、かかる構成によれば、より広い範囲で針金等を侵入させにくくなり、針金等を利用して行われる不正行為をより確実に防止することができる。

30

【００９５】

また、前面枠セット１４の図５の右端部（パチンコ機１０正面から見ると左端部）には、内枠１２の支持機構として、支持金具１５１、１５２が取り付けられている。従って、内枠１２側の支持金具８１、８２（図３参照）に対して前面枠セット１４側の支持金具１５１、１５２を組み付けることで、内枠１２に対して前面枠セット１４が開閉可能に装着されるようになる。ここで、前記支持機構について支持金具８１、８２及び支持金具１５１、１５２の関連性をふまえてより詳しく説明する。支持金具１５１は略棒状をなし、その上部の径が下部の径より太くなっている。上記支持孔８３の切欠の幅は、前記支持金具１５１の上部の太さより狭く、下部の太さより広がっている。前面枠セット１４の装着手順としては、まず前記支持金具１５１の下部を前記切欠を介して支持孔８３に挿入し、次に支持金具８２の突起軸８４に支持金具１５２を差込む。そして、前記切欠位置に対応して前記支持金具１５１の上部を位置させることで、支持金具１５１が支持孔８３から外れなくなり、前面枠セット１４の装着が完了する。

40

【００９６】

なお、前面枠セット１４の施錠機構は、内枠１２の施錠機構と一体的となっており、当該一体となった施錠機構Ｇ１（図６参照）の本体部は内枠１２の背面側に設けられている。そのため、図３では、施錠機構Ｇ１から内枠１２の前面側に突出した係止爪Ｔ１、Ｔ２

50

のみが示されている。そして、係止爪 T 1 , T 2 が前面枠セット 1 4 の背面側に係止されることにより、前面枠セット 1 4 が施錠された状態となる。

【 0 0 9 7 】

次に、パチンコ機 1 0 の背面の構成を詳しく説明する。図 6 はパチンコ機 1 0 の背面図である。

【 0 0 9 8 】

先ずはじめに、パチンコ機 1 0 の背面構成について全体の概要を説明する。パチンコ機 1 0 にはその背面（実際には内枠 1 2 及び遊技盤 3 0 の背面）において、各種制御基板が上下左右に並べられるようにして又は前後に重ねられるようにして配置されており、さらに、遊技球を供給するための遊技球供給装置（払出機構）や樹脂製の保護カバー等が取り付けられている。本実施形態では、各種制御基板を 2 つの取付台に分けて搭載して 2 つの制御基板ユニットを構成し、それら制御基板ユニットを個別に内枠 1 2 又は遊技盤 3 0 の裏面に装着するようにしている。この場合、主基板と音声ランプ制御基板とを一方の取付台に搭載してユニット化すると共に、払出制御基板、発射制御基板及び電源基板を他方の取付台に搭載してユニット化している。ここでは便宜上、前者のユニットを「第 1 制御基板ユニット 2 0 1」と称し、後者のユニットを「第 2 制御基板ユニット 2 0 2」と称することとする。

10

【 0 0 9 9 】

また、払出機構及び保護カバーも 1 ユニットとして一体化されており、一般に樹脂部分を裏パックと称することもあるため、ここではそのユニットを「裏パックユニット 2 0 3」と称する。各ユニット 2 0 1 ~ 2 0 3 の詳細な構成については後述する。

20

【 0 1 0 0 】

第 1 制御基板ユニット 2 0 1、第 2 制御基板ユニット 2 0 2 及び裏パックユニット 2 0 3 は、ユニット単位で何ら工具等を用いずに着脱できるよう構成されており、さらにこれに加え、一部に支軸部を設けて内枠 1 2 又は遊技盤 3 0 の裏面に対して開閉できる構成となっている。これは、各ユニット 2 0 1 ~ 2 0 3 やその他構成が前後に重ねて配置されても、隠れた構成等を容易に確認することを可能とするための工夫でもある。

【 0 1 0 1 】

実際には、図 7 の概略図に示すように各ユニット 2 0 1 ~ 2 0 3 が配置され、取り付けられている。なお図 7 において、略 L 字状をなす第 1 制御基板ユニット 2 0 1 はパチンコ機 1 0 のほぼ中央に配置され、その下方に第 2 制御基板ユニット 2 0 2 が配置されている。また、第 1 制御基板ユニット 2 0 1 に一部重なる領域に、裏パックユニット 2 0 3 が配置されている。

30

【 0 1 0 2 】

詳しくは、第 1 制御基板ユニット 2 0 1 には、パチンコ機 1 0 の背面から見て左端部に支軸部 M 1 が設けられ、その支軸部 M 1 による軸線 A を中心に当該第 1 制御基板ユニット 2 0 1 が開閉可能となっている。また、第 1 制御基板ユニット 2 0 1 には、その右端部（すなわち支軸部と反対側、さらに言えば開放端側）にナイラッチ等よりなる締結部 M 2 が設けられると共に上端部に係止爪部 M 3 が設けられており、これら締結部 M 2 及び係止爪部 M 3 によって第 1 制御基板ユニット 2 0 1 が機体に対して固定保持されるようになっている。

40

【 0 1 0 3 】

また、第 2 制御基板ユニット 2 0 2 には、パチンコ機 1 0 の背面から見て右端部に支軸部 M 4 が設けられ、その支軸部 M 4 による軸線 B を中心に当該第 2 制御基板ユニット 2 0 2 が開閉可能となっている。また、第 2 制御基板ユニット 2 0 2 には、その左端部（すなわち支軸部と反対側、さらに言えば開放端側）にナイラッチ等よりなる締結部 M 5 が設けられており、この締結部 M 5 によって第 2 制御基板ユニット 2 0 2 が機体に対して固定保持されるようになっている。

【 0 1 0 4 】

さらに、裏パックユニット 2 0 3 には、パチンコ機 1 0 の背面から見て右端部に支軸部

50

M 6 が設けられ、その支軸部 M 6 による軸線 C を中心に当該裏パックユニット 2 0 3 が開閉可能となっている。また、裏パックユニット 2 0 3 には、その左端部（すなわち支軸部と反対側、さらに言えば開放端側）にナイラッチ等よりなる締結部 M 7 が設けられると共に上端部及び下端部に対応してそれぞれ回動式の係止部 M 8 , M 9 が（機体側に）設けられており、これら締結部 M 7 及び係止部 M 8 , M 9 によって裏パックユニット 2 0 3 が機体に対して固定保持されるようになっている。

【 0 1 0 5 】

この場合、各ユニット 2 0 1 ~ 2 0 3 の展開方向は同一でなく、第 1 制御基板ユニット 2 0 1 は、パチンコ機 1 0 の背面から見て左開きになるのに対し、第 2 制御基板ユニット 2 0 2 及び裏パックユニット 2 0 3 は、同右開きになるよう構成されている。

10

【 0 1 0 6 】

一方、図 8 は、内枠 1 2 に遊技盤 3 0 を組み付けた状態でその構成を示す背面図である。また、図 9 は内枠 1 2 を後方より見た斜視図である。ここでは図 8 及び図 9 を用いて内枠 1 2 及び遊技盤 3 0 の裏面構成を説明する。

【 0 1 0 7 】

遊技盤 3 0 は、樹脂ベース 2 0 に囲まれた四角枠状の設置領域に設置され、内枠 1 2 に設けられた複数（本実施形態では 4 カ所）の係止固定具 2 1 1 , 2 1 2 によって脱落しないように固定されている。係止固定具 2 1 1 , 2 1 2 は手で回動でき、固定位置（ロック位置）と固定解除位置（アンロック位置）とを切り替えることができるよう構成されており、図 8 にはロック状態を示す。遊技盤 3 0 の左右 3 カ所の係止固定具 2 1 1 は金属片を折り曲げ形成した L 型の金具であり、遊技盤 3 0 の固定状態で内枠 1 2 外方へ張り出さないよう構成されている。なお、遊技盤 3 0 の下部 1 カ所の係止固定具 2 1 2 は樹脂製の I 型の留め具である。

20

【 0 1 0 8 】

遊技盤 3 0 の中央には可変表示装置ユニット 3 5 が配置されている。可変表示装置ユニット 3 5 においては、センターフレーム 4 7（図 3 参照）を背後から覆う樹脂製（例えば ABS 製）のフレームカバー 2 1 3 が後方に突出して設けられており、そのフレームカバー 2 1 3 の後端に、液晶表示装置たる第 1 図柄表示装置 4 2 と表示制御装置 4 5 とが前後に重ねられた状態で着脱可能に取り付けられている。フレームカバー 2 1 3 内には、センターフレーム 4 7 に内蔵された LED 等を駆動するための LED 制御基板などが配設されている。

30

【 0 1 0 9 】

また、遊技盤 3 0 の裏面には、可変表示装置ユニット 3 5 を取り囲むようにして裏枠セット 2 1 5 が取り付けられている。この裏枠セット 2 1 5 は、遊技盤 3 0 の裏面に張り付くようにして設けられる薄型の樹脂成形品（例えば ABS 製）であって、各種入賞口に入賞した遊技球を回収するための遊技球回収機構が形成されている。詳しくは、裏枠セット 2 1 5 の下方には、前述した一般入賞口 3 1、可変入賞装置 3 2、第 1 契機対応口 3 3（それぞれ図 3 参照）の遊技盤開口部に対応し、且つ下流側で 1 カ所に集合する回収通路 2 1 6 が形成されている。また、遊技盤 3 0 の下方には、内枠 1 2 にやはり樹脂製（例えばポリカーボネイト樹脂製）の排出通路盤 2 1 7 が取り付けられており、該排出通路盤 2 1 7 には、排出球をパチンコ機 1 0 外部へ案内するための排出通路 2 1 8 が形成されている。従って、図 8 に仮想線で例示するように、一般入賞口 3 1 等に入賞した遊技球は何れも裏枠セット 2 1 5 の回収通路 2 1 6 を介して集合し、さらに排出通路盤 2 1 7 の排出通路 2 1 8 を介してパチンコ機 1 0 外部に排出される。なお、アウト口 3 6（図 3 参照）も同様に排出通路 2 1 8 に通じており、何れの入賞口にも入賞しなかった遊技球も排出通路 2 1 8 を介してパチンコ機 1 0 外部に排出される。

40

【 0 1 1 0 】

上記構成では、遊技盤 3 0 の下端面を境界にして、上方に裏枠セット 2 1 5（回収通路 2 1 6）が、下方に排出通路盤 2 1 7（排出通路 2 1 8）が設けられており、排出通路盤 2 1 7 が遊技盤 3 0 に対して前後方向に重複（オーバーラップ）せずに設けられている。

50

従って、遊技盤 30 を内枠 12 から取り外す際において、排出通路盤 17 が遊技盤取り外しの妨げになるといった不都合が生じることもない。

【0111】

なお、排出通路盤 217 は、パチンコ機前面の上皿 19 の丁度裏側辺りに設けられており、上皿 19 に至る球排出口（図 2 の球通路樋 69）より針金等を差し込み、さらにその針金等を内枠 12 と排出通路盤 217 との隙間を通じて遊技領域側に侵入させるといった不正行為が考えられる。そこで本パチンコ機 10 では、排出通路盤 217 の上皿 19 の丁度裏側辺りに、内枠 12 にほぼ一体的に重なり合うようにしてパチンコ機前方に延びるプレート 219 が設けられている。従って、内枠 12 と排出通路盤 217 との隙間から針金等を侵入させようとしてもそれがプレート 219 にて阻害され、遊技領域にまで針金等を侵入させることが非常に困難となる。結果として、針金等を利用して可変入賞装置 32（大入賞口）を強制的に開放する等の不正行為を防止することができる。

10

【0112】

また、遊技盤 30 の裏面には、各種入賞口などの遊技球の通過を検出するための入球検出手段としての入賞感知機構などが設けられている。具体的には、遊技盤 30 表側の一般入賞口 31 に対応する位置には入賞口スイッチ 221 が設けられ、可変入賞装置 32 には、特定領域スイッチ 222 とカウントスイッチ 223 とが設けられている。特定領域スイッチ 222 は、大当たり状態で可変入賞装置 32 に入賞した遊技球が特定領域（大当たり状態継続を判定するための領域）に入ったことを判定するスイッチであり、カウントスイッチ 223 は入賞球をカウントするスイッチである。また、第 1 契機対応口 33 に対応する位置には特定入球検出手段としての第 1 契機対応口（始動口）スイッチ 224 が設けられ、第 2 契機対応口 34 に対応する位置には第 2 契機対応口（ゲート）スイッチ 225 が設けられている。これら各スイッチ 221～225 は入球検出手段として機能しうる。

20

【0113】

入賞口スイッチ 221 及び第 2 契機対応口（ゲート）スイッチ 225 は、後述する電気配線（ケーブルコネクタ）を介して盤面中継基板 226 に接続され、さらにこの盤面中継基板 226 が後述する主基板（主制御装置 261）に電気配線を介して接続されている。また、特定領域スイッチ 222 及びカウントスイッチ 223 は電気配線を介して大入賞口中継基板 227 に接続され、さらにこの大入賞口中継基板 227 がやはり電気配線を介して主基板に接続されている。これに対し、第 1 契機対応口（始動口）スイッチ 224 は中継基板を経ることなく直接主基板に電気配線を介して接続されている。これらの詳細については後述する。

30

【0114】

その他図示は省略するが、可変入賞装置 32 には、大入賞口を開放するための大入賞口ソレノイド（駆動手段、電気部品を構成する）と、入賞球を特定領域に導くための入賞球振分板ソレノイドが設けられ、第 1 契機対応口 33 には、電動役物を開放するための第 1 契機対応口（始動口）ソレノイドが設けられている。なお、図 8、9 において符号 228 は打球樋等を備えるセットハンドルであり、符号 229 は発射モータである。

【0115】

上記入賞感知機構にて各々検出された検出結果は、後述する主基板に取り込まれ、該主基板よりその都度の入賞状況に応じた払出指令（遊技球の払出個数）が払出制御基板に送信される。そして、該払出制御基板の出力により所定数の遊技球の払出が実施される。かかる場合、各種入賞口に入賞した遊技球を入賞球処理装置に一旦集め、その入賞球処理装置で入賞球の存在を 1 つずつ順番に確認した上で払出を行う従来方式（いわゆる証抛球方式）とは異なり、本実施形態のパチンコ機 10 では、各種入賞口毎に遊技球の入賞を電氣的に感知して払出が直ちに行われる（すなわち、本パチンコ機 10 では入賞球処理装置を廃止している）。故に、払い出す遊技球が多量にあっても、その払出をいち早く実施することが可能となる。

40

【0116】

また、裏枠セット 215 には、第 1 制御基板ユニット 201 を取り付けするための取付機

50

構が設けられている。具体的には、この取付機構として、遊技盤 30 の裏面から見て左下隅部には上下方向に延びる支持金具 231 が設けられ、この支持金具 231 には同一軸線上に上下一対の支持孔が形成されている。その他、遊技盤 30 の右下部において符号 232 は上下一対の被締結孔（ナイラッチ孔）であり、同左上部において符号 233 は係止爪片である。

【0117】

また、内枠 12 の裏面には、第 2 制御基板ユニット 202 や裏パックユニット 203 を取り付けるための取付機構が設けられている。具体的には、内枠 12 にはその右端部に長尺状の支持金具 235 が取り付けられており、その構成を図 10 に示す。図 10 に示すように、支持金具 235 は長尺板状の金具本体 236 を有し、その金具本体 236 より起立させるようにして、下方 2 カ所に第 2 制御基板ユニット用の支持孔部 237 が形成されると共に、上方 2 カ所に裏パックユニット用の支持孔部 238 が形成されている。それら支持孔部 237、238 にはそれぞれ同軸の支持孔が形成されている。その他、図 8、9 に示すように、第 2 制御基板ユニット用の取付機構として、内枠 12 には、遊技盤設置領域よりも下方左端部に上下一対の被締結孔（ナイラッチ孔）239 が設けられている。また、裏パックユニット用の取付機構として、内枠 12 には、遊技盤設置領域の左端部に上下一対の被締結孔（ナイラッチ孔）240 が設けられている。但し、第 2 制御基板ユニット用の支持金具と裏パックユニット用の支持金具とを各々個別の部材で設けることも可能である。符号 241、242、243 は、遊技盤 30 との間に裏パックユニット 203 を挟み込んで支持するための回動式の固定具である。

【0118】

その他、内枠 12 の背面構成において、遊技盤 30 の右下部には、後述する払出機構より払い出される遊技球を上皿 19、下皿 15、又は排出通路 218 の何れかに振り分けるための遊技球分配部 245 が設けられている。すなわち、遊技球分配部 245 の開口部 245a は上皿 19 に通じ、開口部 245b は下皿 15 に通じ、開口部 245c は排出通路 218 に通じる構成となっている（図 9 参照）。なお、従来、遊技球分配部 245 に相当する部分が裏パックユニット 203 側に設けられていたため、上皿 19 に至る球排出口（図 2 の球通路樋 69）を通じて裏パックユニット 203 を押すことにより、内枠 12 と遊技球分配部 245 に相当する部分との間に隙間が生じ、その隙間を通じて針金等を差し込み、内部機器を操作するといった不正行為が考えられた。そこで本パチンコ機 10 では、遊技球分配部 245 として内枠 12 側に設け、なおかつ固定手段によって固定することにより、そのような不正行為を防止している。さらに、遊技球分配部 245 の上端面は遊技盤 30 の下端面が設置される高さ位置に合わせて形成されており、遊技盤 30 の取外しの妨げとならないように工夫されている。

【0119】

また、内枠 12 の下端部には、下皿 15 に向けて設置された上記スピーカ 249 の背後を囲むための樹脂製のスピーカボックス 246 が取り付けられており、このスピーカボックス 246 により低音域の音質改善が図られている。

【0120】

次に、第 1 制御基板ユニット 201 の基本構成を図 11～図 14 を用いて説明する。図 11 は第 1 制御基板ユニット 201 の正面図、図 12 は同ユニット 201 の斜視図、図 13 は同ユニット 201 の分解斜視図、図 14 は同ユニット 201 を裏面から見た分解斜視図である。但し、これらの図においては、説明の便宜上いずれも後述するコネクタ部等については図示を省略している。

【0121】

第 1 制御基板ユニット 201 は略 L 字状をなす取付台 251 を有し、この取付台 251 に制御装置としての主制御装置 261 と音声ランプ制御装置 262 とが搭載されている。ここで、主制御装置 261 は、主たる制御を司る CPU、遊技プログラムを記憶した ROM、遊技の進行に応じた必要なデータを記憶する RAM、各種機器との連絡をとるポート、各種抽選の際に用いられる乱数発生器、時間計数や同期を図る場合などに使用されるク

ロックパルス発生回路等を含む主基板（本実施形態における制御基板に相当する）を具備しており、この主基板が透明樹脂材料等よりなる基板ボックス２６３に収容（被包）されて構成されている。なお、基板ボックス２６３は、略直方体形状のボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備えている。これらボックスベースとボックスカバーとは封印ユニット２６４によって開封不能に連結され、これにより基板ボックス２６３が封印されている。

【０１２２】

封印ユニット２６４はボックスベースとボックスカバーとを開封不能に連結する構成であれば任意の構成が適用できるが、ここでは図１１等にも示すように、５つの封印部材が連結された構成となっており、この封印部材の長孔に係止爪を挿入することでボックスベースとボックスカバーとが開封不能に連結されるようになっている。封印ユニット２６４による封印処理は、その封印後の不正な開封を防止し、また万一不正開封が行われてもそのような事態を早期に且つ容易に発見可能とするものであって、一旦開封した後でも再度開封・封印処理を行うこと自体は可能である。すなわち、封印ユニット２６４を構成する５つの封印部材のうち、少なくとも一つの封印部材の長孔に係止爪を挿入することにより封印処理が行われる。そして、収容した主基板の不具合などにより基板ボックス２６３を開封する場合には、係止爪が挿入された封印部材と他の封印部材との連結を切断する。その後、再度封印処理する場合は他の封印部材の長孔に係止爪を挿入する。基板ボックス２６３の開封を行った旨の履歴を当該基板ボックス２６３に残しておけば、基板ボックス２６３を見ることで不正な開封が行われた旨を容易に発見できる。

【０１２３】

但し、主基板には、各ケーブルコネクタのコネクタを接続するための端子部（図中Wが端子部を露出させるべく基板ボックス２６３に形成された孔に相当する）が設けられており、該端子部は、基板ボックス２６３から露出状態となっている。かかる端子部の露出は、他の基板及び基板ボックスについても同様である。

【０１２４】

また、音声ランプ制御装置２６２は、例えば主制御装置２６１（主基板）又は表示制御装置４５からの指示に従い音声やランプ表示の制御を司るCPUや、その他ROM、RAM、各種ポート等を含む音声ランプ制御基板を具備しており、この音声ランプ制御基板が透明樹脂材料等よりなる基板ボックス２６５に収容されて構成されている。音声ランプ制御装置２６２上には電源中継基板２６６が搭載されており、後述する電源基板より供給される電源がこの電源中継基板２６６を介して表示制御装置４５及び音声ランプ制御装置２６２に出力されるようになっている。

【０１２５】

取付台２５１は、有色（例えば緑、青等）の樹脂材料（例えばポリカーボネイト樹脂製）にて成形され、その表面に平坦状をなす２つの基板搭載面２５２、２５３が設けられている。これら基板搭載面２５２、２５３は直交する向きに延び、前後方向に段差をもって形成されている。但し、取付台２５１は無色透明又は半透明の樹脂成形品であっても良い。本実施形態では、取付台２５１（特に基板搭載面２５２）が相手先部材に相当する。

【０１２６】

そして、一方の基板搭載面２５２上に主制御装置２６１（主基板）が横長の向きに配置されると共に、他方の基板搭載面２５３上に音声ランプ制御装置２６２（音声ランプ制御基板）が縦長の向きに配置されるようになっている。特に、主制御装置２６１は、パチンコ機１０裏面から見て手前側に配置され、音声ランプ制御装置２６２はその奥側に配置される。この場合、基板搭載面２５２、２５３が前後方向に段差をもって形成されているため、これら基板搭載面２５２、２５３に主制御装置２６１及び音声ランプ制御装置２６２を搭載した状態において各制御装置２６１、２６２はその一部を前後に重ねて配置されるようになる。つまり、図１２等にも見られるように、主制御装置２６１はその一部（本実施形態では１／３程度）が浮いた状態で配置されるようになる。故に、主制御装置２６１に重なる領域まで音声ランプ制御装置２６２を拡張することが可能となり、当該制御基板

の大型化にも良好に対処できる。また、各制御装置が効率良く設置できるようになる。また、第1制御基板ユニット201を遊技盤30に装着した状態では、基板搭載面252の後方にスペースが確保され、可変入賞装置32やその電気配線等が無理なく設置できるようになっている。

【0127】

図13及び図14に示すように、主基板用の基板搭載面252には、左右2カ所に横長形状の貫通孔254が形成されている。これに対応して、主制御装置261の基板ボックス263には、その裏面の左右2カ所に回動式の固定具267が設けられている。主制御装置261を基板搭載面252に搭載する際には、基板搭載面252の貫通孔254に固定具267が通され、その状態で固定具267が回動されて主制御装置261がロックされる。従って、上述の通り主制御装置261はその一部が浮いた状態で配置されるとしても、当該主制御装置261の脱落等の不都合が回避できる。また、主制御装置261は第1制御基板ユニット201（基板搭載面252）の裏面側から固定具267をロック解除しなければ、取り外しできないため、基板取り外し等の不正行為に対して抑止効果が期待できる。主基板用の基板搭載面252にはその裏面に格子状のリブ255が設けられている。

【0128】

取付台251には、図11等の左端面に上下一対の支軸256が設けられており、この支軸256を図9等に示す支持金具231に取り付けることで、第1制御基板ユニット201が遊技盤30に対して開閉可能に支持される。また、取付台251には、右端部に締結具として上下一対のナイラッチ257が設けられると共に上端部に長孔258が設けられており、ナイラッチ257を図8等に示す被締結孔232にはめ込むと共に、長孔258に図8等に示す係止爪片233を係止させることで、第1制御基板ユニット201が遊技盤30に固定されるようになる。なお、支持金具231及び支軸256が前記図7の支軸部M1に、被締結孔232及びナイラッチ257が締結部M2に、係止爪片233及び長孔258が係止爪部M3に、それぞれ相当する。

【0129】

次に、第2制御基板ユニット202を図15～図17を用いて説明する。図15は第2制御基板ユニット202の正面図、図16は同ユニット202の斜視図、図17は同ユニット202の分解斜視図である。

【0130】

第2制御基板ユニット202は横長形状をなす取付台301を有し、この取付台301に払出制御装置311、発射制御装置312、電源装置313及びカードユニット接続基板314が搭載されている。払出制御装置311、発射制御装置312及び電源装置313は周知の通り制御の中枢をなすCPUや、その他ROM、RAM、各種ポート等を含む制御基板を具備しており、払出制御装置311の払出制御基板により、賞品球や貸出球の払出が制御される。また、発射制御装置312の発射制御基板により、遊技者によるハンドル18の操作に従い発射モータ229の制御が行われ、電源装置313の電源基板により、各種制御装置等で要する所定の電源電圧が生成され出力される。カードユニット接続基板314は、パチンコ機前面の貸球操作部120及び図示しないカードユニットに電氣的に接続され、遊技者による球貸し操作の指令を取り込んでそれを払出制御装置311に出力するものである。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿に遊技球が直接貸し出される現金機では、カードユニット接続基板314を省略することも可能である。

【0131】

上記払出制御装置311、発射制御装置312、電源装置313及びカードユニット接続基板314は、透明樹脂材料等よりなる基板ボックス315、316、317、318にそれぞれ収容されて構成されている。特に、払出制御装置311では、前述した主制御装置261と同様、基板ボックス315を構成するボックススペースとボックスカバーとが封印ユニット319（封印手段）によって開封不能に連結され、これにより基板ボックス

3 1 5 が封印されている。

【 0 1 3 2 】

払出制御装置 3 1 1 には状態復帰スイッチ 3 2 1 が設けられている。例えば、払出モータ部の球詰まり等、払出エラーの発生時において状態復帰スイッチ 3 2 1 が押下されると、払出モータが正逆回転され、球詰まりの解消（正常状態への復帰）が図られるようになっている。

【 0 1 3 3 】

また、電源装置 3 1 3 には R A M 消去スイッチ 3 2 3 が設けられている。本パチンコ機 1 0 はバックアップ機能を有しており、万一停電が発生した際でも停電時の状態を保持し、停電からの復帰（復電）の際には停電時の状態に復帰できるようになっている。従って、通常手順で（例えばホールの営業終了時に）電源遮断すると電源遮断前の状態が記憶保持されることから、電源投入時に初期状態に戻したい場合には、R A M 消去スイッチ 3 2 3 を押しながら電源を投入することとしている。

【 0 1 3 4 】

取付台 3 0 1 は例えば無色透明な樹脂成形品よりなり、その表面に平坦状をなす基板搭載面 3 0 2 が設けられている。この場合、発射制御装置 3 1 2、電源装置 3 1 3 及びカードユニット接続基板 3 1 4 は取付台 3 0 1 の基板搭載面 3 0 2 に横並びの状態直接搭載され、電源装置 3 1 3 の基板ボックス 3 1 7 上に払出制御装置 3 1 1 が取付台 3 0 3 を介して搭載されている。

【 0 1 3 5 】

また、取付台 3 0 1 には、図 1 5 等の右端部に上下一対の支軸 3 0 5 が設けられており、この支軸 3 0 5 を図 8 等に示す支持孔部 2 3 7 に上方から挿通させることで、第 2 制御基板ユニット 2 0 2 が内枠 1 2 に対して開閉可能に支持される。また、取付台 3 0 1 には、左端部に締結具として上下一対のナイラッチ 3 0 6 が設けられており、ナイラッチ 3 0 6 を図 8 等に示す被締結孔 2 3 9 にはめ込むことで、第 2 制御基板ユニット 2 0 2 が内枠 1 2 に開閉不能に固定されるようになる。なお、支持孔部 2 3 7 及び支軸 3 0 5 が前記図 7 の支軸部 M 4 に、被締結孔 2 3 9 及びナイラッチ 3 0 6 が締結部 M 5 に、それぞれ相当する。

【 0 1 3 6 】

次に、裏パックユニット 2 0 3 の構成を説明する。裏パックユニット 2 0 3 は、樹脂成形された裏パック 3 5 1 と遊技球の払出機構部 3 5 2 とを一体化したものであり、パチンコ機 1 0 の背面から見た背面図を図 1 8 に示し、分解斜視図を図 1 9 に示す。

【 0 1 3 7 】

裏パック 3 5 1 は例えば A B S 樹脂により一体成形されており、略平坦状のベース部 3 5 3 と、パチンコ機後方に突出し横長の略直方体形状をなす保護カバー部 3 5 4 とを有する。保護カバー部 3 5 4 は左右側面及び上面が開鎖され且つ下面のみが開放された形状をなし、少なくとも可変表示装置ユニット 3 5 を囲むのに十分な大きさを有する（但し本実施形態では、前述の音声ランプ制御装置 2 6 2 も合わせて囲む構成となっている）。保護カバー部 3 5 4 の背面には多数の通気孔 3 5 4 a が設けられている。この通気孔 3 5 4 a は各々が長孔状をなし、それぞれの通気孔 3 5 4 a が比較的近い位置で隣り合うよう設けられている。従って、隣り合う通気孔 3 5 4 a 間にある樹脂部分を切断することにより、裏パック 3 5 1 の背面を容易に開口させることができる。つまり、通気孔 3 5 4 a 間の樹脂部分を切断してその内部の表示制御装置 4 5 等を露出させることで、所定の検定等を容易に実施することができる。

【 0 1 3 8 】

また、ベース部 3 5 3 には、保護カバー部 3 5 4 を迂回するようにして払出機構部 3 5 2 が配設されている。すなわち、裏パック 3 5 1 の最上部には上方に開口したタンク 3 5 5 が設けられており、このタンク 3 5 5 には遊技ホールの島設備から供給される遊技球が逐次補給される。タンク 3 5 5 の下方には、例えば横方向 2 列（2 条）の球通路を有し下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール 3 5 6 が連結され、さらにタンクレール 3 5

10

20

30

40

50

6の下流側には縦向きにケースレール357が連結されている。払出装置358はケースレール357の最下流部に設けられ、払出モータ358a等の所定の電氣的構成により必要個数の遊技球の払出が適宜行われる。そして、払出装置358より払い出された遊技球は図19に示す払出通路359等を通じて前記上皿19に供給される。

【0139】

タンクレール356には、当該タンクレール356に振動を付加するためのバイブレータ360が取り付けられている。従って、仮にタンクレール356付近で球詰まりが生じた際、バイブレータ360が駆動されることで球詰まりが解消されるようになっている。なお、バイブレータ360は、パチンコ機の設計変更等による位置変更や故障時等における交換が容易になるよう、モータ等の振動体が本体部であるケース内に收容されたバイブレータ・ユニットとして構成されており、当該ユニットが着脱可能のようにタンクレール356に取付けられている。なお、前記バイブレータ・ユニットは、その本体部(ケース面)がタンクレール356に密着せず、本体部から突出した足部(振動伝達子)を介してタンクレール356の側面に取付けられており、そのバイブ振動がより効果的にタンクレール356に伝達されるよう構成されている。

10

【0140】

タンクレール356の構成について詳述すると、図20に示すように、タンクレール356は上方に開口した長尺樋状をなすレール本体361を有し、レール本体361の始端部には球面状の球受部362が設けられている。この球受部362により、タンク355より落下してきた遊技球が円滑にレール本体361内に取り込まれる。また、レール本体361には長手方向に延びる仕切壁363が設けられており、この仕切壁363により遊技球が二手に分流されるようになっている。仕切壁363により仕切られた2条の球通路は遊技球の直径よりも僅かに幅広となっている。仕切壁363により仕切られた各球通路の底面には、1筋又は2筋の突条364が設けられると共に、その突条364の側方に開口部365が設けられている。

20

【0141】

また、レール本体361には、その下流側半分程度の天井部分を覆うようにして整流板367が配設されている。この整流板367は、下流側になるほどタンクレール356内の球通路高さを制限するよう弓なりに反った形状をしており、さらにその下面には長手方向に延びる凸部368が形成されている。これにより、タンクレール356内を流れる各遊技球は最終的には上下に積み重なることなく下流側に流出する。従って、タンクレール356に多量の遊技球群が流れ込んできても、遊技球の噛み込みが防止され、タンクレール356内における球詰まりが解消されるようになっている。なお、レール本体361が黒色の導電性ポリカーボネイト樹脂により成形されるのに対し、整流板367は透明のポリカーボネイト樹脂により成形されている。整流板367は着脱可能に設けられており、当該整流板367を取り外すことによりタンクレール356内のメンテナンスが容易に実施できるようになっている。

30

【0142】

図18, 19の説明に戻り、払出機構部352には、払出制御装置311から払出装置358への払出指令の信号を中継する払出中継基板381が設置されると共に、外部より主電源を取り込むための電源スイッチ基板382が設置されている。電源スイッチ基板382には、電圧変換器を介して例えば交流24Vの主電源が供給され、電源スイッチ382aの切替操作により電源ON又は電源OFFとされるようになっている。

40

【0143】

タンク355から払出通路359に至るまでの払出機構部352は何れも導電性を有する樹脂材料(例えば導電性ポリカーボネイト樹脂)にて成形され、その一部にてアースされている。これにより、遊技球の帯電によるノイズの発生が抑制されるようになっている。

【0144】

また、裏パック351には、図18等の右端部に上下一対の支軸385が設けられてお

50

り、この支軸 3 8 5 を図 8 等 に示す支持孔部 2 3 8 に上方から挿通させることで、裏パックユニット 2 0 3 が内枠 1 2 に対して開閉可能に支持される。また、裏パック 3 5 1 には、左端部に締結具として上下一対のナイラッチ 3 8 6 が設けられると共に、上端部に係止孔 3 8 7 が設けられており、ナイラッチ 3 8 6 を図 8 等 に示す被締結孔 2 4 0 にはめ込むと共に、係止孔 3 8 7 に図 8 等 に示す固定具 2 4 2 を係止させることで、裏パックユニット 2 0 3 が内枠 1 2 に開閉不能に固定されるようになる。また、本実施形態では、多くの遊技球が貯留され比較的負荷のかかるタンク 3 5 5 の近傍の係止部 M 8 として、回動式の I 型の留め具が採用されている。このため、ナイラッチ等の固定具を用いた場合に比べてより確実に裏パックユニット 2 0 3 (タンク 3 5 5) の係止を行うことができる。このとき、図 8 等 に示す固定具 2 4 1, 2 4 3 によっても裏パックユニット 2 0 3 が内枠 1 2 に固定される。なお、支持孔部 2 3 8 及び支軸 3 8 5 が前記図 7 の支軸部 M 6 に、被締結孔 2 4 0 及びナイラッチ 3 8 6 が締結部 M 7 に、固定具 2 4 2 及び係止孔 3 8 7 が係止部 M 8 に、それぞれ相当する。また、固定具 2 4 3 が係止部 M 9 に相当する (図 7 参照)。

10

【0145】

また、裏パックユニット 2 0 3 のベース部 3 5 3 には、外部中継端子板 2 3 0 用の開口部 3 9 1 が設けられており、裏パックユニット 2 0 3 の固定された状態でも、外部中継端子板 2 3 0 の取外し及び操作が可能となっている。

【0146】

なお、上述してきた構成により、主制御装置 2 6 1 (基板ボックス 2 6 3) の取外しを行おうとした場合には、まず裏パックユニット 2 0 3 を開け (又は取外し)、次に第 1 制御基板ユニット 2 0 1 を開け (又は取外し)、そして、固定具 2 6 7 を解除操作するという複雑な過程をふむことにより、ようやく行うことができる。このため、主制御装置 2 6 1 (基板ボックス 2 6 3) の取り外し等の不正行為に対して抑止効果が期待できるようになっている。

20

【0147】

次に、本実施形態の特徴的構成について説明する。本実施形態では、主制御装置 2 6 1 の基板ボックス 2 6 3 等において特徴を有している。上述したとおり、主基板は、基板ボックス 2 6 3 内において被包され、各ケーブルコネクタのコネクタを接続するための端子部が、基板ボックス 2 6 3 から露出状態となっている。図 2 2 は、その露出状態を模式的に示す分解斜視図である。

30

【0148】

本実施形態において、基板ボックス 2 6 3 の一側縁に相当する上辺部には、鉤状 (断面略 L 字状) に凹設された第 1 被包壁部としての被包棚部 2 6 3 T、及び、第 2 被包壁部としての被包壁部 2 6 3 K が形成されている。被包棚部 2 6 3 T は主基板と平行に延びており、被包壁部 2 6 3 K は被包棚部 2 6 3 T に直交する方向に延びている。これら被包棚部 2 6 3 T 及び被包壁部 2 6 3 K により形成された鉤状の段差部に、上述したコネクタの端子部が設けられている。より詳しくは、基板ボックス 2 6 3 の向かって右上の段差部の被包棚部 2 6 3 T には、3 つの孔 W が一列に並んで設けられ、各孔 W からは、それぞれ主基板から突出する 3 つの端子部 4 0 1, 4 0 2, 4 0 3 が露出している。向かって左側の端子部 4 0 1 には、第 2 契機対応口 (スルーゲート) 3 4 に対応して設けられた電気部品としての第 2 契機対応口 (ゲート) スイッチ 2 2 5 からの検出信号を送信するケーブルコネクタのコネクタ (図示せず) が接続される。中央の端子部 4 0 2 には、第 1 契機対応口 (始動口) 3 3 に対応して設けられた電気部品としての第 1 契機対応口 (始動口) スイッチ 2 2 4 からの検出信号を送信するケーブルコネクタのコネクタ (図示せず) が接続される。向かって右側の端子部 4 0 3 には、可変入賞装置 3 2 に対応して設けられた電気部品、駆動手段としての大入賞口ソレノイドからの検出信号を送信するケーブルコネクタ C C のコネクタ C N (後述する図 2 4 (a) 参照) が接続される。尚、これら端子部 4 0 1 ~ 4 0 3 は、主基板上の図示しない配線パターンを介して上記 C P U 等の制御手段に電氣的に接続されていることはいうまでもない。

40

【0149】

50

そして、本実施形態では、これら各端子部 401 ~ 403 (端子部 401 ~ 403 に接続されたケーブルコネクタ C C のコネクタ C N) を覆うようにして、透明樹脂素材よりなる被覆手段としてのコネクタカバー 411 が取付けられている。図 23 (a), (b) は、それぞれコネクタカバー 411 を示す側面図、底面図であるが、コネクタカバー 411 は、ケーブルコネクタのコネクタの抜け方向側の面を覆う略矩形板状のカバー壁部 412 と、カバー壁部 412 に対し、直交する方向に突出する天壁部 413 と、天井壁 413 両端に一体的に延びカバー壁部 412 に対し直交する方向に突出する一対のアーム部 414 と、アーム部 414 の先端部に一体的に設けられ、下方に突出する係止部としての係止爪 415 と、カバー壁部 412 の下辺から前記アーム部 414 と同方向に向かって延びる支持壁部 416 と、前記支持壁部 416 及びアーム部 414 間を連結する側壁部 417 と、前記天壁部 413 からさらに延びアーム部 414 間を連結する連結カバー部 418 とを具備しており、これら各部よりなるコネクタカバー 411 は一体成形されている。

10

【0150】

そして、図 22 及び図 24 (a), (b) に示すように、コネクタカバー 411 が図 22 奥行方向 (コネクタの差込方向) に移動させられた上で取付台 251 (基板搭載面 252 側) に取付けられている。より具体的には、コネクタカバー 411 の側壁部 417 及び支持壁部 416 の先端が、前記基板ボックス 263 の被包棚部 263 T に当接するまで移動させられ、かつ、アーム部 414 が前記取付台 251 上に沿って案内された上で、係止爪 415 が取付台 251 に引っ掛けられるようにして係止状態で取付けられている。

【0151】

20

この場合において、支持壁部 416 の先端が、基板ボックス 263 の被包棚部 263 T に当接しているのみならず、支持壁部 416 は、被包壁部 263 K に対し面で当接支持されており、前記取付状態にあっては、コネクタカバー 411 (特に支持壁部 416) の傾動が規制されている。これに加えて、支持壁部 416 は、コネクタ C N (又は端子部 401 ~ 403) に対しても面で当接支持されている。換言すれば、支持壁部 416 は、被包壁部 263 K 及びコネクタ C N によりほぼ挟持されている。さらに、コネクタカバー 411 の取付状態にあっては、コネクタ C N とカバー壁部 412 との距離が、コネクタ C N の取り外しに必要な距離 (差込量) よりも短くなるよう設定されている。

【0152】

併せて、コネクタカバー 411 の取付状態にあっては、前記コネクタ C N の上面側は、連結カバー部 418 で覆われる格好となり、連結カバー部 418 の先端と取付台 251 との間にはごく僅かな開口 419 が形成され、当該開口 419 からケーブルコネクタ C C のケーブル C A が導出されている。

30

【0153】

かかる開口 419 の存在により、ケーブルコネクタ C C の接続状態に支障を来すことなく、また、ケーブル C A への悪影響が抑制されているのであるが、本実施形態では、開口 419 としては、ケーブル C A が挿通できる程度に狭く形成されていれば十分であるとの思想の下、コネクタ C N が極力コネクタカバー 411 で覆われる構成が採用されている。すなわち、上述したように、コネクタ C N の下面側には支持壁部 416 が当接しているとともに、コネクタ C N の側面側には側壁部 417 が位置している。また、コネクタ C N の抜け方向側にはカバー壁部 412 が位置している。さらに、本実施形態ではコネクタ C N の上面側には、天壁部 413 のみならず、上述した連結カバー部 418 が位置している。これにより、コネクタ C N 自身への外部からの接触が禁止された格好となっている。但し、連結カバー部 418 として、天壁部 413 と同じような構成としたのでは、ケーブル C A を挿通させることが事実上困難となるので、本実施形態では、連結カバー部 418 を上方に幾分膨出した構造として、前述した開口 419 を確保することとしているのである。かかる構成を採用することで、コネクタカバー 411 を取外すことなくコネクタ C N に直接接触する行為が防止されているとともに、一方で、コネクタ C N への悪影響の防止が図られている。

40

【0154】

50

また、コネクタカバー 4 1 1 の側壁部 4 1 7 及び支持壁部 4 1 6 の幅（突出長、奥行き幅）は、前記被包壁部 2 6 3 K の奥行幅とほぼ同じに設定されており、上記コネクタカバー 4 1 1 の取付状態にあつては、コネクタカバー 4 1 1 のカバー壁部 4 1 2 と、それに隣接する基板ボックス 2 6 3 とが略面一状態に維持されている。

【 0 1 5 5 】

さらに、本実施形態では、前記面一となっている部分には、コネクタカバー 4 1 1 及び基板ボックス 2 6 3 双方に跨るようにして封印手段としての封印シール 4 2 1 が取付されている。かかる封印シール 4 2 1 には、多数の微細な打抜（切れ込み）部が形成されている。そして、一旦封印シール 4 2 1 が貼付された場合にあっては、封印シール 4 2 1 を不正に強引に剥がそうとすると、打抜（切れ込み）によって形成された繋ぎ部が非常に幅狭となつてゐることから、当該繋ぎ部において比較的破断されやすくなり、該破断に基づき残存部が張り付いたまま残りやすくなる。このため、封印シール 4 2 1 が剥がされたことの証拠とすることができるようになっている（痕跡残存シール）。

10

【 0 1 5 6 】

また、本実施形態では、封印シール 4 2 1 として、ホログラムシールが採用されている。ここで、ホログラムというのは、レーザー光を照射して、反射した光の波形（干渉縞）をフィルム（や乾板）に記録し、立体画像として再生することの可能な立体画像記録体を主としていうものである。このような構成とすることで、封印シール 4 2 1 の複製が困難となるため、不正行為者がその封印シール 4 2 1 を剥離して別のものに取り替えた場合であっても、その事実を容易に確認することができるようになっている。

20

【 0 1 5 7 】

さらに、ホログラムが付与されているのは、封印シール 4 2 1 の周囲部分であつて、中央部分は、透明となつてゐる。ホログラムシールが採用されていると、内部の透視性が妨げられがちであるが、本実施形態のように、中央部分が透明であるため、コネクタカバー 4 1 1 及び基板ボックス 2 6 3 が透明であることも相俟つて、内部のコネクタ C N 等の接続状況を随時確認できるようになっている。

【 0 1 5 8 】

但し、封印シール 4 2 1 としては、上記のような構成に必ずしも限られるものではなく、剥離を行った場合に何らかの痕跡が外観として残るものであればよい。また、必ずしもシール状のものに限られず、例えば板状、プレート状等他の形状を有する封印手段を採用してもよい。また、詳細な説明は省略するが、封印シール 4 2 1 に、メーカー名や機種名、製造年月日、製造番号等の固有の情報を付しておいてもよい。この場合、別の封印シールに取り替えられた場合には、情報の内容に対比することで不正行為が行われたか否かを確認することができる。

30

【 0 1 5 9 】

併せて、本実施形態では、前記封印シール 4 2 1 の貼付される側、すなわち、コネクタカバー 4 1 1 のカバー壁部 4 1 2 の一部及び基板ボックス 2 6 3 の一部には、位置合わせ手段としての位置決め凹部 S T 1 , S T 2 が形成されている。かかる位置決め凹部 S T 1 , S T 2 の存在により、封印シール 4 2 1 の取付作業を円滑、且つ、正確に行うことができ、作業効率の向上を図ることができる。また、不正行為者が別のコネクタカバーに不正に取り替えたような場合に、不正品に位置合わせ手段がないことに基づいて不正行為等を発見することもできる。

40

【 0 1 6 0 】

さて、図 2 1 は、本パチンコ機 1 0 の電氣的構造を示したブロック図である。パチンコ機 1 0 の主制御装置 2 6 1 には、演算装置である 1 チップマイコンとしての C P U 5 0 1 が搭載されている。C P U 5 0 1 には、該 C P U 5 0 1 により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶した R O M 5 0 2 と、その R O M 5 0 2 内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリである R A M 5 0 3 と、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路が内蔵されている。

【 0 1 6 1 】

50

R A M 5 0 3 は、パチンコ機 1 0 の電源のオフ後においても電源装置 3 1 3 からバックアップ電圧が供給されてデータが保持（バックアップ）できる構成となっており、R A M 5 0 3 には、各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリやエリアの他に、バックアップエリア 5 0 3 a が設けられている。

【 0 1 6 2 】

バックアップエリア 5 0 3 a は、停電などの発生により電源が切断された場合において、電源の再入時にパチンコ機 1 0 の状態を電源切断前の状態に復帰させるべく、電源切断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタ、I / O 等の値を記憶しておくためのエリアである。バックアップエリア 5 0 3 a への書き込みは、N M I 割込み処理（図 3 3 参照）によって電源切断時に実行され、逆にバックアップエリア 5 0 3 a に書き込まれた各値の復帰は、電源入時（停電解消による電源入を含む。以下同様）の復電処理（図 2 6 参照）において実行される。なお、C P U 5 0 1 の N M I 端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源断時に、後述する停電監視回路 5 4 2 から出力される停電信号 S K 1 が入力されるように構成されており、停電の発生により、図 3 3 の停電処理（N M I 割込み処理）が即座に実行される。

10

【 0 1 6 3 】

かかる R O M 5 0 2 及び R A M 5 0 3 を内蔵した C P U 5 0 1 には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン 5 0 4 を介して入出力ポート 5 0 5 が接続されている。入出力ポート 5 0 5 には、後述する R A M 消去スイッチ回路 5 4 3、払出制御装置 3 1 1、表示制御装置 4 5 や、その他図示しないスイッチ群などが接続されている。

20

【 0 1 6 4 】

また、払出制御装置 3 1 1 は、払出モータ 3 5 8 a により賞球や貸し球の払出制御を行うものである。演算装置である C P U 5 1 1 は、その C P U 5 1 1 により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶した R O M 5 1 2 と、ワークメモリ等として使用される R A M 5 1 3 とを備えている。

【 0 1 6 5 】

払出制御装置 3 1 1 の R A M 5 1 3 は、前述した主制御装置 2 6 1 の R A M 5 0 3 と同様に、パチンコ機 1 0 の電源のオフ後においても電源装置 3 1 3 からバックアップ電圧が供給されてデータが保持（バックアップ）できる構成となっており、R A M 5 1 3 には、各種のデータ等を一時的に記憶するためのメモリやエリアの他に、バックアップエリア 5 1 3 a が設けられている。

30

【 0 1 6 6 】

バックアップエリア 5 1 3 a は、停電などの発生により電源が切断された場合において、電源の再入時にパチンコ機 1 0 の状態を電源切断前の状態に復帰させるべく、電源切断時のスタックポインタや、各レジスタ、I / O 等の値を記憶しておくためのエリアである。このバックアップエリア 5 1 3 a への書き込みは、N M I 割込み処理（図 3 3 参照）によって電源切断時に実行され、逆にバックアップエリア 5 1 3 a に書き込まれた各値の復帰は、電源入時の復電処理（図 3 4 参照）において実行される。

【 0 1 6 7 】

かかる R O M 5 1 2 及び R A M 5 1 3 を内蔵した C P U 5 1 1 には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン 5 1 4 を介して入出力ポート 5 1 5 が接続されている。入出力ポート 5 1 5 には、R A M 消去スイッチ回路 5 4 3、主制御装置 2 6 1、発射制御装置 3 1 2、払出モータ 3 5 8 a などがそれぞれ接続されている。

40

【 0 1 6 8 】

発射制御装置 3 1 2 は、発射モータ 2 2 9 による遊技機の発射を許可又は禁止するものであり、発射モータ 2 2 9 は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、払出制御装置 3 1 1 から発射許可信号が出力されていること、遊技者がハンドル 1 8 をタッチしていることをセンサ信号により検出していること、発射を停止させるための発射停止スイッチが操作されていないことを条件に、発射モータ 2 2 9 が駆動され、ハンドル 1 8 の操作量に応じた強度で遊技球が発射される（図 9 参照）。

50

【0169】

表示制御装置45は、第1図柄表示装置42における第1図柄の変動表示と、第2図柄表示装置41における第2図柄の変動表示とを制御するものである。この表示制御装置45は、CPU521と、ROM(プログラムROM)522と、ワークRAM523と、ビデオRAM524と、キャラクタROM525と、画像コントローラ526と、入力ポート527と、2つの出力ポート528, 529と、バスライン530, 531とを備えている。入力ポート527の入力には主制御装置261の出力が接続され、入力ポート527の出力には、CPU521、ROM522、ワークRAM523、画像コントローラ526が接続されると共にバスライン530を介して一方の出力ポート528が接続されている。出力ポート528の出力には第2図柄表示装置41(表示部43)や、音声ラン
10 プ制御装置262が接続されている。また、画像コントローラ526にはバスライン531を介して出力ポート529が接続されており、その出力ポート529の出力には液晶表示装置たる第1図柄表示装置42が接続されている。

【0170】

表示制御装置45のCPU521は、主制御装置261から送信される表示コマンドに基づいて第1図柄表示装置42及び第2図柄表示装置41の表示を制御する。ROM522は、そのCPU521により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶するためのメモリであり、ワークRAM523は、CPU521による各種プログラムの実行時に使用されるワークデータやフラグを一時的に記憶するためのメモリである。

【0171】

ビデオRAM524は、第1図柄表示装置42に表示される表示データを記憶するためのメモリであり、このビデオRAM524の内容を書き替えることにより、第1図柄表示装置42の表示内容が変更される。キャラクタROM525は、第1図柄表示装置42に表示される図柄などのキャラクタデータを記憶するためのメモリである。画像コントローラ526は、CPU521、ビデオRAM524、出力ポート529のそれぞれのタイミングを調整してデータの読み書きに介在すると共に、ビデオRAM524に記憶される表示データを、キャラクタROM525から所定のタイミングで読み出して第1図柄表示装置42に表示させるものである。

【0172】

また、電源装置313は、パチンコ機10の各部に電力を供給するための電源部541
30 と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路542と、RAM消去スイッチ323に接続されてなるRAM消去スイッチ回路543とを備えている。電源部541は、図示しない電源経路を通じて、主制御装置261や払出制御装置311等に対して各々に必要な動作電源を供給する。その概要としては、電源部541は、外部より供給される交流24ボルト電源を取り込み、各種スイッチやモータ等を駆動するための+12V電源、ロジック用の+5V電源、RAMバックアップ用のバックアップ電源などを生成し、これら+12V電源、+5V電源及びバックアップ電源を主制御装置261や払出制御装置311等に対して供給する。なお、発射制御装置312に対しては払出制御装置311を介して動作電源(+12V電源、+5V電源等)が供給される。

【0173】

停電監視回路542は、停電等の発生による電源断時に、主制御装置261のCPU501及び払出制御装置311のCPU511の各NMI端子へ停電信号SK1を出力するための回路である。停電監視回路542は、電源部541から出力される最大電圧である直流安定24ボルトの電圧を監視し、この電圧が22ボルト未満になった場合に停電(電源断)の発生と判断して、停電信号SK1を主制御装置261及び払出制御装置311へ出力する。この停電信号SK1の出力によって、主制御装置261及び払出制御装置311は、停電の発生を認識し、停電時処理(図33のNMI割込み処理)を実行する。

【0174】

なお、電源部541は、直流安定24ボルトの電圧が22ボルト未満になった後においても、かかる停電時処理の実行に十分な時間の間、制御系の駆動電圧である5ボルトの出
50

力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 は、停電時処理を正常に実行し完了することができる。

【 0 1 7 5 】

R A M 消去スイッチ回路 5 4 3 は、R A M 消去スイッチ 3 2 3 のスイッチ信号を取り込み、そのスイッチ 3 2 3 の状態に応じて主制御装置 2 6 1 の R A M 5 0 3 及び払出制御装置 3 1 1 の R A M 5 1 3 のバックアップデータをクリアするための回路である。R A M 消去スイッチ 3 2 3 が押下された際、R A M 消去スイッチ回路 5 4 3 は、R A M 消去信号 S K 2 を主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 に出力する。R A M 消去スイッチ 3 2 3 が押下された状態でパチンコ機 1 0 の電源が投入されると（停電解消による電源入を含む）、主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 においてそれぞれの R A M 5 0 3 , 5 1 3 のデータがクリアされる。

10

【 0 1 7 6 】

なお、第 1 図柄表示装置（液晶表示装置）4 2 には、図示は省略するが、左・中・右の 3 つの図柄列が設定されており、図柄列毎に図柄（第 1 図柄）が変動表示される。本実施形態では、例えば第 1 図柄は、「 0 」～「 9 」の数字を各々付すよう構成されており、数字の昇順又は降順に第 1 図柄が表示されて一連の図柄列が構成されている。そして、周期性をもって第 1 図柄が上から下へと変動表示されるようになっている。

【 0 1 7 7 】

この場合において、左図柄列においては、第 1 図柄が降順（付された数字が減る順）に表示され、中図柄列及び右図柄列においては、同じく第 1 図柄が昇順（付された数字が増える順）に表示される。そして、左図柄列 右図柄列 中図柄列の順に変動表示が停止し、その停止時に第 1 図柄表示装置 4 2 上で第 1 図柄が大当たり図柄の組合せ（本実施形態では、同一の第 1 図柄の組合せ）で揃えば大当たりとして特別遊技動画が表示されるようになっている（大当たり状態が開始される）。

20

【 0 1 7 8 】

さて次に、上記の如く構成されたパチンコ機 1 0 の動作について説明する。

【 0 1 7 9 】

本実施形態では、主制御装置 2 6 1 内の C P U 5 0 1 は、遊技に際し各種カウンタ情報を用いて第 1 図柄表示装置 4 2 の抽選（大当たり抽選）や図柄表示の設定などを行うこととしており、具体的には、図 2 5 に示すように、第 1 図柄表示装置 4 2 の大当たりの抽選に使用する大当たり乱数カウンタ C 1 と、第 1 図柄表示装置 4 2 の大当たり図柄の選択に使用する大当たり図柄カウンタ C 2 と、第 1 図柄表示装置 4 2 が外れ変動する際のリーチ抽選に使用するリーチ乱数カウンタ C 3 と、大当たり乱数カウンタ C 1 の初期値設定に使用する乱数初期値カウンタ C I N I と、第 1 図柄表示装置 4 2 の変動パターン選択に使用する変動種別カウンタ C S 1 , C S 2 と、左列、中列及び右列の各外れ図柄の設定に使用する左・中・右の各外れ図柄カウンタ C L , C M , C R とを用いることとしている。

30

【 0 1 8 0 】

このうち、カウンタ C 1 ~ C 3 , C I N I , C S 1 , C S 2 は、その更新の都度前回値に 1 が加算され、最大値に達した後 0 に戻るループカウンタとなっている。また、外れ図柄カウンタ C L , C M , C R は、C P U 5 0 1 内の R レジスタ（リフレッシュレジスタ）を用いてレジスタ値が加算され、結果的に数値がランダムに変化する構成となっている。各カウンタは定期的に更新され、その更新値が R A M 5 0 3 の所定領域に設定されたカウンタ用バッファに適宜格納される。また、R A M 5 0 3 には、1 つの実行エリアと 4 つの保留エリア（保留第 1 ~ 保留第 4 エリア）とからなる記憶エリアとしての保留球格納エリアが設けられており、これらの各エリアには、第 1 契機対応口 3 3 への遊技球の入賞履歴に合わせて、大当たり乱数カウンタ C 1 、大当たり図柄カウンタ C 2 及びリーチ乱数カウンタ C 3 の各値が時系列的に格納されるようになっている。

40

【 0 1 8 1 】

各カウンタについて詳しく説明すると、大当たり乱数カウンタ C 1 は、例えば 0 ~ 6 7 6 の範囲内で順に 1 ずつ加算され、最大値（つまり 6 7 6 ）に達した後 0 に戻る構成とな

50

っている。特に大当たり乱数カウンタC1が1周した場合、その時点の乱数初期値カウンタCINIの値が当該大当たり乱数カウンタC1の初期値として読み込まれる。なお、乱数初期値カウンタCINIは、大当たり乱数カウンタC1と同様のループカウンタであり（値＝0～676）、タイマ割込み毎に1回更新されると共に通常処理の残余時間内で繰り返し更新される。大当たり乱数カウンタC1は定期的に（本実施形態ではタイマ割込み毎に1回）更新され、遊技球が第1契機対応口33に入賞したタイミングでRAM503の保留球格納エリアに格納される。大当たりとなる乱数の値の数は、低確率時と高確率時とで2種類設定されており、本実施形態では、低確率時に大当たりとなる乱数の値の数は2で、その値は「337, 673」であり、高確率時に大当たりとなる乱数の値の数は10で、その値は「67, 131, 199, 269, 337, 401, 463, 523, 601, 661」である。なお、高確率時とは、予め定められた確率変動図柄によって大当たりになり付加価値としてその後の大当たり確率がアップした状態、いわゆる確変状態のときをいい、通常時（低確率時）とはそのような確変状態でないときをいう。

【0182】

大当たり図柄カウンタC2は、大当たりの際、第1図柄表示装置42の変動停止時の図柄を決定するものであり、本実施形態では、第1図柄表示装置42において第1図柄が10通り設定されていることから、10個（0～9）のカウンタ値が用意されている。すなわち、大当たり図柄カウンタC2は、0～9の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値（つまり9）に達した後0に戻る構成となっている。大当たり図柄カウンタC2は定期的に（本実施形態ではタイマ割込み毎に1回）更新され、遊技球が第1契機対応口33に入賞したタイミングでRAM503の保留球格納エリアに格納される。

【0183】

また、リーチ乱数カウンタC3は、例えば0～238の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値（つまり238）に達した後0に戻る構成となっている。本実施形態では、リーチ乱数カウンタC3によって、リーチ発生した後最終停止図柄がリーチ図柄の前後に1つだけずれて停止する「前後外れリーチ」と、同じくリーチ発生した後最終停止図柄がリーチ図柄の前後以外で停止する「前後外れ以外リーチ」と、リーチ発生しない「完全外れ」とを抽選することとしており、例えば、C3＝0, 1が前後外れリーチに該当し、C3＝2～21が前後外れ以外リーチに該当し、C3＝22～238が完全外れに該当する。なお、リーチの抽選は、第1図柄表示装置42の抽選確率の状態や変動開始時の始動保留球数等に応じて各々個別に設定されるものであってもよい。リーチ乱数カウンタC3は定期的に（本実施形態ではタイマ割込み毎に1回）更新され、遊技球が第1契機対応口33に入賞したタイミングでRAM503の保留球格納エリアに格納される。

【0184】

また、2つの変動種別カウンタCS1, CS2のうち、一方の変動種別カウンタCS1は、例えば0～198の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値（つまり198）に達した後0に戻る構成となっており、他方の変動種別カウンタCS2は、例えば0～240の範囲内で順に1ずつ加算され、最大値（つまり240）に達した後0に戻る構成となっている。以下の説明では、CS1を「第1変動種別カウンタ」、CS2を「第2変動種別カウンタ」ともいう。第1変動種別カウンタCS1によって、いわゆるノーマルリーチ、スーパーリーチ、プレミアムリーチ等、第1図柄のリーチ種別やその他大まかな図柄変動態様が決定され、第2変動種別カウンタCS2によって、リーチ発生後に最終停止図柄（本実施形態では中図柄）が停止するまでの経過時間（言い換えれば、変動図柄数）などより細かな図柄変動態様が決定される。従って、これらの変動種別カウンタCS1, CS2を組み合わせることで、変動パターンの多種多様化を容易に実現できる。また、第1変動種別カウンタCS1だけで図柄変動態様を決定したり、第1変動種別カウンタCS1と停止図柄とを組み合わせると同じく図柄変動態様を決定したりすることも可能である。

【0185】

変動種別カウンタCS1, CS2は、後述する通常処理が1回実行される毎に1回更新され、当該通常処理内の残余時間内でも繰り返し更新される。そして、第1図柄表示装置

10

20

30

40

50

4 2 による第 1 図柄の変動開始時における変動パターン決定に際して C S 1 , C S 2 のバッファ値が取得される。

【 0 1 8 6 】

左・中・右の各外れ図柄カウンタ C L , C M , C R は、第 1 図柄表示装置 4 2 の大当たり抽選が外れとなった時に左列第 1 図柄、中列第 1 図柄、右列第 1 図柄の停止図柄（外れ図柄）を決定するためのものであり、各列では 1 0 の第 1 図柄の何れかが表示されることから、各々に 1 0 個（ 0 ~ 9 ）のカウンタ値が用意されている。外れ図柄カウンタ C L により左図柄列の停止図柄が決定され、外れ図柄カウンタ C M により中図柄列の停止図柄が決定され、外れ図柄カウンタ C R により右図柄列の停止図柄が決定される。

【 0 1 8 7 】

本実施形態では、C P U 5 0 1 に内蔵の R レジスタの数値を用いることにより各カウンタ C L , C M , C R の値をランダムに更新する構成としている。すなわち、各外れ図柄カウンタ C L , C M , C R の更新時には、前回値に R レジスタの下位 3 ビットの値が加算され、その加算結果が最大値を超えた場合に 1 0 減算されて今回値が決定される。各外れ図柄カウンタ C L , C M , C R は更新時期が重ならないようにして通常処理内で更新され、それら外れ図柄カウンタ C L , C M , C R の組み合わせが、R A M 5 0 3 の前後外れリーチ図柄バッファ、前後外れ以外リーチ図柄バッファ及び完全外れ図柄バッファの何れかに格納される。そして、第 1 図柄の変動開始時における変動パターン決定に際し、リーチ乱数カウンタ C 3 の値に応じて前後外れリーチ図柄バッファ、前後外れ以外リーチ図柄バッファ及び完全外れ図柄バッファの何れかのバッファ値が取得される。

【 0 1 8 8 】

なお、各カウンタの大きさや範囲は一例にすぎず任意に変更できる。但し、大当たり乱数カウンタ C 1、リーチ乱数カウンタ C 3、変動種別カウンタ C S 1 , C S 2 の大きさは何れも異なる素数とし、いかなる場合にも同期しない数値としておくのが望ましい。

【 0 1 8 9 】

また図示は省略するが、第 2 図柄表示装置 4 1 の抽選には第 2 図柄乱数カウンタ C 4 が用いられる。第 2 図柄乱数カウンタ C 4 は、例えば 0 ~ 2 5 0 の範囲内で順に 1 ずつ加算され、最大値（つまり 2 5 0 ）に達した後 0 に戻るループカウンタとして構成されている。第 2 図柄乱数カウンタ C 4 は定期的に（本実施形態ではタイマ割込み毎に 1 回）更新され、遊技球が左右何れかの第 2 契機対応口 3 4 を通過した時に取得される。当選することとなる乱数の値の数は 1 4 9 あり、その範囲は「 5 ~ 1 5 3 」である。

【 0 1 9 0 】

次いで、主制御装置 2 6 1 内の C P U 5 0 1 により実行される各制御処理を図 2 6 ~ 図 3 7 のフローチャートを参照しながら説明する。かかる C P U 5 0 1 の処理としては大別して、電源投入に伴い起動されるメイン処理と、定期的に（本実施形態では 2 m s e c 周期で）起動されるタイマ割込み処理と、N M I 端子（ノンマスカブル端子）への停止信号の入力により起動される N M I 割込み処理とがあり、説明の便宜上ここでは、先ずはじめにタイマ割込み処理と N M I 割込み処理とを説明し、その後でメイン処理を説明する。

【 0 1 9 1 】

図 3 1 は、タイマ割込み処理を示すフローチャートであり、本処理は主制御装置 2 6 1 の C P U 5 0 1 により例えば 2 m s e c 毎に実行される。

【 0 1 9 2 】

図 3 1 において、先ずステップ S 6 0 1 では、各種スイッチ 2 2 1 ~ 2 2 5 等の読み込み処理を実行する。すなわち、主制御装置 2 6 1 に接続されている各種スイッチ 2 2 1 ~ 2 2 5 等（但し、R A M 消去スイッチ 3 2 3 を除く）の状態を読み込むと共に、当該スイッチ 2 2 1 ~ 2 2 5 等の状態を判定して検出情報（入賞検知情報）を保存する。

【 0 1 9 3 】

ここで、読み込みの度に、特定領域スイッチ 2 2 2 及びカウントスイッチ 2 2 3 に関し同時にオフ状態が構成されているか否か、4 つの入賞口スイッチ 2 2 1、及び、2 つの第 2 契機対応口（ゲート）スイッチ 2 2 5 に関し、同時にオフ状態が構成されているか否か

10

20

30

40

50

を判定する。そして、同時オフ状態が2回続けて判定された場合には、共通コネクタ414, 434が取り外された蓋然性が極めて高いものとして、異変信号を出力し、音声ランプ制御装置262を介して、警告音を発せしめるとともに、ランプ(別途設けたものであってもよいし、トップランプ等)で異変を報知せしめる。また、これとともに、その旨を外部出力信号として、ホールコンピュータに送信する。

【0194】

その後、ステップS602では、乱数初期値カウンタCINIの更新を実行する。具体的には、乱数初期値カウンタCINIを1インクリメントすると共に、そのカウンタ値が最大値(本実施形態では676)に達した際0にクリアする。そして、乱数初期値カウンタCINIの更新値を、RAM503の該当するバッファ領域に格納する。また、続くステップS603では、大当たり乱数カウンタC1、大当たり図柄カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の更新を実行する。具体的には、大当たり乱数カウンタC1、大当たり図柄カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3をそれぞれ1インクリメントすると共に、それらのカウンタ値が最大値(本実施形態ではそれぞれ、676, 49, 238)に達した際それぞれ0にクリアする。そして、各カウンタC1~C3の更新値を、RAM503の該当するバッファ領域に格納する。

【0195】

その後、ステップS604では、第1契機対応口33への入賞に伴う始動入賞処理を実行する。この始動入賞処理を図32のフローチャートにより説明すると、ステップS701では、遊技球が第1契機対応口33(始動口)に入賞したか否かを第1契機対応口(始動口)スイッチ224の検出情報により判別する。遊技球が第1契機対応口33に入賞したと判別されると、続くステップS702では、第1図柄表示装置42の始動保留球数Nが上限値(本実施形態では4)未満であるか否かを判別する。第1契機対応口33への入賞があり、且つ始動保留球数N<4であることを条件にステップS703に進み、始動保留球数Nを1インクリメントする。

【0196】

また、続くステップS704では、第1図柄の当落に関わる乱数を取得する。具体的には、前記ステップS603で更新した大当たり乱数カウンタC1、大当たり図柄カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3の各値を、RAM503の保留球格納エリアの空き記憶エリアのうち最初のエリアに格納する。そして、始動入賞処理の後、CPU501は本タイマ割込処理を一旦終了する。

【0197】

図33は、NMI割込み処理を示すフローチャートであり、本処理は、主制御装置261のCPU501により停電の発生等によるパチンコ機10の電源断時に実行される。このNMI割込みにより、電源断時の主制御装置261の状態がRAM503のバックアップエリア503aに記憶される。

【0198】

すなわち、停電の発生等によりパチンコ機10の電源が遮断されると、停電信号SK1が停電監視回路542から主制御装置261内のCPU501のNMI端子に出力される。すると、CPU501は実行中の制御を中断して図33のNMI割込み処理を開始する。図33のNMI割込み処理は、主制御装置261のROM502に記憶されている。停電信号SK1が出力された後所定時間は、主制御装置261の処理が実行可能となるように電源部541から電流供給がなされており、この所定時間内にNMI割込み処理が実行される。

【0199】

図33のNMI割込み処理において、先ずステップS801では、使用レジスタをRAM503のバックアップエリア503aに退避し、続くステップS802では、スタックポインタの値を同バックアップエリア503aに記憶する。さらに、ステップS803では、電源断の発生情報をバックアップエリア503aに設定し、ステップS804では、電源が遮断されたことを示す電源断通知コマンドを他の制御装置に対して送信する。

【 0 2 0 0 】

ステップ S 8 0 5 では R A M 判定値を算出し、バックアップエリア 5 0 3 a に保存する。R A M 判定値は、例えば、R A M 5 0 3 の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。ステップ S 8 0 6 では、R A M アクセスを禁止する。その後は、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるのに備え、無限ループに入る。

【 0 2 0 1 】

なお、上記の N M I 割込み処理は払出制御装置 3 1 1 でも同様に実行され、かかる N M I 割込みにより、停電の発生等による電源断時の払出制御装置 3 1 1 の状態が R A M 5 1 3 のバックアップエリア 5 1 3 a に記憶される。停電信号 S K 1 が出力された後所定時間は、払出制御装置 3 1 1 の処理が実行可能となるように電源部 5 4 1 から電源供給がなされるのも同様である。すなわち、停電の発生等によりパチンコ機 1 0 の電源が遮断されると、停電信号 S K 1 が停電監視回路 5 4 2 から払出制御装置 3 1 1 内の C P U 5 1 1 の N M I 端子に出力され、C P U 5 1 1 は実行中の制御を中断して図 3 3 の N M I 割込み処理を開始する。その内容は図 3 3 に関して説明した通りである（但し、ステップ S 8 0 4 の電源断通知コマンドの送信は除く）。

10

【 0 2 0 2 】

また、図 2 6 は、主制御装置 2 6 1 内の C P U 5 0 1 により実行されるメイン処理の一例を示すフローチャートであり、このメイン処理は電源投入時のリセットに伴い起動される。

【 0 2 0 3 】

20

先ずはじめに、ステップ S 1 0 1 では、電源投入に伴う初期設定処理を実行する。具体的には、スタックポインタに予め決められた所定値を設定すると共に、サブ側の制御装置（音声ランプ制御装置 2 6 2 , 払出制御装置 3 1 1 等）が動作可能な状態になるのを待つために例えば 1 秒程度、ウェイト処理を実行する。また、ステップ S 1 0 2 では、払出制御装置 3 1 1 に対して払出許可コマンドを送信し、続くステップ S 1 0 3 では、R A M アクセスを許可する。

【 0 2 0 4 】

その後、C P U 5 0 1 内の R A M 5 0 3 に関してデータバックアップの処理を実行する。つまり、ステップ S 1 0 4 では、電源装置 3 1 3 に設けた R A M 消去スイッチ 3 2 3 が押下（O N）されているか否かを判別し、続くステップ S 1 0 5 では、R A M 5 0 3 のバックアップエリア 5 0 3 a に電源断の発生情報が設定されているか否かを判別する。また、ステップ S 1 0 6 では R A M 判定値を算出し、続くステップ S 1 0 7 では、その R A M 判定値が電源断時に保存した R A M 判定値と一致するか否か、すなわちバックアップの有効性を判別する。R A M 判定値は、例えば R A M 5 0 3 の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。なお、R A M 5 0 3 の所定のエリアに書き込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断することも可能である。

30

【 0 2 0 5 】

上述したように、本パチンコ機 1 0 では、例えばホールの営業開始時など、電源投入時に初期状態に戻したい場合には R A M 消去スイッチ 3 2 3 を押しながら電源が投入される。従って、R A M 消去スイッチ 3 2 3 が O N されていれば、R A M の初期化処理（ステップ S 1 1 4 等）に移行する。また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、R A M 判定値（チェックサム値等）によりバックアップの異常が確認された場合も同様に R A M 5 0 3 の初期化処理（ステップ S 1 1 4 等）に移行する。つまり、ステップ S 1 1 4 では R A M 5 0 3 の使用領域を 0 にクリアし、続くステップ S 1 1 5 では R A M 5 0 3 の初期化処理を実行する。また、ステップ S 1 1 6 では割込み許可を設定し、後述する通常処理に移行する。

40

【 0 2 0 6 】

一方、R A M 消去スイッチ 3 2 3 が押されていない場合には、電源断の発生情報が設定されていること、及び R A M 判定値（チェックサム値等）が正常であることを条件に、復電時の処理（電源断復旧時の処理）を実行する。つまり、ステップ S 1 0 8 では、電源断

50

前のスタックポインタを復帰させ、ステップS 1 0 9では、電源断の発生情報をクリアする。ステップS 1 1 0では、サブ側の制御装置を電源断時の遊技状態に復帰させるためのコマンドを送信し、ステップS 1 1 1では、使用レジスタをRAM 5 0 3のバックアップエリア5 0 3 aから復帰させる。さらに、ステップS 1 1 2, S 1 1 3では、割込み許可/不許可を電源断前の状態に復帰させた後、電源断前の番地へ戻る。

【0207】

次に、通常処理の流れを図27のフローチャートを参照しながら説明する。この通常処理では遊技の主要な処理が実行される。その概要として、ステップS 2 0 1 ~ S 2 0 7の処理が4 m s e c周期の定期処理として実行され、その残余時間でステップS 2 0 9, S 2 1 0のカウンタ更新処理が実行される構成となっている。

10

【0208】

図27において、まずステップS 2 0 1では、前回の処理で更新されたコマンド等の出力データをサブ側の各制御装置に送信する。具体的には、入賞検知情報の有無を判別し、入賞検知情報があれば払出制御装置3 1 1に対して獲得遊技球数に対応する賞球払出コマンドを送信する。また、第1図柄表示装置4 2による第1図柄の変動表示に際して停止図柄コマンド、変動パターンコマンド、確定コマンド等を表示制御装置4 5に送信する。なお、第1図柄の変動開始後において、変動パターンコマンド 左図柄列の停止図柄コマンド 右図柄列の停止図柄コマンド 中図柄列の停止図柄コマンドの順で通常処理の都度1つずつ(すなわち、4 m s e c毎に1つずつ)コマンドが送出され、変動時間経過のタイミングで確定コマンドが送出されるようになっている。また、停止図柄コマンド、変動パ

20

【0209】

次に、ステップS 2 0 2では、変動種別カウンタC S 1, C S 2の更新を実行する。具体的には、変動種別カウンタC S 1, C S 2を1インクリメントすると共に、それらのカウンタ値が最大値(本実施形態では1 9 8, 2 4 0)に達した際それぞれ0にクリアする。そして、変動種別カウンタC S 1, C S 2の更新値を、RAM 5 0 3の該当するバッファ領域に格納する。続くステップS 2 0 3では、左図柄列、中図柄列及び右図柄列の各外

30

【0210】

各外れ図柄カウンタC L, C M, C Rの更新処理を詳しく説明すると、図28に示すように、ステップS 3 0 1では、左図柄列の外れ図柄カウンタC Lの更新時期か否かを判別し、ステップS 3 0 2では、中図柄列の外れ図柄カウンタC Mの更新時期か否かを判別する。そして、左図柄列の更新時期(ステップS 3 0 1がY E S)であればステップS 3 0 3に進み、左図柄列の外れ図柄カウンタC Lを更新する。また、中図柄列の更新時期(ステップS 3 0 2がY E S)であればステップS 3 0 4に進み、中図柄列の外れ図柄カウンタC Mを更新する。さらに、右図柄列の更新時期(ステップS 3 0 1、S 3 0 2が共にN O)であればステップS 3 0 5に進み、右図柄列の外れ図柄カウンタC Rを更新する。ステップS 3 0 3 ~ S 3 0 5の外れ図柄カウンタC L, C M, C Rの更新では、前回のカウンタ値にRレジスタの下位3ビットの値を加算すると共にその加算結果が最大値を超えた場合に10を減算し、その演算結果を外れ図柄カウンタC L, C M, C Rの今回値とする。

40

【0211】

上記C L, C M, C Rの更新処理によれば、左図柄列、中図柄列及び右図柄列の各外れ図柄カウンタC L, C M, C Rが1回の通常処理で1つずつ順に更新され、各カウンタ値の更新時期が重なることはない。これにより、通常処理を3回実行する毎に外れ図柄カウンタC L, C M, C Rの1セット分が更新されるようになっている。

【0212】

50

その後、ステップS306では、上記更新した外れ図柄カウンタCL, CM, CRの組み合わせがリーチ図柄の組み合わせになっているか否かを判別し、リーチ図柄の組み合わせである場合、さらにステップS307では、それが前後外れリーチであるか否かを判別する。外れ図柄カウンタCL, CM, CRが前後外れリーチの組み合わせである場合、ステップS308に進み、そのときの外れ図柄カウンタCL, CM, CRの組み合わせをRAM503の前後外れリーチ図柄バッファに格納する。外れ図柄カウンタCL, CM, CRが前後外れ以外リーチの組み合わせである場合には、ステップS309に進み、そのときの外れ図柄カウンタCL, CM, CRの組み合わせをRAM503の前後外れ以外リーチ図柄バッファに格納する。

【0213】

10

また、リーチ図柄以外の組み合わせである場合、ステップS310では、外れ図柄カウンタCL, CM, CRの組み合わせが外れ図柄の組み合わせになっているか否かを判別し、外れ図柄の組み合わせになっていれば、ステップS311に進み、そのときの外れ図柄カウンタCL, CM, CRの組み合わせをRAM503の外れ図柄バッファに格納する。なお、ステップS306、S310が共にNOの場合は、左・中・右で図柄が揃っている、すなわち大当たりの状態に相当するが、かかる場合、外れ図柄カウンタCL, CM, CRをバッファに格納することなくそのまま本処理を終了する。

【0214】

外れ図柄カウンタの更新処理の後、図27のステップS204では、払出制御装置31より受信した賞球計数信号や払出異常信号を読み込む。その後、ステップS205では、第1図柄表示装置42による第1図柄の変動表示を行うための第1図柄変動処理を実行する。この第1図柄変動処理により、大当たり判定や第1図柄の変動パターンの設定などが行われる。但し、第1図柄変動処理の詳細は後述する。

20

【0215】

その後、ステップS206では、大当たり状態となる場合において可変入賞装置32の大入賞口を開放又は閉鎖するための大入賞口開閉処理を実行する。すなわち、大当たり状態のラウンド毎に大入賞口を開放し、大入賞口の最大開放時間が経過したか、又は大入賞口に遊技球が規定数だけ入賞したかを判定する。そして、これら何れかの条件が成立すると大入賞口を閉鎖する。このとき、遊技球が特定領域を通過したことを条件に大入賞口の連続開放を許容し、これを所定ラウンド数繰り返し実行する。

30

【0216】

また、ステップS207では、第2図柄表示装置41による第2図柄の表示制御を実行する。簡単に説明すると、遊技球が第2契機対応口34を通過したことを条件に、その都度の第2図柄乱数カウンタC4が取得されると共に第2図柄表示装置41の表示部43にて第2図柄の抽選が実施され、第2図柄の当たり状態になると第1契機対応口33が所定時間開放される。なお説明は省略したが、第2図柄乱数カウンタC4も、大当たり乱数カウンタC1、大当たり図柄カウンタC2及びリーチ乱数カウンタC3と同様に、図31に示すタイマ割込処理にて更新されるようになっている。

【0217】

その後、ステップS208では、次の通常処理の実行タイミングに至ったか否か、すなわち前回の通常処理の開始から所定時間（本実施形態では4msec）が経過したか否かを判別する。そして、次の通常処理の実行タイミングに至るまでの残余時間内において、乱数初期値カウンタCINI及び変動種別カウンタCS1, CS2の更新を繰り返し実行する（ステップS209, S210）。つまり、ステップS209では、乱数初期値カウンタCINIの更新を実行する。具体的には、乱数初期値カウンタCINIを1インクリメントすると共に、そのカウンタ値が最大値（本実施形態では676）に達した際に0にクリアする。そして、乱数初期値カウンタCINIの更新値を、RAM503の該当するバッファ領域に格納する。

40

【0218】

また、ステップS210では、変動種別カウンタCS1, CS2の更新を実行する（前

50

記ステップS202と同様)。具体的には、変動種別カウンタCS1, CS2を1インクリメントすると共に、それらのカウンタ値が最大値(本実施形態では198, 240)に達した際それぞれ0にクリアする。そして、変動種別カウンタCS1, CS2の変更値を、RAM503の該当するバッファ領域に格納する。

【0219】

ここで、ステップS201～S207の各処理の実行時間は遊技の状態に応じて変化するため、次の通常処理の実行タイミングに至るまでの残余時間は一定でなく変動する。故に、かかる残余時間を使用して乱数初期値カウンタCINIの更新を繰り返し実行することにより、乱数初期値カウンタCINI(すなわち、大当たり乱数カウンタC1の初期値)をランダムに更新することができるようになる。

10

【0220】

次に、前記ステップS205の第1図柄変動処理を図29のフローチャートを参照して説明する。

【0221】

図29において、ステップS401では、今現在大当たり中であるか否かを判別する。なお、大当たり中には、大当たりの際に第1図柄表示装置42で表示される特別遊技の最中と特別遊技終了後の所定時間の最中とが含まれる。続くステップS402では、第1図柄表示装置42による第1図柄の変動表示中であるか否かを判別する。そして、大当たり中でなくさらに第1図柄の変動表示中でもない場合、ステップS403に進み、第1図柄表示装置42の始動保留球数Nが0よりも大きいかな否かを判別する。このとき、大当たり中であるか、又は始動保留球数Nが0である場合、そのまま本処理を終了する。

20

【0222】

また、大当たり中、第1図柄の変動表示中の何れでもなく且つ始動保留球数N>0であれば、ステップS404に進む。ステップS404では、始動保留球数Nを1減算する。ステップS405では、保留球格納エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、保留球格納エリアの保留第1～第4エリアに格納されているデータを実行エリア側に順にシフトさせる処理であって、保留第1エリア 実行エリア、保留第2エリア 保留第1エリア、保留第3エリア 保留第2エリア、保留第4エリア 保留第3エリアといった具合に各エリア内のデータがシフトされる。

【0223】

30

その後、ステップS406では、変動開始処理を実行する。ここで、図30のフローチャートを用いて変動開始処理の詳細を説明すると、ステップS501では、保留球格納エリアの実行エリアに格納されている大当たり乱数カウンタC1の値に基づいて大当たりかな否かを判別する。具体的には、大当たりかな否かは大当たり乱数カウンタ値とその時々モードとの関係に基づいて判別され、前述した通り通常の低確率時には大当たり乱数カウンタC1の数値0～676のうち「337, 673」が当たり値であり、高確率時には「67, 131, 199, 269, 337, 401, 463, 523, 601, 661」が当たり値である。

【0224】

大当たりであると判別された場合、ステップS502では、保留球格納エリアの実行エリアに格納されている大当たり図柄カウンタC2の値に対応する図柄、すなわち大当たり図柄を図示しないテーブル(大当たり図柄カウンタC2の値と図柄との対応関係を表すテーブル)に基づいて求め、その図柄を停止図柄コマンドに設定する。このとき、停止図柄コマンドには大当たり図柄カウンタC2の数値0～9に対応する10通りの大当たり図柄の何れかが設定される。これら大当たり図柄のうち予め定められた特定図柄で揃った場合には以後確変状態に移行するが、特定図柄でない図柄(非特定図柄)でそろった場合には確変状態に移行しない。

40

【0225】

次に、ステップS503で、大当たり時における変動パターンを決定し、当該変動パターンを変動パターンコマンドに設定する。このとき、RAM503のカウンタ用バッファ

50

に格納されている変動種別カウンタCS1, CS2の値を確認し、第1変動種別カウンタCS1の値に基づいてノーマルリーチ、スーパーリーチ、プレミアムリーチ等、第1図柄のリーチ種別やその他大まかな図柄変動態様を決定すると共に、第2変動種別カウンタCS2の値に基づいてリーチ発生後に最終停止図柄（本実施形態では中図柄）が停止するまでの経過時間（言い換えれば、変動図柄数）などより細かな図柄変動態様を決定する。なお、第1変動種別カウンタCS1の数値とリーチパターンとの関係、第2変動種別カウンタCS2の数値と停止図柄時間との関係は、それぞれにテーブル等により予め規定されている。

【0226】

一方、ステップS501で大当たりではないと判定された場合には、ステップS504で、保留球格納エリアの実行エリアに格納されているリーチ乱数カウンタC3の値に基づいてリーチ発生か否かを判別し、リーチ発生の場合、さらにステップS505で、同じくリーチ乱数カウンタC3の値に基づいて前後外れリーチであるか否かを判別する。本実施形態では、リーチ乱数カウンタC3の値は0～238の何れかであり、そのうち「0, 1」が前後外れリーチに該当し、「2～21」が前後外れ以外リーチに該当し、「22～238」がリーチなし（完全外れ）に該当する。

【0227】

前後外れリーチ発生の場合、ステップS506に進み、RAM503の前後外れリーチ図柄バッファに格納されている左・中・右の各外れ図柄カウンタCL, CM, CRの各値を停止図柄コマンドに設定する。また、ステップS507では、前後外れリーチ時における変動パターンを決定し、当該変動パターンを変動パターンコマンドに設定する。このとき、前記ステップS503と同様に、RAM503のカウント用バッファに格納されている変動種別カウンタCS1, CS2の値を確認し、第1変動種別カウンタCS1の値に基づいてノーマルリーチ、スーパーリーチ、プレミアムリーチ等、第1図柄のリーチ種別やその他大まかな図柄変動態様を決定すると共に、第2変動種別カウンタCS2の値に基づいてリーチ発生後に最終停止図柄（本実施形態では中図柄）が停止するまでの経過時間（言い換えれば、変動図柄数）などより細かな図柄変動態様を決定する。

【0228】

また、前後外れ以外リーチ発生の場合、ステップS508に進み、RAM503の前後外れ以外リーチ図柄バッファに格納されている左・中・右の各外れ図柄カウンタCL, CM, CRの各値を停止図柄コマンドに設定する。また、ステップS509では、前後外れ以外リーチ時における変動パターンを決定し、当該変動パターンを変動パターンコマンドに設定する。このとき、RAM503のカウント用バッファに格納されている変動種別カウンタCS1, CS2の値に基づいて変動パターンが決定されるのは前記ステップS503等と同様である。

【0229】

大当たりでなくリーチでもない場合、ステップS510に進み、RAM503の完全外れ図柄バッファに格納されている左・中・右の各外れ図柄カウンタCL, CM, CRの各値を停止図柄コマンドに設定する。また、ステップS511では、完全外れ時における変動パターンを決定し、当該変動パターンを変動パターンコマンドに設定する。このとき、リーチ発生しないことで、遊技者の興味は薄れ、多様な図柄変動態様は要求されない。そこで本実施形態では、ステップS511において、第1変動種別カウンタCS1だけを用いて（すなわち第2変動種別カウンタCS2を使わずに）図柄変動態様を決定する。上記の通り大当たり時、リーチ発生時、リーチ非発生時のそれぞれで図柄停止コマンド及び変動パターンコマンドの設定が完了すると、本処理を終了する。

【0230】

図29の説明に戻り、ステップS402がYES、すなわち第1図柄の変動表示中である場合には、ステップS407に進み、変動時間が経過したか否かを判別する。このとき、第1図柄の変動パターンに応じて当該第1図柄の変動時間が決められており、この変動時間が経過した時にステップS407が肯定判別される。そして、ステップS408では

、変動の停止と確認のために設定されている停止図柄を確定コマンドとして設定し、その後本処理を終了する。

【 0 2 3 1 】

次に、払出制御装置 3 1 1 内の CPU 5 1 1 により実行される払出制御について説明する。図 3 4 は、払出制御装置 3 1 1 のメイン処理を示すフローチャートであり、このメイン処理は電源投入時のリセットに伴い起動される。

【 0 2 3 2 】

まず始めに、ステップ S 9 0 1 では、電源投入に伴う初期設定処理を実行する。具体的には、スタックポインタに予め決められた所定値を設定すると共に、割込みモードを設定する。また、ステップ S 9 0 2 では、主制御装置 2 6 1 から送信される払出許可コマンドを受信するまで待機する。そして、払出許可コマンドを受信した時点でステップ S 9 0 3 に進んで RAM アクセスを許可すると共に、ステップ S 9 0 4 で外部割込みベクタの設定を行う。

【 0 2 3 3 】

その後、CPU 5 1 1 内の RAM 5 1 3 に関してデータバックアップの処理を実行する。つまり、ステップ S 9 0 5 では、電源装置 3 1 3 に設けた RAM 消去スイッチ 3 2 3 が押下 (ON) されているか否かを判別し、続くステップ S 9 0 6 では、RAM 5 1 3 のバックアップエリア 5 1 3 a に電源断の発生情報が設定されているか否かを判別する。また、ステップ S 9 0 7 では RAM 判定値を算出し、続くステップ S 9 0 8 では、その RAM 判定値が電源断時に保存した RAM 判定値と一致するか否か、すなわちバックアップの有効性を判別する。RAM 判定値は、例えば RAM 5 1 3 の作業領域アドレスにおけるチェックサム値である。なお、RAM 5 1 3 の所定のエリアに書き込まれたキーワードが正しく保存されているか否かによりバックアップの有効性を判断することも可能である。

【 0 2 3 4 】

RAM 消去スイッチ 3 2 3 が ON されていれば、RAM の初期化処理 (ステップ S 9 1 5 等) に移行する。また、電源断の発生情報が設定されていない場合や、RAM 判定値 (チェックサム値等) によりバックアップの異常が確認された場合も同様に RAM 5 1 3 の初期化処理 (ステップ S 9 1 5 等) に移行する。つまり、ステップ S 9 1 5 では RAM 5 1 3 の全領域を 0 にクリアし、続くステップ S 9 1 6 では RAM 5 1 3 の初期化処理を実行する。また、ステップ S 9 1 7 では CPU 周辺デバイスの初期設定を行うと共に、ステップ S 9 1 8 では割込み許可を設定し、後述する払出制御処理に移行する。

【 0 2 3 5 】

一方、RAM 消去スイッチ 3 2 3 が押されていない場合には、電源断の発生情報が設定されていること、及び RAM 判定値 (チェックサム値等) が正常であることを条件に、復電時の処理 (電源断復旧時の処理) を実行する。つまり、ステップ S 9 0 9 では、電源断前のスタックポインタを復帰させ、ステップ S 9 1 0 では、電源断の発生情報をクリアする。また、ステップ S 9 1 1 では、CPU 周辺デバイスの初期設定を行い、ステップ S 9 1 2 では、使用レジスタを RAM 5 1 3 のバックアップエリア 5 1 3 a から復帰させる。さらに、ステップ S 9 1 3 , S 9 1 4 では、割込み許可 / 不許可を電源断前の状態に復帰させた後、電源断前の番地へ戻る。

【 0 2 3 6 】

次に、払出制御処理の流れを図 3 5 のフローチャートを参照しながら説明する。

【 0 2 3 7 】

図 3 5 において、ステップ S 1 0 0 1 では、主制御装置 2 6 1 からのコマンドを取得し、賞球の総賞球個数を記憶する。ステップ S 1 0 0 2 では、発射制御装置 3 1 2 に対して発射許可の設定を行う。また、ステップ S 1 0 0 3 では、状態復帰スイッチ 3 2 1 をチェックして、状態復帰動作開始と判定した場合に状態復帰動作を実行する。

【 0 2 3 8 】

その後、ステップ S 1 0 0 4 では、下皿 1 5 の状態の変化に応じて下皿満タン状態又は下皿満タン解除状態の設定を実行する。すなわち、下皿満タンスイッチの検出信号により

10

20

30

40

50

下皿 15 の満タン状態を判別し、下皿満タンになった時、下皿満タン状態の設定を実行し、下皿満タンでなくなった時、下皿満タン解除状態の設定を実行する。また、ステップ S 1005 では、タンク球の状態の変化に応じてタンク球無し状態又はタンク球無し解除状態の設定を実行する。すなわち、タンク球無しスイッチの検出信号によりタンク球無し状態を判別し、タンク球無しになった特、タンク球無し状態の設定を実行し、タンク球無しでなくなった特、タンク球無し解除状態の設定を実行する。

【0239】

その後、ステップ S 1006 では、報知する状態の有無を判別し、報知する状態が有る場合には払出制御装置 311 に設けた 7 セグメント L E D により報知する。

【0240】

ステップ S 1007 ~ S 1009 では、賞球払出の処理を実行する。この場合、賞球の払出不可状態でなく、且つ前記ステップ S 1001 で記憶した総賞球個数が 0 でなければ (ステップ S 1007, S 1008 が共に N O)、ステップ S 1009 に進み、賞球制御処理 (後述する図 36) を開始する。また、賞球の払出不可状態、又は総賞球個数が 0 であれば (ステップ S 1007、S 1008 の何れかが Y E S)、貸球払出の処理に移行する。

【0241】

その後、ステップ S 1010 ~ S 1012 では、貸球払出の処理を実行する。この場合、貸球の払出不可状態でなく、且つカードユニットからの貸球払出要求を受信していれば (ステップ S 1010 が N O、S 1011 が Y E S)、ステップ S 1012 に進み、貸球制御処理 (後述する図 37) を開始する。また、貸球の払出不可状態、又は貸球払出要求を受信していなければ (ステップ S 1010 が Y E S 又は S 1011 が N O)、後続の球抜き処理を実行する。

【0242】

ステップ S 1013 では、状態復帰スイッチ 321 をチェックして球抜き不可状態でないこと、及び球抜き動作開始でないことを条件に、払出モータ 358 a を駆動させ球抜き処理を実行する。続くステップ S 1014 では、球詰まり状態であることを条件にパイプレータ 360 の制御 (パイプモータ制御) を実行する。その後、本払出制御処理の先頭に戻る。

【0243】

ここで、図 36 に示す賞球制御処理において、ステップ S 1101 では、払出モータ 358 a を駆動させて賞球の払出を実行する。続くステップ S 1102 では、払出モータ 358 a の回転が正常であるかを払出回転センサの検出結果により判別する。払出モータ 358 a の回転が正常でなければ、ステップ S 1103 に進み、払出モータ 358 a を駆動させてリトライ処理を実行すると共に払出モータ 358 a の停止処理を実行し、その後、図 35 の払出制御処理に戻る。

【0244】

また、払出モータ 358 a の回転が正常であれば、ステップ S 1104 に進み、遊技球のカウントが正常に行われているか否かを払出カウントスイッチの検出結果により判別する。遊技球のカウントが正常でなければ、ステップ S 1105 に進み、払出モータ 358 a を駆動させてリトライ処理を実行すると共に払出モータ 358 a の停止処理を実行し、その後、図 35 の払出制御処理に戻る。

【0245】

さらに、遊技球のカウントが正常であれば、ステップ S 1106 に進み、払出カウントスイッチによる遊技球のカウント数が総賞球個数に達して払出が完了したか否かを判別する。払出が完了していれば、ステップ S 1107 で払出モータ 358 a の停止処理を実行し、その後、図 35 の払出制御処理に戻る。

【0246】

また、図 37 に示す貸球制御処理において、ステップ S 1201 では、払出モータ 358 a を駆動させて貸球の払出を実行する。続くステップ S 1202 では、払出モータ 35

10

20

30

40

50

8 a の回転が正常であることを払出回転センサの検出結果により判別する。払出モータ 3 5 8 a の回転が正常でなければ、ステップ S 1 2 0 3 に進み、払出モータ 3 5 8 a を駆動させてリトライ処理を実行すると共に払出モータ 3 5 8 a の停止処理を実行し、その後、図 3 5 の払出制御処理に戻る。

【 0 2 4 7 】

また、払出モータ 3 5 8 a の回転が正常であれば、ステップ S 1 2 0 4 に進み、遊技球のカウントが正常に行われているか否かを払出カウンタスイッチの検出結果により判別する。遊技球のカウントが正常でなければ、ステップ S 1 2 0 5 に進み、払出モータ 3 5 8 a を駆動させてリトライ処理を実行すると共に払出モータ 3 5 8 a の停止処理を実行し、その後、図 3 5 の払出制御処理に戻る。

10

【 0 2 4 8 】

さらに、遊技球のカウントが正常であれば、ステップ S 1 2 0 6 に進み、払出カウンタスイッチによる遊技球のカウント数が所定の貸球個数 (2 5 個) に達して払出が完了したか否かを判別する。払出が完了していれば、ステップ S 1 2 0 7 で払出モータ 3 5 8 a の停止処理を実行し、その後、図 3 5 の払出制御処理に戻る。

【 0 2 4 9 】

以上詳述したように、本実施形態によれば、端子部 4 0 1 ~ 4 0 3 及び各端子部 4 0 1 ~ 4 0 3 に接続されたケーブルコネクタ C C のコネクタ C N がコネクタカバー 4 1 1 で覆われることとしている。そして、コネクタ C N を不正に取り外した上で、所謂ぶら下げ基板を装着したり、主基板を不正品に取り替える等の悪質な行為を行おうとしても、コネクタカバー 4 1 1 を取り外さない限りはカバー壁部 4 1 2 が邪魔をしてコネクタ C N の取り外しが事実上不可能となっていることから、そのような行為を抑止することができる。

20

【 0 2 5 0 】

しかも、コネクタカバー 4 1 1 及び基板ボックス 2 6 3 双方に跨るようにして封印シール 4 2 1 が取付されていることから、万が一コネクタカバー 4 1 1 を取り外した場合には、封印シール 4 2 1 にその痕跡が残り、それを確認することで不正行為を容易に発見することができる。そのため、不正行為の直接的な防止はもとより、不正行為を早期発見できるという側面からも不正行為の抑止を図ることができる。

【 0 2 5 1 】

また、コネクタカバー 4 1 1 の一部と基板ボックス 2 6 3 の一部とが隣接状態かつ略面一状態となるよう構成され、当該略面一となる部位に、封印シール 4 2 1 が取付される。従って、その貼付面ほぼ全域を有効に、かつ容易に貼付でき、封印シール 4 2 1 の取付状態の安定化を図ることができる。

30

【 0 2 5 2 】

さらに、本実施形態では、コネクタカバー 4 1 1 が基板ボックス 2 6 3 に対して移動不能状態で当接させられるとともに、その係止爪 4 1 5 が取付台 2 5 1 に係止させられることで取付けられる。この場合、コネクタカバー 4 1 1 及び取付台 2 5 1 間には、主基板を被包する基板ボックス 2 6 3 が存在することから、コネクタカバー 4 1 1 を取り外さない限りは取付台 2 5 1 から基板ボックス 2 6 3 を取り外すことができない。そのため、コネクタ C N を取り外さなければ基板ボックス 2 6 3 を取り外すことができないのは勿論ではあるが、上記側面からも、基板ボックス 2 6 3 を別途の改造品に取り替えるといった悪質行為をより直接的に防止することができる。また、上記構成より、いわばワンタッチでの取付が可能で、取付作業の簡素化及び取付状態の安定化を図ることができる。

40

【 0 2 5 3 】

また一方で、正当な理由からコネクタ C N を取り外し、基板ボックス 2 6 3 の開放、基板ボックス 2 6 3 の取り外し等を行う場合には、係止爪 4 1 5 の係止を解除して (アーム部 4 1 4 を弾性変形させて) コネクタカバー 4 1 1 を取り外す (この場合、封印シール 4 2 1 は破壊等されるが正当な理由であるため問題ない) という比較的簡単な作業を行った後に従来と同じような作業を行えばよい。すなわち、正当な理由の下で行う作業の効率を妨げることなく不正行為のみを抑止等することができる。

50

【0254】

また、特に、本実施形態では、コネクタカバー411は、カバー壁部412、天壁部413、アーム部414、係止爪415、支持壁部416、側壁部417及び連結カバー部418を具備する。そして、カバー壁部412により、コネクタCNの抜け方向側の面が覆われているため、コネクタCNを抜くことが困難となる。また、支持壁部416が基板ボックス263に支持された状態で、係止爪415が係止されているため、基本的には係止爪415による係止を解除しない限りは、コネクタカバー411の取り外しができず、かかる意味でもコネクタの取り外しが困難となる。

【0255】

しかも、本実施形態では、コネクタカバー411の取付状態においては、支持壁部416が、被包壁部263K及びコネクタCNによりほぼ挟持されるよう構成されている。このため、支持壁部416を傾動させることが事実上不能となり、係止爪415の係止を解除せずに、かつ、封印シール421に痕跡を残すことなくコネクタ411を取り外すことなどは事実上できない。ちなみに、封印シール421を剥離させることなく（カバー壁部412と基板ボックス263との境界部分の位置関係を変えないこと）係止爪415による係止を解除して支持壁部416先端を上方に傾動させようとしても、支持壁部416の先端は、コネクタCN（端子部401～403）に干渉して傾動させることはできない。係る観点からもコネクタCNを不正に取り外すことは不可能といえる。このように、ケーブルコネクタCCのコネクタCNを不正に取り外した上で悪質な行為を行おうとしても、コネクタCNの取り外しが困難となっていることから、そのような行為をより効果的に抑止することができる。そればかりか、コネクタカバー411を取り外した場合に痕跡が残るため、それを確認することで不正行為を容易に発見することができるという上記効果に結びつく。

【0256】

さらに、上記のとおり、コネクタCNの不正な取り外しが不可能となっていることから、万が一係止爪415による係止を解除して取付台251に対する基板ボックス263の装着を解除しようとしても、コネクタCNから延びるケーブルCAがパチンコ機本体側のスイッチ225、224及び大入賞口ソレノイドへと接続されている。そのため、事実上基板ボックス263を不正に持ち去る行為も防止できる。そのため、上述した各種不正防止に関する作用効果をより確実に奏せしめることができる。

【0257】

併せて、コネクタカバー411の取付状態において、ケーブルコネクタCCのケーブルCAが導出される開口419が形成される。このため、ケーブルコネクタCCの接続状態に支障を来すことがなく、また、ケーブルCAに悪影響を与えることがない。

【0258】

併せて、本実施形態ではコネクタカバー411で覆われることで、コネクタCNへの接触が事実上不可能となっている。すなわち、コネクタCNの下面側は支持壁部416で、側面側は側壁部417で、コネクタCNの抜け方向側はカバー壁部412でそれぞれ覆われており、しかもコネクタCNの上面側は、天壁部413のみならず、連結カバー部418で覆われている。これにより、コネクタCN自身への外部からの接触が禁止される。一方で、連結カバー部418を上方に幾分膨出した構造としているため、ケーブルCA用の開口419を確保することができる。その結果、コネクタカバー411を取外すことなくコネクタCNに直接接触する行為をより確実に防止しつつ、コネクタCNへの悪影響の防止も図られる。

【0259】

加えて、本実施形態のように、複数の端子部401～403に接続された複数のケーブルコネクタCCのコネクタCNが1つのコネクタカバー411で覆われる構成とすることで、構造の煩雑化を防止できる。また、上記のように一括して覆う構成とすることで検査等をより円滑に行うことができる。特に、本実施形態では、各端子部401～403は、第2契機対応口（スルーゲート）34に対応して設けられた第2契機対応口（ゲート）ス

10

20

30

40

50

イチ 225、第1契機対応口(始動口)33に対応して設けられた第1契機対応口(始動口)スイッチ224、可変入賞装置32に対応して設けられた大入賞口ソレノイドとの間で信号を送受信するケーブルコネクタCCのコネクタCNが接続される。これらに関し「ぶら下げ」等の行為が行われると、遊技場、ひいては遊技者に不利益が及ぶことになるが、本実施形態のような構成を採用することで、そのような不正行為をより確実に防止できる。

【0260】

なお、上述した実施形態の記載内容に限定されず、例えば次のように実施してもよい。

【0261】

(a) 上記実施形態では、係止爪415を取付台251に係止させることとしているが、基板ボックス263に係止させることとしてもよいし、双方251、263に係止させることとしてもよい。

10

【0262】

(b) アーム部414は必ずしも上記のような構成となっていなくてもよく、例えば1つの板状のアーム部としてもよいし、3本以上からなっているとしてもよい。

【0263】

(c) 天壁部413、連結カバー部418等を省略した構成としてもよい。すなわち、各壁部は、基板ボックスの形状、寸法等に応じて適宜変更、省略することが可能である。

【0264】

(d) 上記実施形態以外の電気部品用のケーブルコネクタの接続される端子部にも適用可能である。すなわち、昨今では、制御手段のリセット行為を行った上で、不正にタイミングを同期させ、特別遊技状態を発生させるという手口による不正行為が行われるようになってきている。そして、かかる行為の横行を抑制するべく、制御手段のリセット行為(例えばRAMのデータ消去等)が行われた場合には、それに関する情報を表示制御装置へ出力し、表示装置を介して遊技場関係者等に教示させることが考えられる。この点、表示制御装置用のケーブルコネクタのコネクタを覆うよう構成することで、当該コネクタ等に関する不正行為をより確実に防止できる。

20

【0265】

(e) 対象となる端子部は1つであってもよい。また、端子部の配置についても上記実施形態のものに限定されない。

30

【0266】

(f) 係止爪415に加えて、他の係止構造を採用してもよい。

【0267】

(g) 上記実施形態では特に言及しなかったが、コネクタカバー411自身に対し、固有の情報を付すこととしてもよい。固有の情報としては、例えば製造会社名、機種名、ロット番号等が挙げられ、情報の付し方としては、例えば刻印、印刷等が挙げられる。このように構成することで、万が一不正が行われ、別のコネクタカバーが取付けられたとしても、固有の情報が相違していれば、当該不正を発見することができる。

【0268】

(h) また、コネクタカバー411に対し、少なくとも遊技の制御とは無関係の固有のIDデータ等が記憶されてなる超小型チップ(図示略)を設けることとしてもよい。超小型チップは図示しない無線外部リーダからの無線波の発信に伴い、自ら起電可能に構成されるものである。なお、固有のIDデータ等が改ざん不能に構成されることとしてもよく、この場合、一旦IDデータ等が記憶されてしまえば、二度と改ざんすることができない。そのため、超小型チップに別の情報を記憶させ、これにより不正の隠滅を図るという悪質な行為を抑制することができる。

40

【0269】

(i) 上記実施形態では、封印シール421を取着することとしているが、コネクタカバー411が取り外された場合に痕跡が残るのであれば、かかる封印シールを省略することとしてもよい。例えば、コネクタカバーを破壊しない限り、コネクタCNを取り外すこ

50

とができないような構成とすることが考えられる。より具体的には、係止爪 4 1 5 に瞬間接着剤等を付着せしめたり、係止爪 4 1 5 と取付台 2 5 1 とを同一素材とした上で相互に溶着させること等が考えられる。このような取付構造とすることで、コネクタカバー 4 1 1 を取り外そうとした場合には、係止爪 4 1 5 等を界面剥離させることができなくなり、脆性破壊を起こす。結果としてコネクタカバー 4 1 1 に所定の痕跡が残ることとなる。

【 0 2 7 0 】

(j) 上記実施形態とは異なるタイプのパチンコ機等として実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回 (例えば 2 回、3 回) 大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機 (通称、2 回権利物、3 回権利物と称される) として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に所定の領域に遊技球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。さらに、羽根モノと称されるパチンコ機に適用することも可能である。また、パチンコ機以外にも、アレンジボール機や、それに類する雀球等の各種遊技機として実施することも可能である。また、パチンコ機以外にも、回胴式遊技機としてのスロットマシン、アレンジボール機、それに類する雀球等の各種遊技機として実施することも可能である。なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して、図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が挙げられる。また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機として実施してもよい。具体例としては、複数の識別情報からなる識別情報列 (具体的にはリールであり、識別情報はリールに付されたシンボルである) を変動表示 (具体的にはリールの回転である) した後に識別情報を確定停止表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段 (例えば操作レバー) の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段 (例えばストップボタン) の操作に起因して或いは所定時間経過することにより識別情報の変動が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として遊技球を使用するとともに、前記識別情報の変動開始に際しては所定数の遊技球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの遊技球が払い出されるものである。

【 0 2 7 1 】

(k) 上記実施形態では、コネクタカバー 4 1 1 の取付状態においては、支持壁部 4 1 6 が、被包壁部 2 6 3 K 及びコネクタ C N によりほぼ挟持されるよう構成されているが、コネクタ C N が端子部に対し外嵌されるタイプにあっては、支持壁部 4 1 6 が、被包壁部 2 6 3 K 及び端子部によりほぼ挟持されるよう構成してもよい。

【図面の簡単な説明】

【 0 2 7 2 】

【図 1】一実施形態におけるパチンコ機を示す正面図である。

【図 2】内枠及び前面枠セットを開放した状態のパチンコ機を示す斜視図である。

【図 3】前面枠セットを開放した状態における内枠等を示す正面図である。

【図 4】遊技盤の構成を示す正面図である。

【図 5】前面枠セットの構成を示す背面図である。

【図 6】パチンコ機の構成を示す背面図である。

【図 7】パチンコ機裏面における第 1 制御基板ユニット、第 2 制御基板ユニット及び裏パックユニットの配置を示す模式図である。

【図 8】内枠及び遊技盤の構成を示す背面図である。

【図 9】内枠の背面構成を示す斜視図である。

【図 10】支持金具の構成を示す斜視図である。

【図 11】第 1 制御基板ユニットの構成を示す正面図である。

【図 12】第 1 制御基板ユニットの構成を示す斜視図である。

【図 13】第 1 制御基板ユニットの分解斜視図である。

【図 14】第 1 制御基板ユニットの背面構成を示す分解斜視図である。

【図 1 5】第 2 制御基板ユニットの構成を示す正面図である。

【図 1 6】第 2 制御基板ユニットの構成を示す斜視図である。

【図 1 7】第 2 制御基板ユニットの分解斜視図である。

【図 1 8】裏パックユニットの構成を示す正面図である。

【図 1 9】裏パックユニットの分解斜視図である。

【図 2 0】タンクレールの分解斜視図である。

【図 2 1】パチンコ機的主要な電氣的構成を示すブロック図である。

【図 2 2】第 1 制御基板ユニットの特徴的構成を模式的に示す分解斜視図である。

【図 2 3】(a) はコネクタカバーの側面図、(b) はコネクタカバーの底面図である。

【図 2 4】(a) はコネクタカバーを取着した状態における図 2 3 (b) の J - J 線断面図、(b) はコネクタカバーを取着した状態における図 2 3 (b) の K - K 線断面図である。

10

【図 2 5】遊技制御に用いる各種カウンタの概要を示す説明図である。

【図 2 6】主制御装置によるメイン処理を示すフローチャートである。

【図 2 7】通常処理を示すフローチャートである。

【図 2 8】外れ図柄カウンタの更新処理を示すフローチャートである。

【図 2 9】第 1 図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図 3 0】変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 3 1】タイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図 3 2】始動入賞処理を示すフローチャートである。

20

【図 3 3】N M I 割込み処理を示すフローチャートである。

【図 3 4】払出制御装置のメイン処理を示すフローチャートである。

【図 3 5】払出制御処理を示すフローチャートである。

【図 3 6】賞球制御を示すフローチャートである。

【図 3 7】貸球制御を示すフローチャートである。

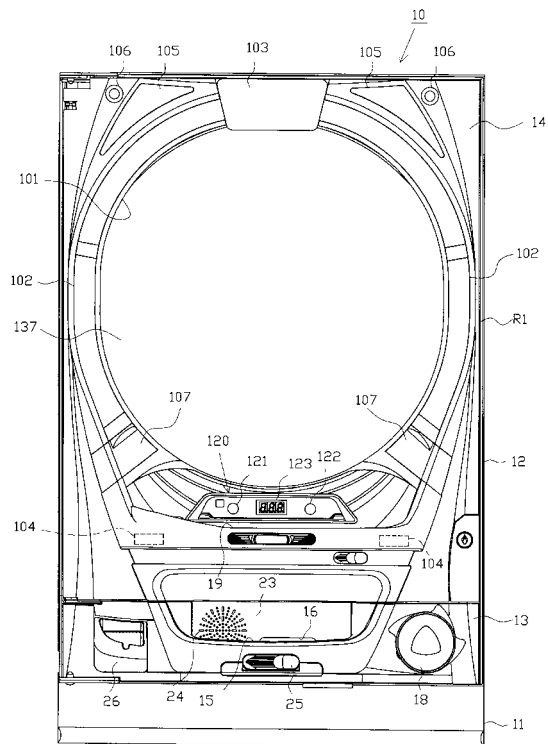
【符号の説明】

【 0 2 7 3 】

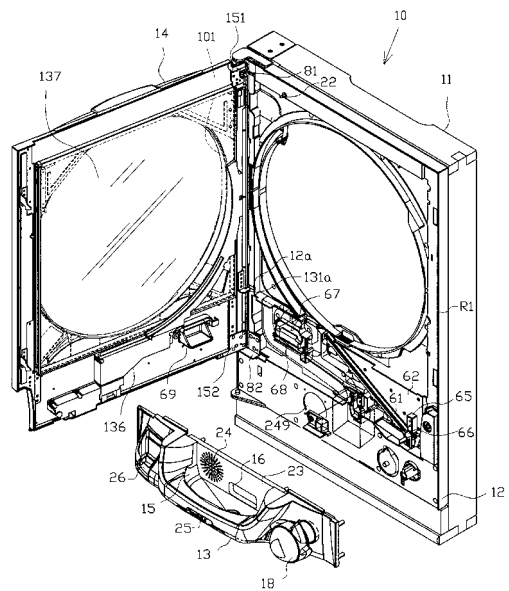
1 0 ... 遊技機としてのパチンコ機、3 0 ... 遊技領域を構成する遊技盤、2 2 4 ... 入球検出手段としての第 1 契機対応口 (始動口) スイッチ、2 2 5 ... 入球検出手段としての第 2 契機対応口 (ゲート) スイッチ、2 6 1 ... 主基板 (主制御装置)、2 5 1 ... 相手先部材としての取付台、2 6 3 ... 被包部材としての基板ボックス、2 6 3 T ... 被包棚部、2 6 3 K ... 被包壁部、4 0 1 , 4 0 2 , 4 0 3 ... 端子部、4 1 1 ... 被覆手段としてのコネクタカバー、4 1 2 ... カバー壁部、4 1 4 ... アーム部、4 1 5 ... 係止部としての係止爪、4 1 6 ... 支持壁部、4 1 7 ... 側壁部、4 1 8 ... 連結カバー部、4 1 9 ... 開口、4 2 1 ... 封印手段としての封印シール、C C ... ケーブルコネクタ、C A ... ケーブル、C N ... コネクタ。

30

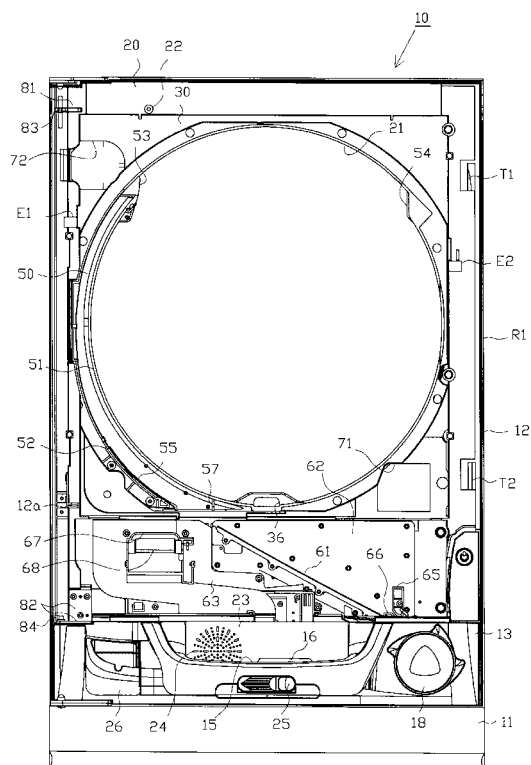
【 図 1 】



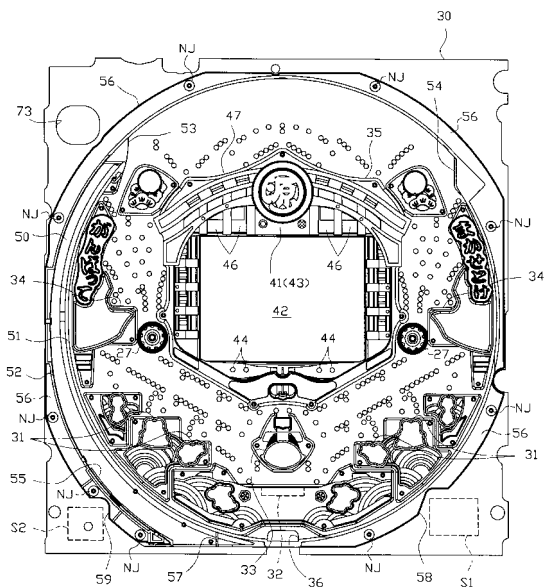
【 図 2 】



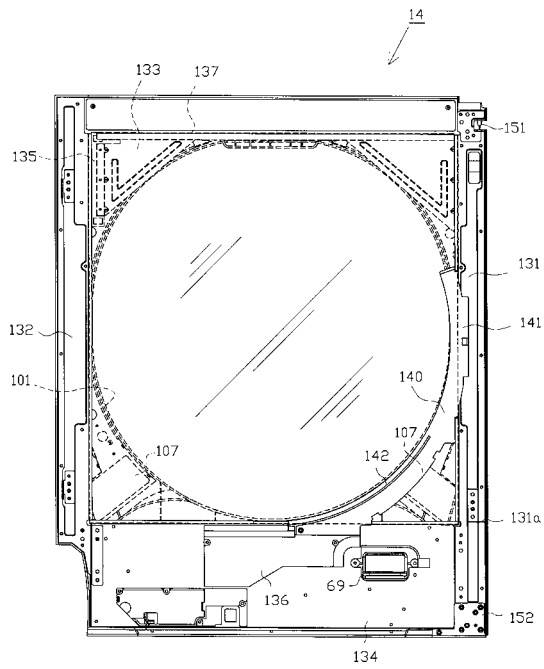
【 図 3 】



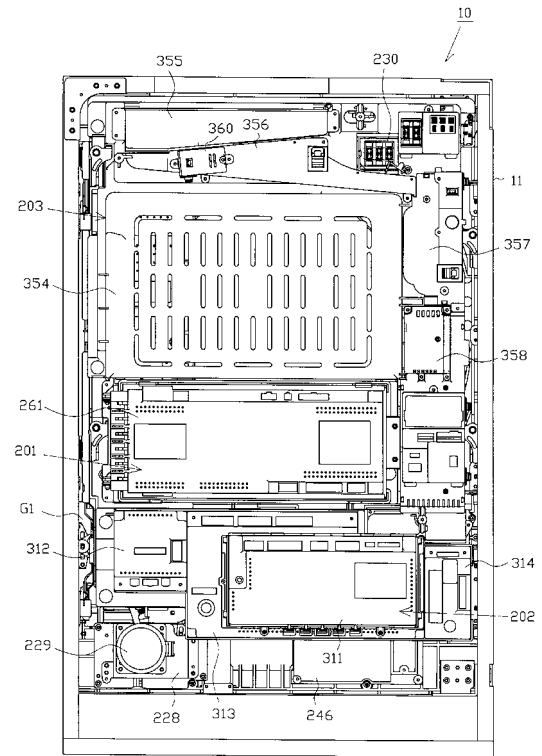
【 図 4 】



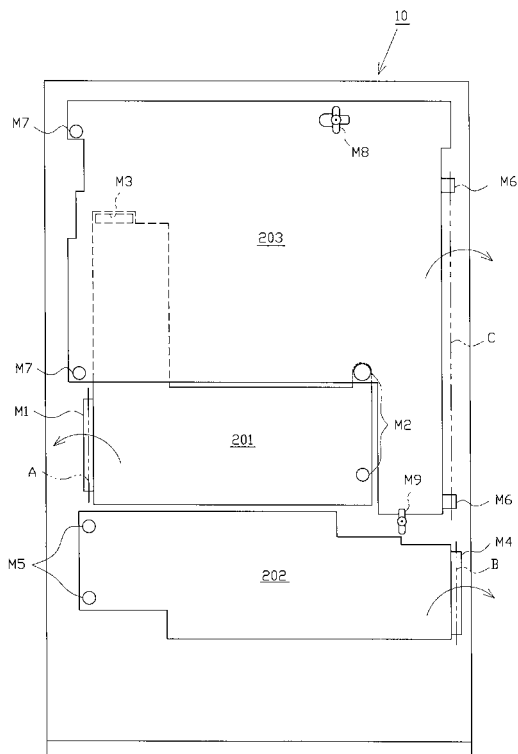
【図 5】



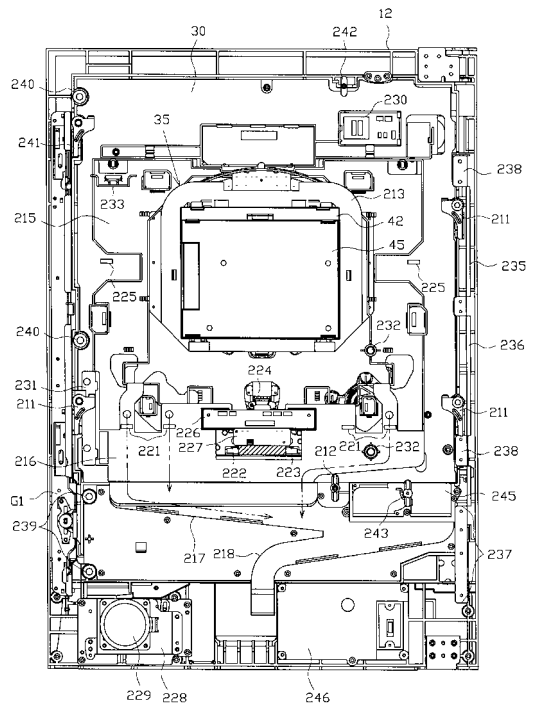
【図 6】



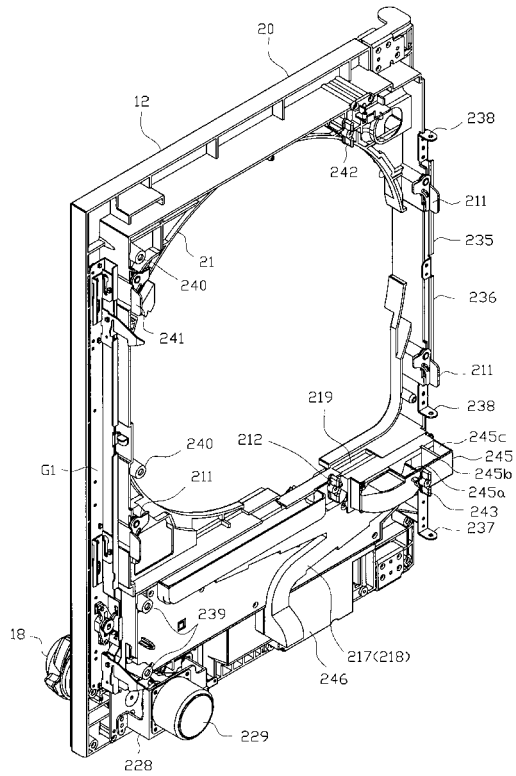
【図 7】



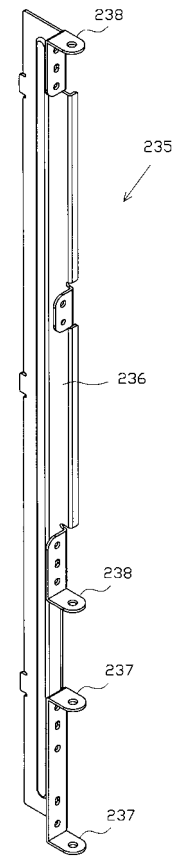
【図 8】



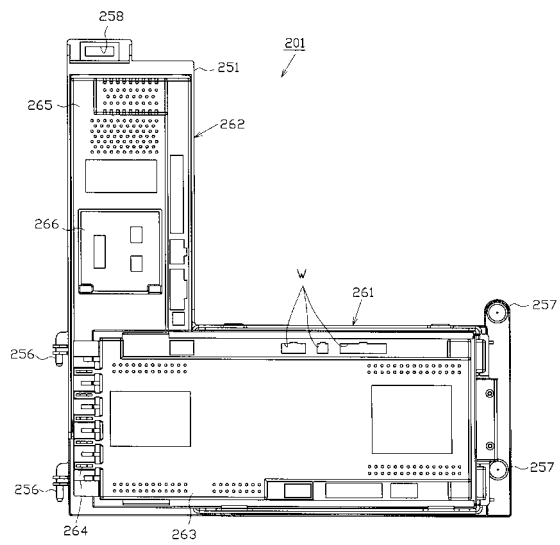
【図 9】



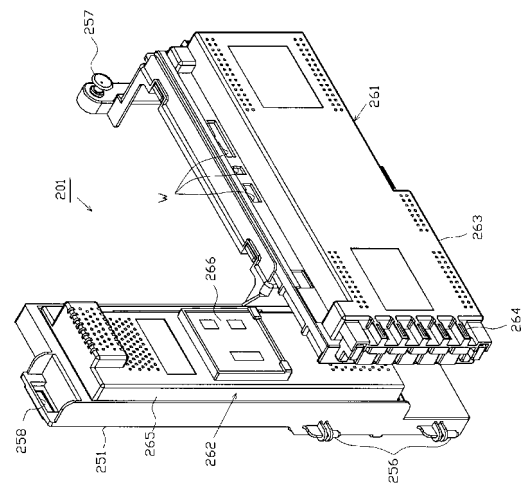
【図 10】



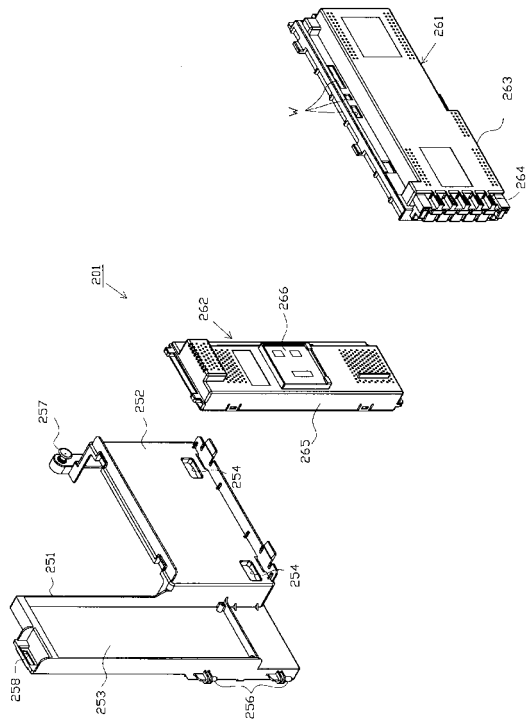
【図 11】



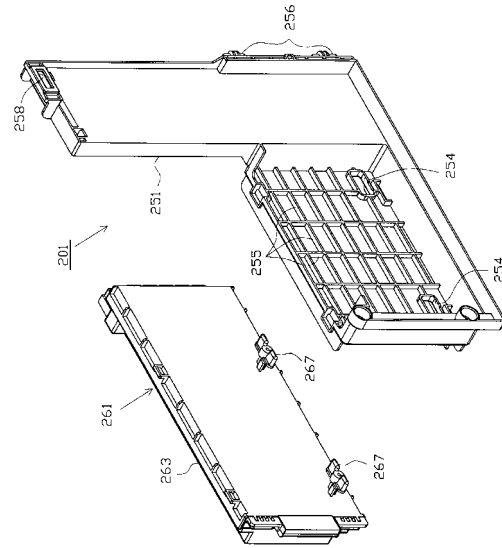
【図 12】



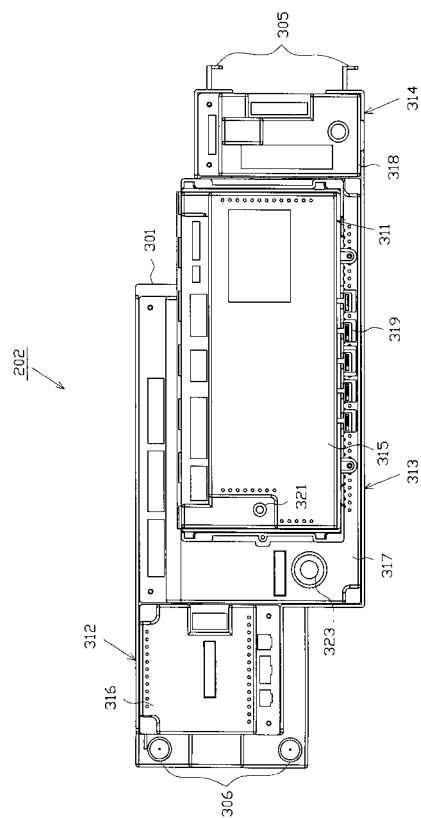
【図 13】



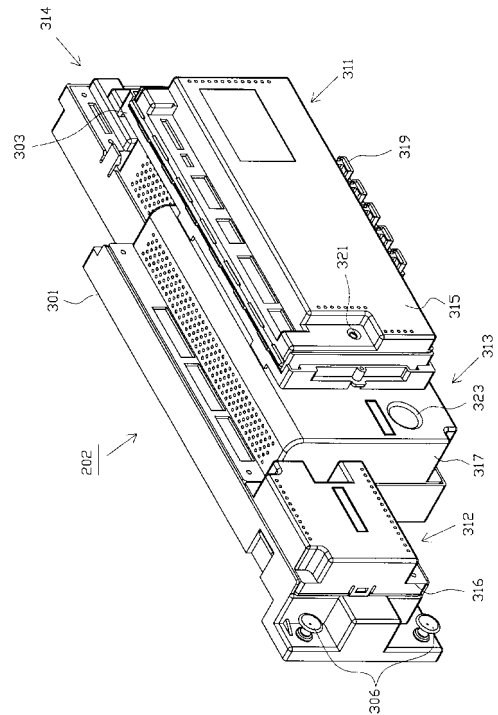
【図 14】



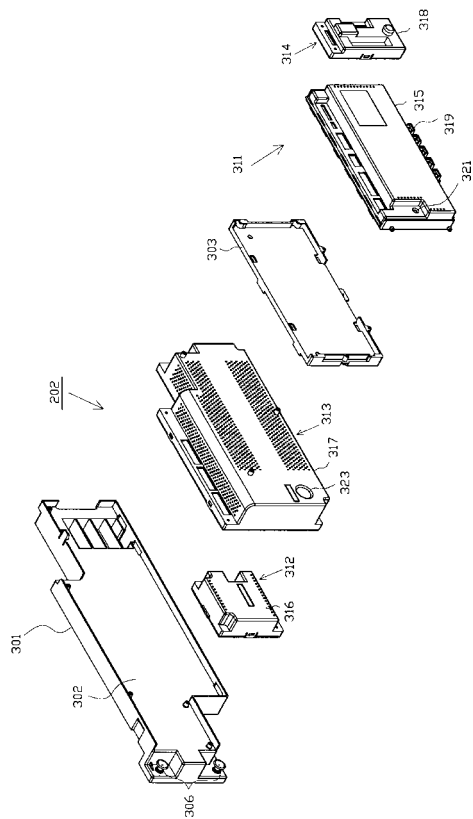
【図 15】



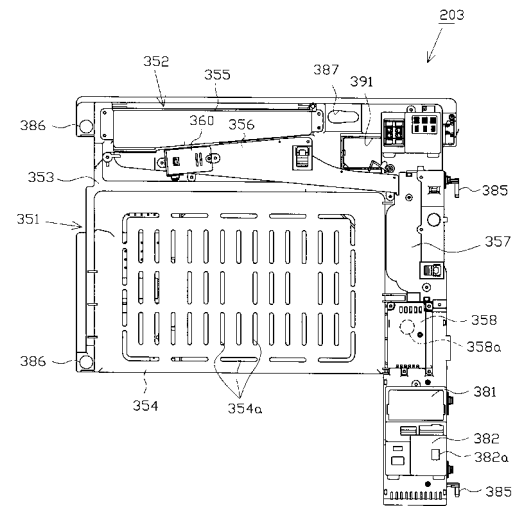
【図 16】



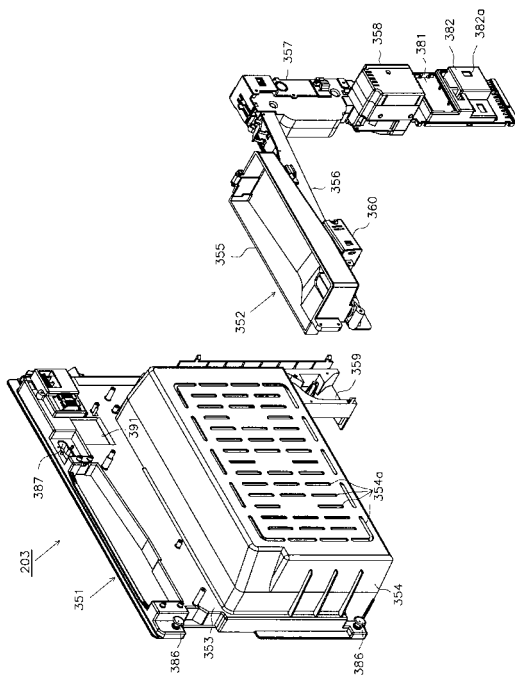
【図 17】



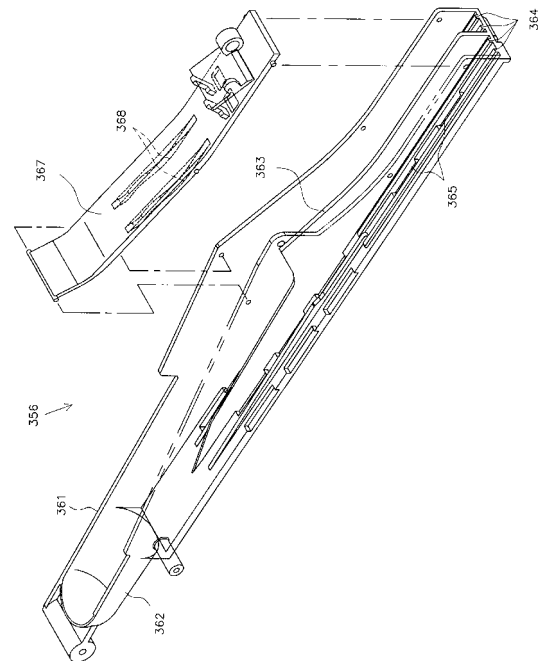
【図 18】



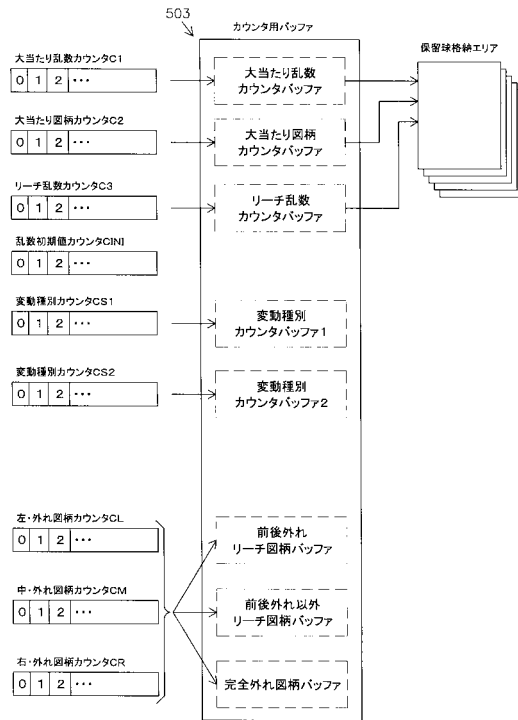
【図 19】



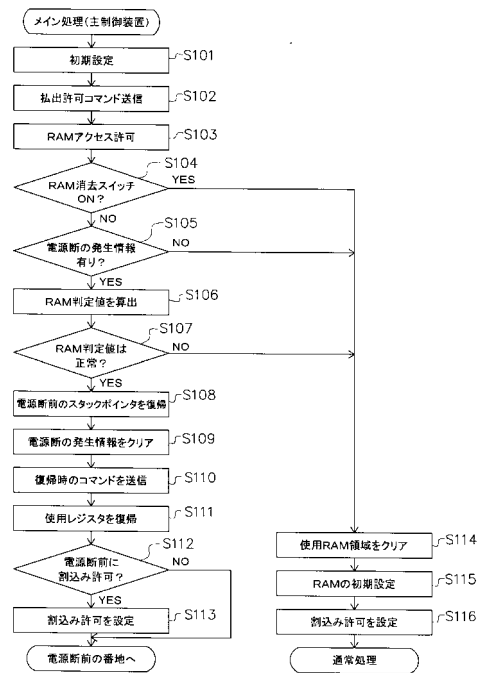
【図 20】



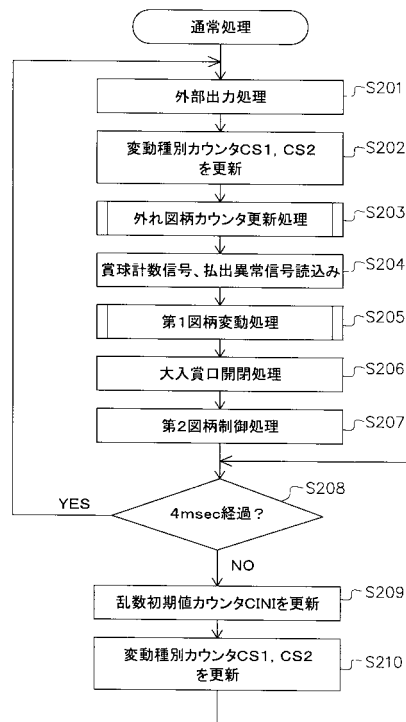
【図 25】



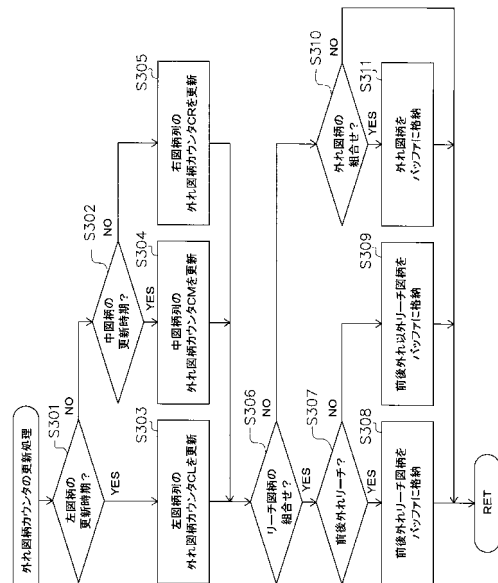
【図 26】



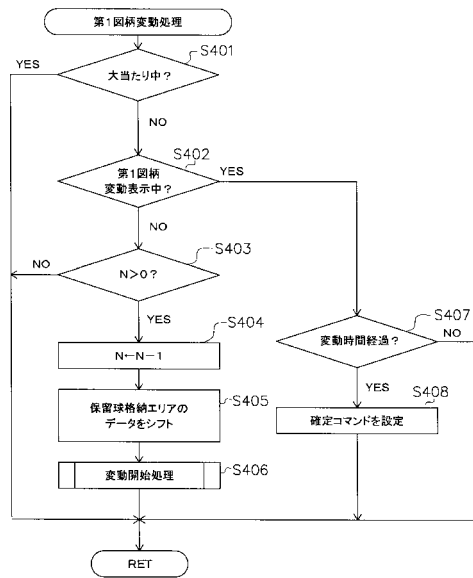
【図 27】



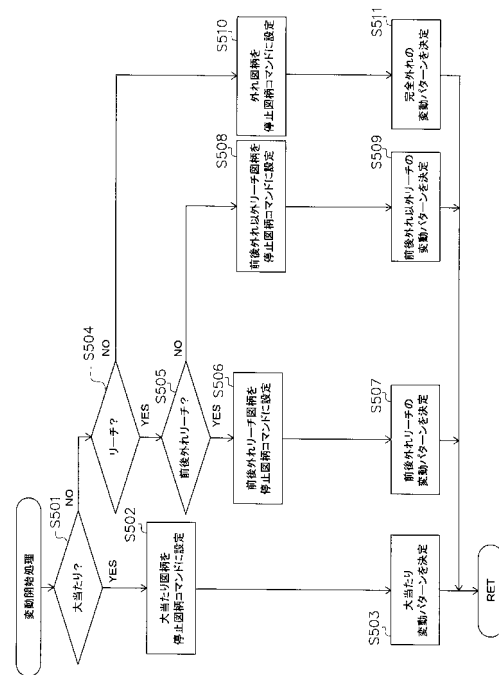
【図 28】



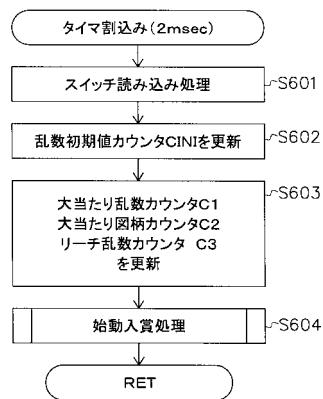
【図 29】



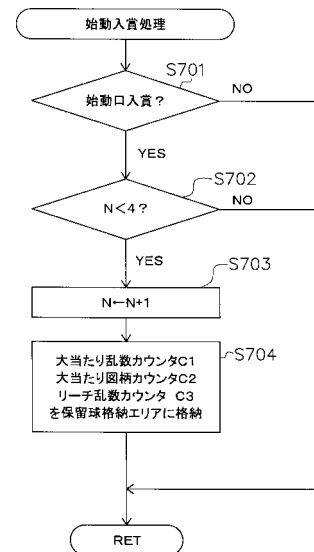
【図 30】



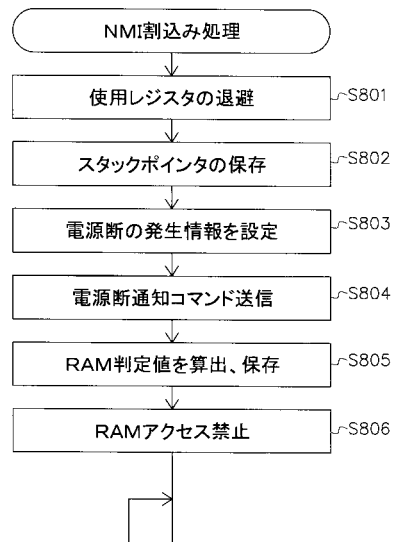
【図 31】



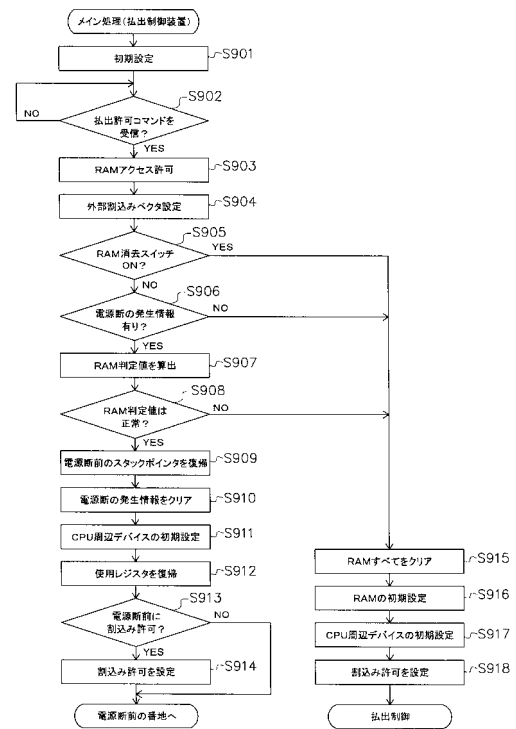
【図 32】



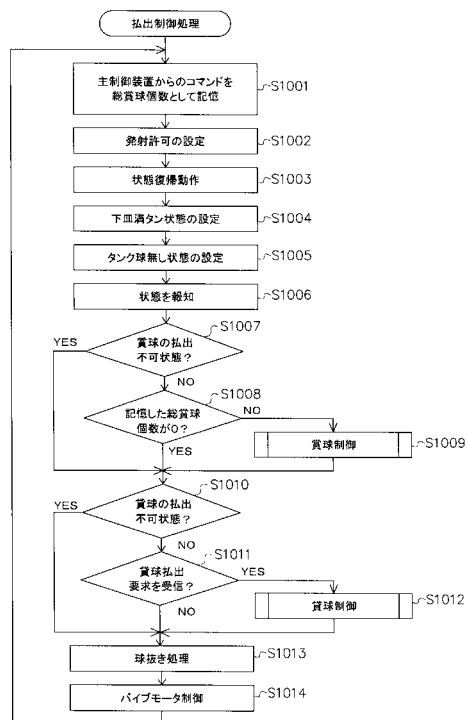
【図 3 3】



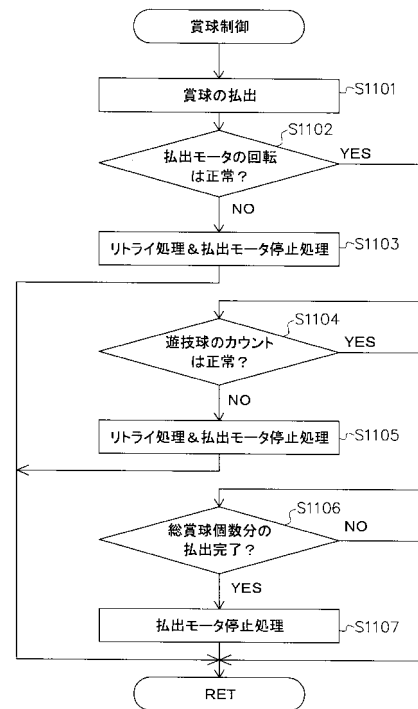
【図 3 4】



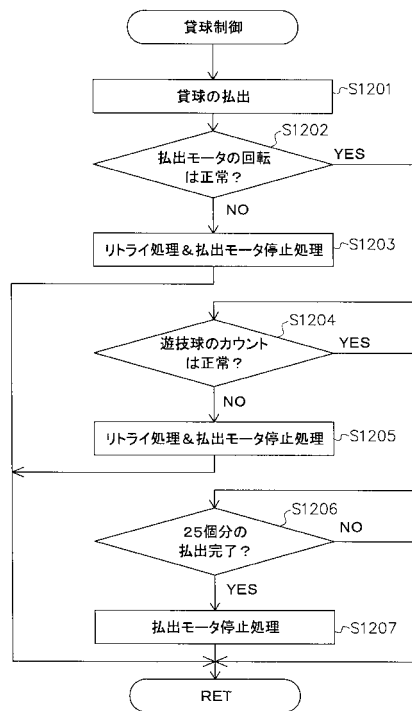
【図 3 5】



【図 3 6】



【図 37】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2002-159709(JP,A)
特開2000-140354(JP,A)
特開2002-119719(JP,A)
登録実用新案第3038245(JP,U)
特開平06-269539(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02